

2024年度 スポーツ科学部 履修要項



この冊子は卒業まで使用します。
大切に保管してください。

この冊子は履修・学修を進めるにあたっての基本事項を
まとめたものです。次年度以降の配布はありませんので、
大切に扱ってください。

※記載内容を変更する場合がありますので、
「UNIVERSAL PASSPORT」等で確認してください。



学校法人 桐蔭学園
桐蔭横浜大学

2024年度

桐蔭横浜大学で学ぶ

桐蔭横浜大学で学ぶ

1 はじめに 4

- 1 生涯スポーツ社会を支える人材に 4
- 2 大学での学びへ 5
 - (1) 自分の4年間のイメージを創る 5
 - (2) 大学の授業で学ぶ 6
 - (3) 教員とコミュニケーションをとる 6
 - (4) 情報は自らつかむ 8

2 教育の基本と仕組み 9

- 1 スポーツ科学部の教育の基本 9
 - (1) 教育の基本理念・目的 9
 - (2) 学科の特色 9
- 2 学修に関する基本事項 12
 - (1) 修学年限と在学年限 12
 - (2) 学年、学期 12
 - (3) 授業時間割 12
 - (4) クラスおよびクラス担任について 12
 - (5) 学 位 12

履 修 要 項

1 履修の手引き 14

- 1 カリキュラムを理解するために 14
 - (1) カリキュラムの基本構成 14
 - (2) 単位制度 15
 - (3) 単位算定の基準 15
 - (4) 学年制度 15
 - (5) 卒業に必要な単位数 16
 - (6) 履修上の留意点 16
- 2 MASTについて 17
 - (1) MASTの概要 17
 - (2) 大学共通の学習支援 19
 - (3) MAST A科目 20
 - (4) MAST B科目 21
 - (5) MAST C科目 22
 - (6) ウェルビーイングプログラム 23
 - (7) 各コンポで学べること 23
- 3 授業科目一覧 28
 - 1) スポーツ教育学科教育課程表
(一般教育科目) 28
 - 2) スポーツ教育学科教育課程表
(専門科目) 30
 - 3) スポーツ健康科学科教育課程表
(一般教育科目) 33
 - 4) スポーツ健康科学科教育課程表
(専門科目) 35

履修上の諸注意

- (1) 履修計画を立てる前に知っておきましょう 38
- (2) 留年しないために 39
- (3) 卒業見込み証明書発行基準 40
- (4) 履修科目を登録する (履修申告) 40
- (5) 学部外で修得した単位の認定 42

2 授業・試験・成績評価 44

1 授業	44
(1) 授業時間	44
(2) 受講上の心得	44
(3) 実技科目受講上の注意	45
(4) 授業の欠席について	45
(5) 公共交通機関の遅延等について	46
(6) 休講と補講	47
(7) 緊急時の授業の取り扱い	47
2 試験	48
(1) 定期試験と授業内試験	48
(2) 追試験	48
(3) 再試験	48
(4) 試験に関する注意事項	49
(5) レポートの書式と提出ルール	49
3 成績評価	50
(1) 成績評価の方法	50
(2) 成績の通知	50
(3) 成績照会	50
(4) GPA制度	50
4 卒業延期制度	51
(1) 申請条件	51
(2) 期間	51
(3) 卒業時期	51
(4) 身分	51
(5) 授業科目の履修	51
(6) 納付金	51

3 実習と特別プログラム 52

1 学校インターンシップ実習	53
2 国際コミュニケーション実習Ⅰ～Ⅲ	53
3 学校体験実習(中・高)	56
4 シーズンスポーツ論Ⅰ・Ⅱ(演習を含む)	57
5 スポーツプロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ	58
6 自然活動論Ⅰ・Ⅱ(演習を含む)	59
7 学校体験実習(小)	60
8 スポーツインターンシップ実習	61
9 スポーツコーチング実習Ⅰ・Ⅱ	62
10 スポーツ現場実習Ⅰ～Ⅴ	62

4 専門演習(ゼミ)の選択から卒業まで 63

(1) 「専門演習(ゼミ)」について	63
(2) 専門演習から卒業研究へ	63
(3) 卒業研究への流れ	64
(4) 卒業研究テーマ	64

5 免許・資格を取得する 65

1 教育職員免許状(教員免許)	65
2 その他の免許・資格	66
(1) 「スポーツ指導者」資格 講習・試験免除適応コース	67
(2) 「健康運動実践指導者」資格	68
(3) 「パラスポーツ指導者」資格 (初級パラスポーツ指導員)	69
(4) JATI認定トレーニング指導者資格 (JATI-ATI)	70
(5) JPSUスポーツトレーナー資格 (JPSU-ST)	70
(6) Certified Strength and Conditioning Specialist (NSCA-CSCS)	71
(7) アスレティックトレーナー資格 (JSPO-AT)【予定】	71
教職課程の手引き	72

資料編 93

校舎平面図	94
キャンパスマップ	112

スポーツ科学部 教員連絡先一覧	114
スポーツ科学部 レポート提出用カバーシート	115

1 はじめに

- **スポーツ科学部は**
「スポーツ」と「健康科学」を学際的に追究する。

1 生涯スポーツ社会を支える人材に

スポーツ基本法では「スポーツは世界共通の人類の文化」とであると謳われています。

スポーツは人々に大きな感動・夢・楽しみ・活力などをもたらすものであり、文化的で豊かな生活はもとより心身の健全な発達にとっても不可欠なものです。また、人々のスポーツへのかかわり方も、自らの力量に応じて楽しみ文化としてのスポーツを享受する「するスポーツ」、自らの感覚を駆使してスポーツを楽しむ「見るスポーツ」、行うのではなくスポーツ環境を整えたり支援したりする「支えるスポーツ」など多様となっています。今や、我が国には、多年代の人々が各自の興味・関心等に基づいてスポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」が到来したと言っても過言ではありません。

生涯スポーツ社会の到来に伴うスポーツ人口の増大は、スポーツ指導者の充実、スポーツ施設設備の整備、スポーツ産業の発達、スポーツメディアの発達、行政などでのスポーツ専門家の活用などをもたらしました。スポーツを専門に学んだ者の活躍の場は今後ますます拡がりを見せていくことでしょう。今後、最新の知見を身につけたスポーツ専門家の需要はさらに増えていくことでしょう。

このような情勢にあって、スポーツ科学部の大きな役割は、“スポーツという分野の確かな専門知識を持ちながら多様な分野の他者と協働し、融合することで新たな知見を生み出すことのできるスポーツ専門家を養成する”ことです。そのため、スポーツ科学部は、「スポーツ」と「健康科学」に関する多彩な講義や実験・実習科目を提供します。そこでの学びは、必ず皆さんの未来を切り拓いていく原動力になります。

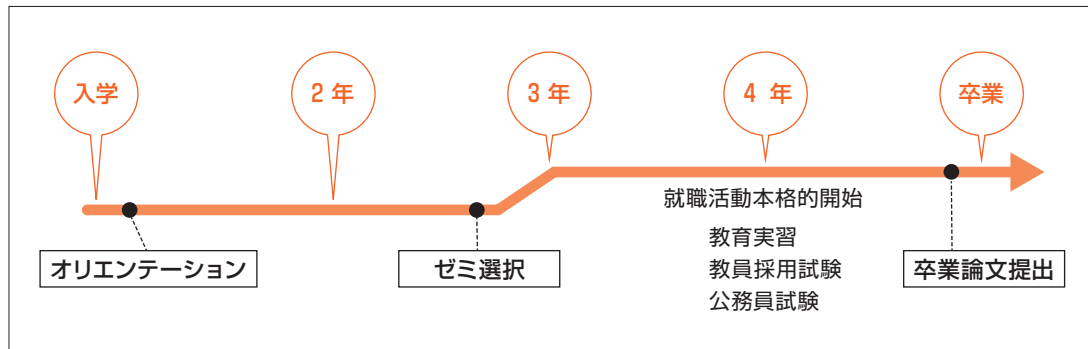
スポーツ科学部での総合的な学びを通して、皆さんには各界で活躍できるスポーツ専門家に育って欲しいと願っています。

1 自分の4年間のイメージを創る

大学での学びは、与えられた時間割にそって勉強するといった高等学校までの学びとは大きく異なります。どんな授業をとるのか、どのようなことを中心に学ぶのか、どういった資格取得を目指すのかといったことはすべて自分で決めることができます。

社会で通用する主体的な行動がとれる力を養うために、この大学での4年間で、ぜひ中身の濃い時間にしてください。そのためにも、しっかりとしたスタートを切ってください。

■ 大学4年間のイメージ



オリエンテーションには、「方位を確認する」という意味があります。自分の立ち位置を確認して、大学4年間の生き方の方向性を定める重要な出発点です。オリエンテーションの期間中に、次の二つのことを進めながら、「大学生」「大人」としての行動へ自分自身を切り替えていきましょう。

1. 大学での学びのしくみを理解し、4年間の学生生活を大まかにイメージする。
2. カリキュラムの特色や制度、ルールを理解し、1年間の具体的な時間割を作成する。



「必修」以外は、1人1人自分用の時間割（スケジュール表）を生み出す。

「国際人」への第一歩

スポーツ科学部の学生は、**ぜひパスポートを取得してください**。異なる世界、人、考え方にふれることが自分の視野を広げ、自己を理解する第一歩となるでしょう。

パスポート取得手続きには、必要書類がそろっていても、申請から約1週間かかります。必要書類をそろえる時間を考えると、取得には結構時間がかかるもの。入学したらずぐにパスポート取得準備にかかり、海外で活動するチャンスなどがめぐってきたときには、いつでも気軽にその一歩が踏み出せるようにしておきましょう。

■ パスポートの取得方法

詳細は [外務省HP : http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/index.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/index.html)

2 大学の授業で学ぶ

自分用の時間割（スケジュール表）をつくり、
自分自身で責任をもって学び、動くために

1) 出 欠

高等学校とは異なり、欠席しても個別に注意されることはほとんどありません。

これは「休んでもかまわない」という意味ではなく、出席・欠席といったこともすべて自分で判断しなければならないという意味です。大学では自らが主体的に行動することが求められているのですから、欠席による不利益も自らが負うこととなります。たとえ、最終的に単位がとれない結果となっても、それは本人の責任でしかありません。

また、大学では、授業の時間に教室に座っているだけでは単位はとれません。大学の講義では、授業と同じ時間分の予習と復習が求められています。したがって、出席していても、自ら積極的に学びその科目の試験に合格しなければ、単位をとることはできません。

2) 授業のすすめかた

高等学校とは違って、教科書を使わない科目が多くあります。授業中にプリント、資料を配付したり、プロジェクトを用いたり、と教員ごとに授業のすすめかたはさまざまです。また、多くの参考図書を読むことが求められる授業もあります。

黒板での板書のしかたも教員によってさまざまです。たとえば、「重要なことはプリントに書いたのでわざわざ板書しない」といった場合もあるのです。板書をただうつすのではなく、耳や目からはいった情報の重要性を自らが判断し「ノートにとる力」（「メモ力」「ノート力」）が求められます。

3) いろいろなタイプの授業

① 講 義	<ul style="list-style-type: none">・教え方はさまざまだが、基本的には教員が講義するタイプ。・個人やグループでの作業や、話し合いなどが行われることもあります。
② 実技、実習、実験	<ul style="list-style-type: none">・自らのからだを動かし、実践を通して学ぶタイプ。
③ 演 習	<ul style="list-style-type: none">・自分の専門性を高め、自分自身で「問い」への「答え」を追究していきます。・演習のメンバーで討論をしたり、調べたり、実験を重ねたりしながら、実践力を徹底的に鍛えます。・教員は、アドバイザーとして、専門的な立場からあなたの活動をサポートします。

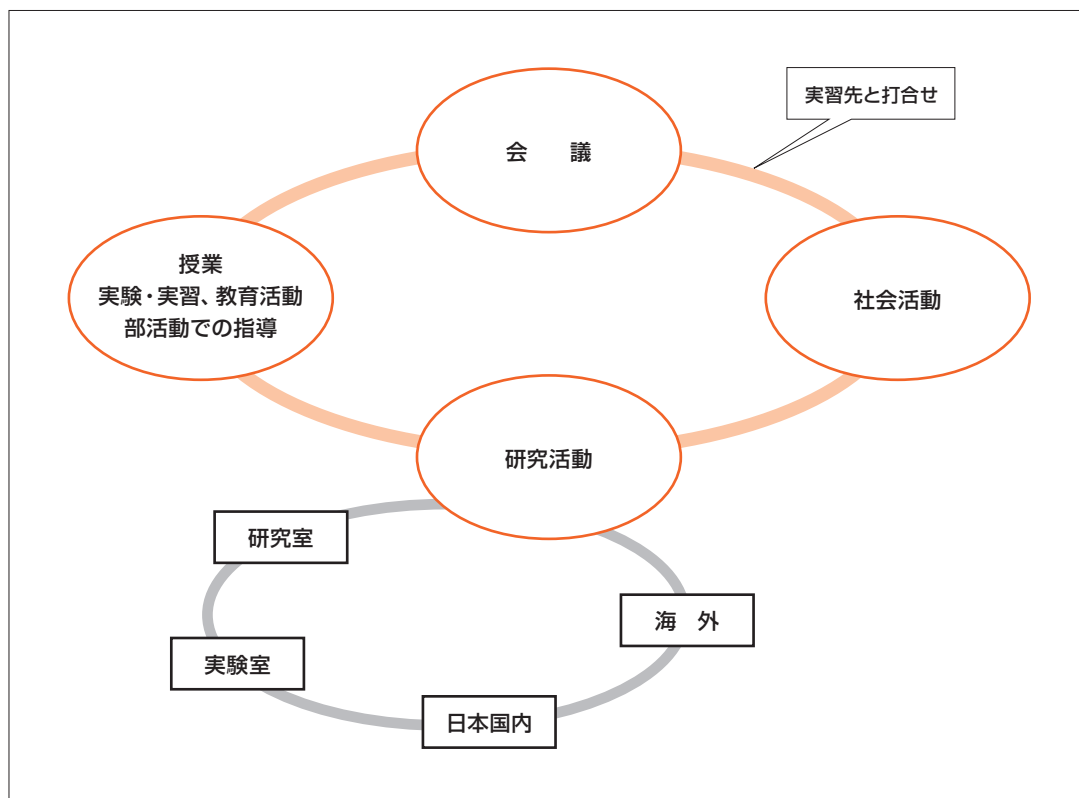
3 教員とコミュニケーションをとる

1) 教員とコミュニケーションをとることの重要性

本学での学びの実践は、大学のなかだけではなく、社会でも積むことができるように構成されています。あなたは、大学と実社会を飛び回りながら学ぶプロセスで、さまざまな課題に直面することになるでしょう。そのなかには、人生についての悩みから、実力をどうつけていくかなど多岐にわたる課題が含まれることでしょう。教員は、授業で教えるだけではなく、総合的にあなたをサポートします。

2) 教員の活動は授業だけではない

■ 教員の活動内容



3) 教員とコミュニケーションをとる初歩的技術

何か聞いてみよう、話をしようと思いついてふらっと研究室を訪ねても、いろいろな活動をしている教員に会えないこともあります。「いつも先生はいない…」ということにならないように、**会う時間をあらかじめ約束する** (=アポイントをとる) よう心がけてください。

■ 教員とのアポイントのとり方

アポイントのとりかた	<ul style="list-style-type: none"> 授業後に用件を伝え、会う約束をする。 メールで用件を伝え、教員の都合のいい時間をきく。
メールを使う際の注意	<ul style="list-style-type: none"> 教員はパソコンでメールを受けているので、返事がかえてくるまでに時間が必要。 表題をしっかりと書かないと、メールをみてもらえない可能性がある。 自分の名前、学籍番号を必ず書く。誰のメールか分からない場合、教員は返事を書くことができない可能性がある。 携帯電話、スマートフォンは、PCからのメールを受信できるように設定しておく。 急ぎの用件以外は、大学のアドレスでやりとりをする。大学のアドレスへのメールを携帯電話、スマートフォンや自宅のパソコンに転送するように設定しておくといよい。

4 情報は自らつかむ

毎日、必ず掲示板的チェック！

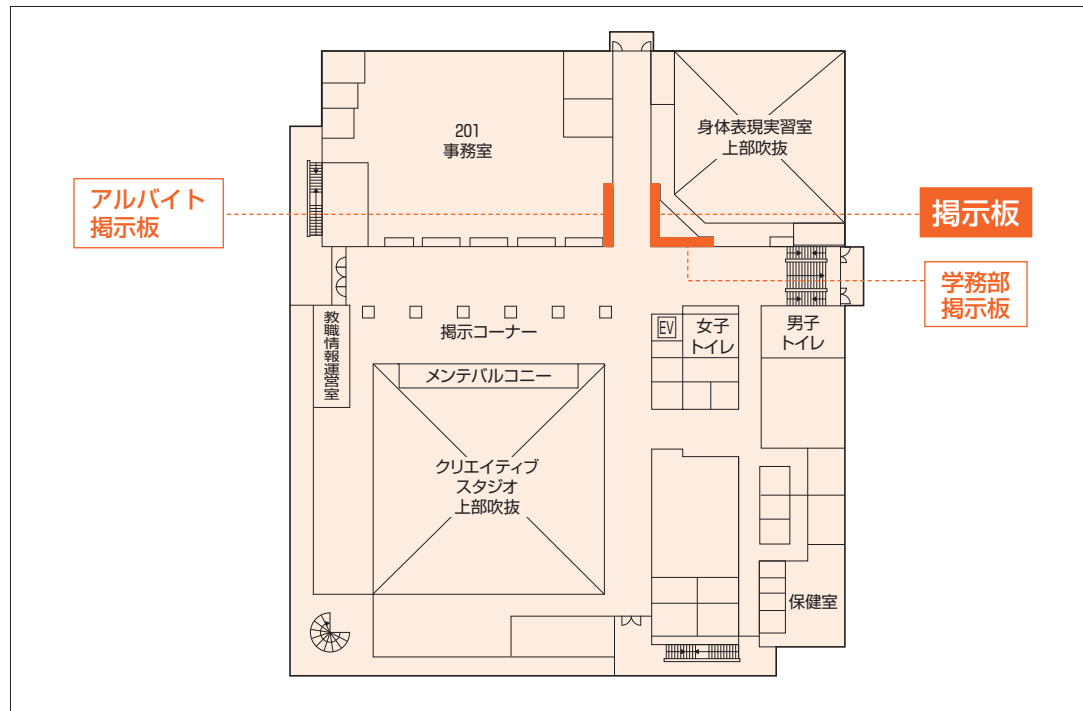
休講、補講、教室変更、試験日程など、授業に関連した連絡や、特定の学生に対する呼び出し・連絡等は、すべて掲示板を通じて行われます。登校したら、まず掲示板を見る習慣をつけましょう。掲示されている内容に疑問があれば、学務部もしくは担当教員に問い合わせてください。

掲示内容の一部は大学のホームページ（桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニバ））でも見ることができますが、呼び出しや授業連絡、レポート提出等については大学構内の掲示板でしか知ることのできない内容も多いので、必ず毎日掲示板を確認してください。

掲示板 <https://unipa.toin.ac.jp/uprx/>

【掲示板設置場所】

■ I号館2階



※この他、I号館1階（全体向け）にも掲示板があります。

2 スポーツ科学部における 教育の基本と仕組み

- スポーツ科学部と2つの学科の教育に関わる考え方について、基本的な理解しておいてほしいことをまとめています。

1 スポーツ科学部の教育の基本

1 教育の基本理念・目的

スポーツ科学部の理念は、「桐蔭学園の建学の精神に則って、主体的・自発的に学び続ける学生を育成する」ということです。

この理念のもとに、既成のスポーツ学や健康科学の研究成果を基盤としつつ、それらの知見を応用してさらに昇華すべく、新たなスポーツ科学あるいは、スポーツ文化について教育・研究することによって、我が国の「スポーツ」と「健康」の発展に貢献できる有為な人材を養成することを学部の目的としています。

「**スポーツ科学**」の学士修得に当たっては、スポーツ教育、スポーツコーチング、スポーツ医学、スポーツマネジメントに関する知識や技能を学ぶことはもとより、これらに関連付けて横断的に学ぶことにより、「スポーツ」、「健康」、「マネジメント」に関する幅広い専門性を身につけることを目指します。

2 学科の特色

スポーツ教育学科

この学科は、スポーツや健康に関する専門的な知識・技能を身に付け、かつ今日的な教育課題の解決に応えることのできる小学校、中学校、高等学校の教員や、我が国が迎えつつある生涯スポーツ社会において活躍することのできるスポーツ指導者を養成することを目的としています。3年次には初等教育コース（7ゼミ）あるいは中高体育専科コース（6ゼミ）に所属します。

現在の学校教育は、Society 5.0 にみられる知識基盤社会の到来、グローバル化、少子・高齢化、情報化などの社会構造の急激な変化に対応することが求められています。加えて、社会性やコミュニ

ケーション能力の不足、基本的な生活習慣の乱れ、体力低下、不登校、いじめ、小1プロブレム、中1ギャップなどの児童生徒を巡る課題、適正なICT教育の推進、教員の指導力や家庭・地域との連携など多様な課題を抱えています。これら多くの課題の解決に向けて、魅力ある実践的指導力を有する教員を養成することが求められています。

魅力ある実践的指導力を有する教員とは、「教育の専門家としての確かな力量」、「教師の仕事に対する強い情熱」、「総合的な人間力」などの資質能力を身に付けた教員といえますが、この学科では、教員に求められるこれらの資質能力を身に付けることのできる履修科目と、それを専門的に教育指導できる経験豊かな教授等を揃えています。

また、この学科は、**スポーツ系学部でありながら小学校1種免許を取得できる**という全国的にもユニークな存在でもあります。前述の今日的な教育課題のかなりの部分は、義務教育の初期の段階から対応することで解決が図られるものと思われまます。学科の理念を踏まえるとともに、スポーツや健康に関する専門的な知識・技能を生かして、教育現場が抱える課題の解決に先導的な役割を果たしてほしいと願っています。

2018年度から教職センターを強化し、「実践的指導力」を有する教員養成を充実させています。基礎となる教職教養、専門教育を確実に身につけた上で、演習や実習を通して資質の向上が図られるよう多様で体系的にカリキュラムを見直し、2023年度から新たなカリキュラムがスタートしました。

一方、スポーツは世界共通の人類の文化といわれるように、人々の生活を豊かにする素晴らしい文化です。昨今、国や地方自治体を問わずスポーツ政策が積極的に推進されていますので、当然のことながらスポーツについて深く学修し、専門的な知見に基づいた指導のできるスポーツ専門家が求められています。この学科ではそのような人材の育成にも力を注いでいます。

また、国のスポーツ政策は、すべての住民にスポーツサービスを提供できる総合型地域スポーツクラブを全国の市区町村に展開していくことを強力に推進しており、成人の3人に2人がスポーツを継続的かつ主体的に実践するという具体的な目標も掲げています。**この学科の重要な使命の1つとして、いつでも、どこでも、誰でも楽しくスポーツに親しめる地域社会の推進を通して、共生社会の実現に貢献できる人材を養成していくことがあげられますが、「する・みる・支える」といった多様なスポーツの推進を目指す国や地方自治体のスポーツ政策の実現にも貢献できるものです。**

この学科で、教員やスポーツ指導者に求められる専門性、指導力、人間性などを高めるための研鑽を積んでください。

スポーツ健康科学科

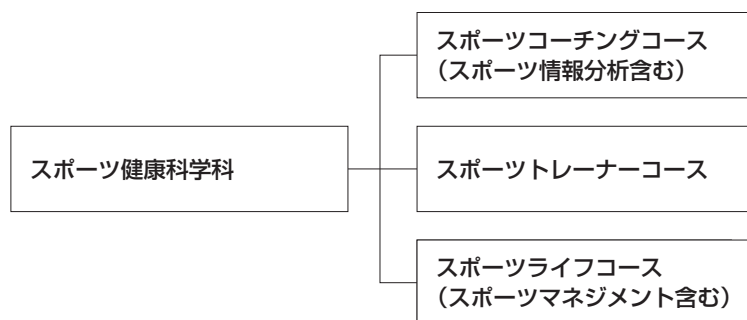
この学科は、**スポーツを科学的にとらえ、理論と実践の両面からスポーツ活動を支援できる人材の養成をめざしており、トレーニングに関する専門的な知識・技能に加え、技術、戦術、心理、チームワークなどについて学び、さらにスポーツ科学、情報学、医学などの知識や技術と結びつけ、スポーツデータの解析や分析方法なども学びます。**

スポーツ技術の習得・指導を合理的かつ効果的なものにするためには、その身体動作や戦術について観察・分析する力が必要になります。また、ベストパフォーマンスを引き出すためにはより良いトレーニングにより得られる身体機能が重要であり、スポーツ障害・外傷の予防も重要となる。これらの視点は、今後学校体育をはじめとする教育現場はもちろん、プロ・アマに関わらずあらゆるスポーツ指導の現場においても求められることになるでしょう。

学科で用意されているカリキュラムは、あくまで「料理の材料」。それらを組み合わせたり、より広く深く追求したりし、どのようにして自分の将来に役立てるかはその腕次第です（漠然と「こなす」だけの4年間にならないよう願っています）。「スポーツが好き」「からだを動かすことが得意」というステージから一歩進めて、この学科のカリキュラムを通して「多様なニーズに応え、健康づくりの支援ができる」、「科学的な根拠に基づいた運動プログラムを立て、コーチングができる」、「目的に合った測定機器を選択し、効率的に扱える」、「取得した映像やデータを記録・解析できる」という、

新たな武器を手にして、これまでスポーツ場面において様々な情報や科学技術の恩恵を受け、スポーツを楽しんできた側から、4年後にはぜひそれらを提供する側として社会貢献できる人になってほしいと願っています。

この学科では、**自分が選んで学ぶことのできる講義や実技、つまり選択科目を多く用意しています。**その選択に際して一つの目安となるように、また、カリキュラムの特徴から以下の2つのコースに分け、更にその下に3つの専攻を設定しました。合わせて具体的専攻の必修科目及び推奨科目を設けています。**いずれのコースも卒業に必要な単位に加えて、教職関連の単位を取得すれば、中学校および高等学校の保健体育1種免許状を取得できます。**



(1) スポーツコーチングコース (スポーツ情報分析含む)

スポーツの意義や価値を正しく理解し、発達段階や技能レベルに応じて適切なコーチングを行うことができるコーチ・指導者育成を行います。各種競技の指導法やコーチング論、スポーツ医・科学などを学び「スポーツコーチング実習Ⅰ・Ⅱ」で実践力を磨きます。これにより、コーチングに関わる「理念・哲学」「基礎的能力(人間力)」「専門的能力(指導力)」をバランスよく備えることを目指します。

また、これからのスポーツ指導やコーチングには、ICT (Information and Communication Technology) の活用が必須です。プロスポーツで使用しているスポーツパフォーマンス分析、戦術分析等のソフトを利用し、競技から得られる情報を分析して競技力向上や戦術に活かすことのできるスポーツ指導者・教員の養成を行います。

(2) スポーツトレーナーコース

トップアスリートからレクリエーション、そして健康維持・増進のためのスポーツなど、あらゆるレベルの競技者をサポートできる、実践的スポーツトレーナーの育成を目指します。具体的には、スポーツ医・科学などの基礎を学び、トレーニング、テーピング、コンディショニングなどの実技科目を習得し、実践の場としての「現場実習」で総合的な判断能力や人間力を養います。

また、各種トレーナーに関連する資格(JATI、NSCA-CSCS、JPSU-STなど)取得のため、科学的根拠にもとづく適切な運動プログラム、トレーニング、リハビリテーションなどの基礎的知識の獲得を行います。

(3) スポーツライフコース (スポーツマネジメント含む)

スポーツや健康を軸に現代社会との関わりを学び、生涯スポーツを通じて、疾病予防や心身の健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる人材を育成します。具体的にはスポーツ心理学、生涯スポーツ論、健康教育学、障害者スポーツ論等を学び、関連資格である「健康運動実践指導者」「初級パラスポーツ指導員」等の資格取得を目指します。

また、スポーツマネジメントやスポーツビジネス関連の学習を展開し、スポーツチームやスポーツ関連団体等で「スポーツインターンシップ実習」を行い実践力養います。

国際関係や社会福祉など視野を広げる分野を学び、留学や青年海外協力隊への参加も可能です。

※コース選択は、2学年進級時に行います。

2 学修に関する基本事項

1 修学年限と在学年限

本学の修学年限は4年が基本です。

また、本学には6年を超えて在学することはできません。しっかりと履修計画を立てて授業に臨んでください。なお、編入学、転入学、再入学した場合の在学年限については、別に定めます。

2 学年、学期

学年は毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終了します。また、3学期制を採用しており、第1学期（4月上旬～7月下旬）と第2学期（9月上旬～12月下旬）は13週間授業、第3学期はインテンシブ・アクティブラーニング・ターム（IALターム）と呼び、1月～2月に特定の科目を集中して学ぶ期間となります。

前期	第1学期：4月～7月（夏期集中8月）
後期	第2学期：9月～12月
	第3学期（IALターム）：1月～2月

3 授業時間割

授業は、学期ごとに週単位で決められた授業時間割によって行われます。授業時間割には、曜日と時限によって、授業科目名、担当教員名および授業の場所が一覧表になって記載してあります。

授業時間割の授業時間の基準は、次のとおりです。

時限	1	2	3	4	5
月～土 の時間	8：50 }	10：45 }	13：00 }	14：55 }	16：50 }
	10：35	12：30	14：45	16：40	18：35

4 クラスおよびクラス担任について

クラス及び担任は、スポーツ科学部入学後、掲示により発表されます。

履修方法や試験など学修に関することはもちろん、課外活動、その他日常生活上のことなど、分からないことや相談したいことがあれば、担任の先生に相談してみてください。

5 学位

この学部を卒業した人は、「学士（スポーツ科学）」の学位が授与されます。

2024年度

履修要項

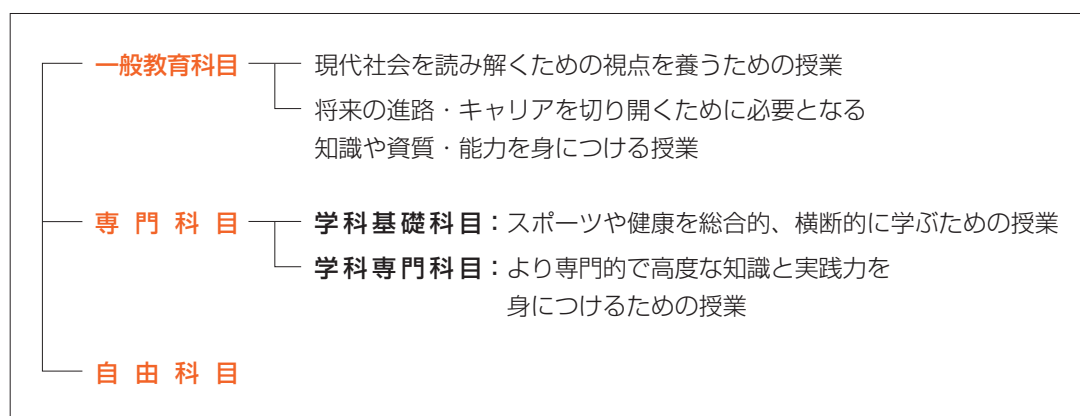
1 履修の手引き

- 授業科目、単位数、開講年次などを体系的に編成したものを「カリキュラム」（教育課程）と呼びます。
- スポーツ科学部のカリキュラムをもとに、自分自身の4年間の学生生活をデザインすることが、履修計画です。
- 大まかに4年間のイメージを描きながら、1年ごとの自分の時間割をつくりましょう。（履修計画の作成）

1 カリキュラムを理解するために 履修前の基本です！

1 カリキュラムの基本構成

本学部のカリキュラムは、スポーツや健康に関する専門的な学問領域にとどまらず、社会人として各界で活躍する際に必要な幅広い知識や教養を身につけることのできるように編成されています。大きくは、**一般教育科目**、**専門科目**、**自由科目**という枠組みに分けられており、専門科目は**学科基礎科目**と**学科専門科目**で編成されています。



授業科目には「必修科目」「選択科目」「選択必修科目」の3種類があります。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択科目	指定された科目群の中から、自由に選択して修得する科目
選択必修科目	選択科目のうち、一定の科目群の中から所定の方法で選択し、必ず修得しなければならない科目

2 単位制度

単位制度とは、4－6年の在学期間中に、必要な単位数を修得することによって、最終的に卒業が認められる制度です。

高等学校のように、勉強する科目が指定されていて、多くの人が同じ科目を勉強して卒業するのではなく、必修の科目以外は、所定の単位数に必要な分の授業科目を自分で選び、履修登録を行います。

「一般教育科目」「学科基礎科目」「学科専門科目」など、それぞれの科目区分ごとに必要な単位数が定められています。計算をしながら自分の学びたい科目を選択してください。そして、その科目を履修し、試験等の成績評価によって「合格」すれば、単位修得となります。

この修得した単位数が、卒業に必要な単位数を満たすと卒業が認められることとなります。

3 単位算定の基準

授業の形態に応じて、1単位は、次表のように定められています。いずれも、予習・復習等を含めて45時間の学修をもって1単位とされています。

授業形態	1単位の授業時間数
講義、演習、外国語	15時間
実習、実技	30時間

各授業科目に与えられている単位数は基本的に以下の基準で算定します。

講義科目	1コマ(105分)×1回/週×1学期(半年)＝2単位
実習、実技科目	1コマ(105分)×1回/週×1学期(半年)＝1単位
演習	1コマ(105分)×1回/週×2学期(通年)＝2単位

本学部の授業には、通年の演習科目や、講義と実技の組み合わせ科目等の例外もありますので、これらの単位についてはカリキュラム表を参照してください。

4 学年制度

4月1日から3月31日までが1学年度です。1年次から4年次まで1学年度ごとに進級していきます。ただし、2年次修了までに50単位を修得できなかった場合は、3年次への進級が停止されます(39ページの「2 留年しないために」参照)。

2年次留年した場合は、合計修得単位数が50に達した翌期より3年次に進級する。

5 卒業に必要な単位数

卒業するためには、次表の区分に基づいて、126単位以上を修得することが必要です。

学 科	科目区分	単 位 数		
		必 修	選 択	計
スポーツ教育学科	一般教育科目	10単位	2単位	12単位以上
	学科基礎科目	18単位	28単位以上	46単位以上
	学科専門科目	16単位	28単位以上	44単位以上
	計	44単位	58単位以上	126単位以上
スポーツ健康科学科	一般教育科目	10単位	2単位	12単位以上
	学科基礎科目	18単位	28単位以上	46単位以上
	学科専門科目	14単位	30単位以上	44単位以上
	計	42単位	60単位以上	126単位以上

6 履修上の留意点

- あなたが所属する学科以外で開講されている科目を履修した場合、授業に出席し試験に合格すれば、単位を修得することができます。しかし、卒業に必要な単位（＝卒業要件単位）には算入されません。
- スポーツ健康科学科の学生は、2年次から3つのコースに分かれます。そして、各学生は選択したコースで推奨される科目を含めて授業科目を履修します。詳細は2年生のオリエンテーションで説明する予定です。

卒業に必要な単位の修得数を計算する際には、以上の点によく留意してください。

2 MASTについて

1 MASTの概要

MASTとは、桐蔭横浜大学の全学部共通で開講される一般教育科目群のことを指します。

MASTは、6つのコンポとウェルビーイングプログラムから構成されます。自分の興味に合ったコンポを見つけ、そのコンポの科目を中心に履修していくことになります。コンポは体系立てられた科目群、ウェルビーイングプログラムはコンポを補完し、“なりたい自分”になるために必要なチカラを身につけることを目指す科目群です。

コンポは現代社会を読み解くための視点を養うことを目的とした体系的な科目群で、「地域創成」「ビジネス・インテンシブ」「異文化スタディ」「現代心理」「地球環境」「スポーツ・イン・ソサエティ」の6つから構成されます。桐蔭横浜大学での4年間は、学部の専門科目での学びを通して、専門性を高めると同時に、MASTでは、社会を様々な角度から比較し、課題解決の視点を養うこととなります。

■ 6つのコンポの説明

地 域 創 成	人々が生活する地域社会が抱える課題を理解し、解決に導くための知識を、理論と実践を往還する活動を通して獲得する科目群
ビジネス・インテンシブ	予測が難しい現代社会のなかで、新たな価値を創出する企業人・起業人として求められる知識やスキルを獲得する科目群
異文化スタディ	多様な文化を理解することを通して、グローバル化が進む現代社会の中で自己や自国の文化を相対化して考える視点を獲得する科目群
現 代 心 理	様々なアプローチで心に対して迫ることを経験することを通して、心のありようやメカニズムについての理論を獲得する科目群
地 球 環 境	資源の枯渇や温暖化など地球環境の問題を科学の視点から考察し、豊かで持続可能な未来を模索するための知見を獲得する科目群
スポーツ・イン・ソサエティ	選手としてだけでなく、生涯に渡ってスポーツに関わり、スポーツにかかわる諸課題を解決するための知識や技能を獲得する科目群

コンポに含まれる科目は、1つ1つの科目が独立した科目ではなく、上の表に示すように、教育目標を持つ体系立てられた科目群です。そのため、「7 各コンポで学べること」に沿って学ぶことで、それぞれのコンポが育成を目指す視点を身につけることができます。自分が興味・関心のあるコンポを学んでみるのも、新しいことに挑戦してみるのもよいでしょう。

各コンポに含まれる科目はMAST A、B、Cの3つに分類されます。

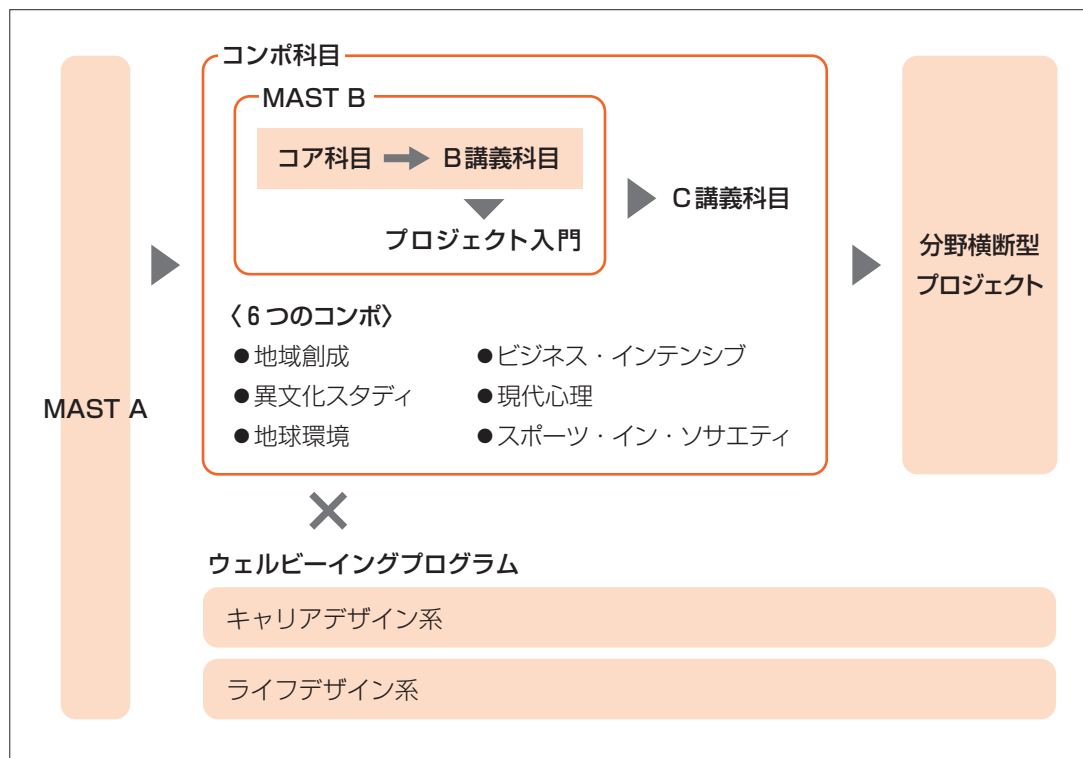
MAST Aは、大学での学びの基礎となる科目です。どのコンポを選択しても、全員が共通して履修することになる科目です。

MAST Bは、コア科目、B講義科目、プロジェクト入門から構成されます。コア科目は、コンポの基礎知識やモノの見方・考え方を学ぶ科目です。プロジェクト入門は、コンポで身につけた知識やモノの見方・考え方を活用して、現実の場面での課題解決を経験的に学ぶ課題解決型学習科目です。

MAST CはC講義科目と分野横断型プロジェクトから構成されます。分野横断型プロジェクトはMAST A、Bの科目とC講義科目で身につけたモノの見方・考え方、知識を活用し、現実社会の課題解決に挑む、全てのコンポにまたがって開講される課題解決型学習科目になります。

ウェルビーイングプログラムは、一人一人の将来の進路・キャリアを切り開くために必要となる知識や資質・能力を身につけることを目標とする科目群です。6つのコンポとは異なり、キャリアプログラムの科目は体系立てられた科目ではなく、1つ1つがみなさんの将来に直接つながるチカラを育てることを目標としています。自分の思い描く“なりたい自分”に近づくために、社会で求められるチカラを手に入れましょう。科目を自由に組み合わせることで履修をしてください。

その他、既存のカリキュラムの枠にとどまらず、**特別講義**として学外の様々な組織・団体と連携し、専門的な知見を提供してもらうことを目的とする科目や時流に合わせて一定期間のみ開講される科目があります。



2 大学共通の学習支援

大学での学びは、高校生までの学習とは大きく異なります。大学では、自分で好きなことをじっくり学べる反面、**自分から学習に取り組む姿勢が強く求められます**。最初は高校までの学習との違いに戸惑うことも多いと思います。そこで学生のみなさんへの学習サポートとして、桐蔭横浜大学ではラーニング・コモنزの開室と全学面談を実施しています。学生に寄り添い、授業や課題で分からない部分のサポートや、学習の仕方・学習スケジュールの立て方を含む、大学での学びに必要な学習サポートを実施しています。困ったり・悩んだりしたときはぜひ自分から行動をしてみてください。大学4年間の学びを充実させるため、積極的に学習支援を活用しましょう。

1) ラーニング・コモنزの利用について

ラーニング・コモنزは、**II号館2階（II-201）**の教室で学習支援を専門とする職員が常駐しており、いつでも学習の支援を受けることができます。さらにはグループワークスペース・個人利用スペースもあり、用途に応じた使い分けも可能です。先生に質問をしたいときも、みんなでグループワークをするときも、落ち着いて一人で学習したいときも、ぜひラーニング・コモنزを利用してみてください。

特に前期の月曜日には「桐蔭スキルゲート」の学習や課題の取り組みに対する支援を中心に、学習支援を受けられます。オンデマンド科目の学習を一人で進めることに不安を感じる人は、ぜひ参加してください。「桐蔭スキルゲート」では、大学生活に留まらず社会人として身につけるべき、文書・資料作成の技術とMicrosoft Officeソフトの操作方法、プレゼンテーションの作法、メディア情報リテラシーについて学びます。これらの知識・技能は、この機会を逃すと、時間をかけて教えてもらったり学習したりすることはほとんどありません。大学4年間の学びを充実したものにすることも、学習支援を活用して、しっかりと学習に取り組んでください。

その他、ラーニング・コモنزでは、授業のレポートはもちろん資格試験の勉強などでも困ったことがあれば、ぜひ相談しに来てください。



■ラーニング・コモンズの特徴

1. 学習空間	授業の間の時間で利用ができます。空いた時間、友達と一緒に課題をするとき、一人で集中して学習をしたいとき、スタッフに学習について相談したいときなど、いつでも利用できます。
2. 学習相談	大学の学習で困っていることや、課題・学習方法についての相談や、オンライン授業の受け方をラーニング・コモンズ専属のスタッフに相談できます。
3. 資格・就職試験対策	SPI試験、教員採用1次試験に向けての支援や、公務員試験・就職対策試験に向けた各自の理解度に合わせた数的処理の指導や、小論文の添削等を実施します。希望者は予約制で別教室での個別指導をします。(ラーニング・コモンズで予約受付を行います)
4. PC操作のサポート	大学でレポートや課題をするときに必須となるPC機器の貸し出しもあります。電源・コンセントも完備しているので、PCが急に必要な場合にも利用できます。PCの操作方法について不安なときには近くにいるスタッフがサポートします。

2) 全員面談の実施について

桐蔭横浜大学では1年生を対象とし、学習支援の一環として学生面談を実施しています。学習面で困っていることから、生活の中で困っていることまで、みなさん一人一人が過ごす大学生活がより充実したものとなるように職員一同でサポートをしていきます。学習に不安のある学生や、希望をする学生は入学して早い段階から職員と面談をすることが可能で、その後の面談も希望をすれば何度でも面談を受けることができます。

3 MAST A科目

MAST-A科目は7科目から構成されます。そのなかで、下表の★印の付いた5科目はすべての学部学環の必修科目です。**必修科目**とは、卒業までに必ず修得しなければいけない科目のことです。万が一、配当年次に単位を修得できなかった場合、再履修をしなければいけません。

■MAST-A科目一覧

1年生		2年生	
前期	後期	前期	後期
★桐蔭キャリアゲート	★データコミュニケーション入門	—	—
★桐蔭スキルゲート	—	—	—
★英語コミュニケーションI	★英語コミュニケーションII	英語コミュニケーションIII	英語コミュニケーションIV

1) 桐蔭キャリアゲート

1年生の前期に必ず履修してください。

複数クラスでの開講になります。後日、桐蔭ユニパの掲示をよく読み、自分が参加するクラスを間違えないように注意してください。

ただし、入学前キャリア教育プログラム(桐蔭プレアド)で修了認定を受けた人は、桐蔭キャリアゲートの単位として認められるため、この科目を履修する必要はありません。途中まで参加したものの、修了認定を受けていない学生は、必ず履修してください(補習対象の学生も同様です)。

2) 桐蔭スキルゲート

1年生の前期に必ず履修してください。

この科目はオンデマンド科目です。桐蔭ユニパ上では月曜日6限に割り当てられていますが、教室での対面授業はありませんので注意してください。初回配信日に学習の進め方について必ず確認をするようにしてください。学習の進め方や課題への取り組み方がわからない場合には、Ⅱ号館2階のラーニング・commonsでの学習支援を利用することができます。

3) データコミュニケーション入門

1年生の後期に必ず履修してください。

複数クラスでの開講になります。後日、桐蔭ユニパの掲示をよく読み、自分が参加するクラスを間違えないように注意してください。

4) 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

1年生の前期にⅠを後期にⅡを必ず履修してください。各学部で指定されるクラスの時限で履修してください。

4 MAST B科目



MAST B科目はコア科目、B講義科目、プロジェクト入門から構成されます。「7 各コンポで学べること」を参考にして、履修計画を立ててください。同一コンポで、コア科目からプロジェクト入門までを合わせて履修することで、各コンポで育成を目指す視点を身につけることができます。

1) コア科目

コア科目は、コンポの入門科目として各領域における学びの基礎となる知識やモノの見方・考え方を学ぶ科目です。コンポでの学びを修めようとする場合には、コア科目から履修することを強く推奨しています。

2) B講義科目

B講義科目は、コア科目で身につけた知識やモノの見方・考え方を基に、各領域における重要なトピックについて学ぶ科目です。複数科目を合わせて履修することで、幅広い知識と多角的な思考を身につけることができます。

一部の科目は、オンデマンド授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業です。対面授業は2コマ連続で行われるものや集中講義期間に開講されるものがあります。時間割表を確認して履修してください。

3) プロジェクト入門

プロジェクト入門は、コンポで身につけた知識やモノの見方・考え方を活用して、現実の場面での課題解決を経験的に学ぶ課題解決型学習科目です。そのため、プロジェクト入門を履修する際には、コア科目に加えて、B講義科目を1科目以上修得している（あるいは同学期に履修している）ことが望ましいです。

プロジェクト型学習とは、身の回りの出来事や社会にある問題・課題の解決のために、他の授業で身につけた知識や技術を総動員して臨む学習形態の科目のことです。そのため、自ら課題を発見し、その解決のために調査計画や解決策を企画し、実行に移すという一連のプロセスに積極的に参加することが求められます。

5 MAST C科目



MAST C科目はC講義科目、分野横断型プロジェクトから構成されます。MAST Bで学んだことをさらに発展させて、その分野の理解を深めることを目指した科目群です。

1) C講義科目

C講義科目は、各領域における発展的な知識やモノの見方・考え方を身につけることを目指す科目です。MAST Bで学んだことを前提に授業が行われる場合があります。そのため、同一コンポのコア科目またはB講義科目を履修していることを強く推奨します。

2) 分野横断型プロジェクト

企業や団体、地域社会に関する諸課題に対し、各コンポのMAST BやC講義科目で学んだ知識やスキルを横断して活用しながら、課題を発見して最終的に解決策を提案することを目指す科目です。

この科目は2学期から3学期にまたがって開講されます。最後まで履修をしない場合、単位が認められませんので注意してください。

また、分野横断型プロジェクトを履修する場合には、1つ以上のプロジェクト入門を履修し、プロジェクト型学習の進め方について理解した上で履修してください。

6 ウェルビーイングプログラム

1) キャリアデザイン系

社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための知識や技能を獲得する科目群です。就職支援科目である「キャリアセミナー」は各学部での指導にしたがって履修してください。

●インターンシップ

企業での短期間のインターンシップへの参加と、事前事後研修および成果報告会へ参加することで単位が付与されます。インターンシップへの申し込み手続き等の詳細は、キャリア情報センター（I号館2階）にお問い合わせください。就職活動の前に、企業で働くということがどういうことなのかを経験的に学べる機会です。ぜひ、積極的に制度を利用しましょう。

2) ライフデザイン系

社会のなかで自己実現を目指すだけでなく、他者と良好な関係を気づき、社会の発展に貢献するために必要となる知識や資質・能力を身につけることを目指す科目群です。学外での実習や、通常の履修登録とは異なる方法で申し込みが必要な科目がありますので、注意してください。

●ボランティア実習

大学が案内する様々な実習先でのボランティアに参加する授業です。履修には、ボランティア論の単位を修得している、あるいは当該学期に履修をしていて単位修得見込みである必要があります。実習へ参加を希望する場合には、必ずボランティア論を履修してください。ボランティア実習は実習先が異なる場合には、複数回の履修が可能ですが、修得可能な単位数の上限は6です。

なお、授業や単位に関係なくボランティアに参加をしたい人は、ボランティア・ラボ（II号館2階）に相談できます。

●海外実習、国際コミュニケーション実習

海外への留学に興味がある学生は、ぜひ積極的に履修をしてください。詳細は、学生便覧または各学部の履修の手引きを確認するか、国際交流担当の教員に確認をしてください。

ただし、国際コミュニケーション実習については、スポーツ科学部の学生は専門科目で同名の授業を履修してください。

※ウェルビーイングプログラムの科目については、特に履修上の注意を要する科目についての説明のみ掲載しています。各科目の概要についてはシラバスをよく読んで履修をしてください。

7 各コンポで学べること

MASTでは、各コンポに含まれる科目を体系立って学ぶことで、それぞれのコンポが育成を目指す視点を身につけることができます。そのため、MASTでは科目をバラバラに履修するのではなく、各コンポの科目をまとめて履修することを推奨しています。また、どのコンポを選択しても、MAST Aの必修科目は全員が履修することになります。

コア科目は、コンポの基礎知識やモノの見方・考え方を学ぶ科目です。コンポでの学びを修めようとする場合には、必ず履修してください。プロジェクト入門は、コンポで身につけた知識やモノの見方・考え方を活用して、現実の場面での課題解決に取り組みます。そのため、プロジェクト入門を履修する際には、コア科目に加えて、B講義科目を1科目以上修得している（あるいは同学期に履修している）ことが望ましいです。

以下、6つのコンポそれぞれで、どのようなことを学ぶのか、そしてどのような人に履修をしてほしいのかを説明しています。履修の参考にしてください。

1) 地域創成コンボ

人々が生活する地域社会が抱える課題を理解し、解決に導くための知識を理論と実践を往還する活動を通して獲得する科目群。地域社会には、都市・都市郊外・地方と様々な形の地域があります。日本では、現在、少子高齢化、過疎化など多くの人口面の課題やインフラ面の課題を抱えているため、地域行政のあり方を問い直し、地域住民・自治体・地元企業との関係を意識することが重要です。地域社会の課題をより深く考えてみたい、また自分の住む地域の課題を考えてみたい人におすすめします。特に、地域に貢献したい、地元の自治体や企業に就職したい、など地域社会との共生に興味がある方の履修をすすめます。

地域に関連する学問として、MAST B科目までを履修することで、地域を社会学の視点から捉えることが可能になるほか、世界から見た日本社会・自分の地域などミクロの視点、自分の住む地域から見た世界の状況などマクロの視点を学ぶことができます。また、地域が持続可能な社会として社会機能を維持するための健康の視点、SDGsの視点など、より専門的な見地からの地域社会の構造について学ぶことができます。

さらに、地域課題を実践的に解決するために活動を伴いながら学びたい人は、MAST C科目まで履修してください。フィールドワークを通じた様々な地域の方々との交流や、自治体・企業の方へのプレゼンなど、自分のライフキャリアを充実させ、社会に役立つ力を身につけることを目指します。

■ 科目一覧

コア科目	地域の科学
B講義科目	地域における健康課題、コミュニティ・ファシリテーション、サステナブル社会学
プロジェクト入門	プロジェクト入門（地域創成）
C講義科目	地域政治論、地域観光事業論、横浜地域学、実践地域創成学

2) ビジネス・インテンシブコンボ

予測が難しい現代社会のなかで、新たな価値を創出する企業人・起業人として求められる知識やスキルを獲得する科目群。ビジネスを学ぶということは、近現代の産業の発展を振り返って伝統的な経営学の理論を学ぶことはもちろん、現代社会を取り巻く様々な産業、技術、世の中の流れを俯瞰する力を身につけることに通じるでしょう。大局的に物事を捉えながら、経営学やマーケティングの理論を用いて具体的に課題を解決していきたいと思っている人におすすめします。特に、将来、企業や組織でマーケティング知識を活用して働きたい人や、自分自身で起業して新しい価値を生み出したい人に履修をおすすめします。

ビジネスに関連する学問として、MAST B科目までを履修することで、日本の産業の変遷とWeb 3の時代に至るまでを俯瞰できるほか、経営学の基本的な理論やそれらが実際にビジネスにどう活かされているのか、また企業家マインドについても学ぶことができます。ビジネス・インテンシブコンボの授業では、経営学の基礎的な理論をベースに、私たちの身近な企業やビジネス（B to C[※]）のほか、B to Bビジネスの実際やC to Cの事例についてもとりあげることによって、変化し続けるビジネスについて考えていきます。

さらに、具体的なビジネス課題を解決するためのツールとしてのマーケティング力を身につけたい方はMAST C科目まで履修してください。マーケティング理論の習得を手助けするための課題解決型・提案型フィールドワークや実習を様々用意しています。それらのフィールドワークを通じて実際に社会に役立てられる力を身につけることを目指します。

※B to CのBはBusiness（企業）、CはCustomer（一般消費者）の略です。

■ 科目一覧

コア科目	ビジネスの科学
B講義科目	マーケティング各論、アントレプレナーシップ、デジタル産業論
プロジェクト入門	プロジェクト入門（ビジネス・インテンシブ）
C講義科目	マーケティング・リサーチ、ウェブ・コミュニケーション、現代ビジネス論、ビジネスアイデアデザイン

3) 異文化スタディコンボ

多様な文化を理解することを通して、グローバル化が進む現代社会の中で自己や自国の文化を相対化して考える視点を獲得する科目群。ここでいう「文化」とは、一定の社会集団の中で共有される考え方や価値基準、行動様式の体系のことを指しています。例えばみなさんは「日本文化」「日本語文化」「学校文化」などの中で日々過ごしていることとなります。そして「異文化」とは、みなさんがまだ知らない、あるいは所属していない文化を指すと思ってください。それらの異文化を理解することで、みなさんの視野は格段に広がっていきます。あらゆる未知のものごとへの好奇心が強い人におすすめます。将来の可能性を最大限に広げ、選択肢を増やすために、異文化スタディの各科目が役に立つでしょう。

MAST B科目までは、みなさんの表現手段を拡張することに力点をおいています。日本語や日本文化だけでなく各国の文化を理解すること、さらには言語だけでなくコミュニケーションの手法を学ぶこと、映像・映画などグローバルな視覚文化へ目を開くことなど、異文化への入り口となる科目を配置しています。ひとつの文化は、様々な要素がからみあって構成されているものですが、その“他者”の立場から入って、構造を少しずつ解きほぐしていきます。国籍・人種・言語もことなる様々な人たちが行き交う社会に対応する手つきを学び、ボーダーレスな2020年代以降を生きるための科目です。

さらに「文化」を広く、また深く学びたいと思う場合には、MAST C科目まで履修することをすすめます。ここではいわゆる王道のカルチャーだけでなく、POPミュージックやファッション、またフード（食文化）や若者文化といったカウンターカルチャー・サブカルチャーなどとも言われる領域にまで射程を伸ばしています。将来の仕事として旅行・観光、レコード会社、芸能プロダクション、映画会社、番組制作会社、出版社、ファッション業界、フードビジネス等を考えている人の受講を想定しています。

■ 科目一覧

コア科目	異文化の科学
B講義科目	言語文化論、表現とコミュニケーション、視覚文化論
プロジェクト入門	プロジェクト入門（異文化スタディ）
C講義科目	異文化リサーチ、ファッション文化論、フード文化論、若者文化論

4) 現代心理コンボ

様々なアプローチで心に対して迫ることを経験することで、心のありようやメカニズムについての理論を獲得する科目群。心を学ぶということは、自分自身についての理解を深めるとともに、対人関係を充実させることにも役立つでしょう。心理学とは、どのような学問かを知りたい、心理学の知識を日常生活や将来のキャリアに役立てたいと思っている人におすすめします。特に、将来、人とのコミュニケーションが求められる仕事や、対人援助・支援サービスを提供する医療・福祉・教育業界に興味・関心のある人に履修をすすめます。

心理学は、心と行動の科学と言われます。MAST B科目までを履修することで、心理学では心をどのように捉えようとしているのか、心というものがどのような要素で成り立っていると考えられているのか、また、心理学が人の行動はどのように捉えているかを知ることができます。現代心理コンボの各授業では、私たちの身近な事柄を心理学的視点から新たに見ることによって、生活に心理学がどのように活用できるのかを考えていきます。

さらに、身の回りの社会課題を解決するために心理学を役立てたいと思っている人はMAST C科目まで履修をしてください。心理学の基礎を学ぶことを通して、心理学が私たちの生活の様々な場面でどのように使われているのかを知り、それらの理解を自分の生活や社会での問題発見・解決に役立てられるようになることを目指します。

■ 科目一覧

コア科目	心の科学
B講義科目	健康と心理学、こころの世界、青年と心理学
プロジェクト入門	プロジェクト入門（現代心理）
C講義科目	集団と心理学、幸せと心理学、意思決定と心理学、自己調整と心理学

5) 地球環境コンボ

資源の枯渇や温暖化など地球環境の問題を科学の視点から考察し、豊かで持続可能な未来を模索するための知見を獲得する科目群。環境化学とエネルギー科学を学ぶことで、地球環境についての議論を行い、信頼できる根拠に基づいた論理的な考え方や方法を身につけることを目指します。論理的な思考を身につけることで、物事を正確に分析し、問題をより効果的に解決することに役立ちます。論理的思考能力を身につけたいが何を取り組んだら良いか分からない方の入門としておすすめします。

地球環境科学に関連する課題を特定し、仮説を立てて調査を行う一連の活動をプロジェクト型学習で行います。MAST B科目まで履修することで、地球環境を題材として、自己で課題を設定し、解決策を探索することで、自分たちで問題解決のプロセスを学ぶことができます。それにより、現実的な問題提起の手法やその解決手段の考え方を身につけることができます。

■ 科目一覧

コア科目	地球環境の科学
B講義科目	科学技術の未来、地球と環境、持続可能な開発と法
プロジェクト入門	プロジェクト入門（地球環境）

6) スポーツ・イン・ソサエティコンポ

アスリート（選手）としてだけでなく、生涯に渡ってスポーツとかかわり、スポーツと社会の関係を考える科目群。

目まぐるしく変化している現代社会の中で、改めてアスリートとして生きていくことやスポーツの持つ意義が見直されています。「アスリートとは何か」というテーマを軸に、アスリートとしての生き方、スポーツに関わる生き方について多角的な視点から学びます。また、スポーツを「する・みる・ささえる」という観点から学び、アスリートとして自身の競技力の向上だけでなく、アスリートやスポーツとの関わり方を多面的に捉え、アスリートやスポーツを支える側の諸課題について様々なアプローチから学習します。つまり、社会の中で活躍するアスリートのあり方（Athlete In Society）を学ぶ科目群です。

これまでのアスリート（選手）として、あるいはスポーツ経験者、スポーツに興味のある者として経験してきたことを学問的に振り返り、これからの自身のアスリート（選手）としての向上やチームにおけるリーダーシップの発揮、アスリートを育てるコーチングなどに活用できるようにします。また、大学卒業後や競技引退後を見据え、大学での学び（通常授業やプロジェクト授業）と同時進行で、アスリートとしてのライフスキルの獲得やセカンドキャリアの構築を目指します。さらに、社会とつながる実践的な学びを通して、スポーツとスポーツが人々にもたらす可能性を追求していきます。

「これまで」と「これから」のアスリート（選手）として獲得した知識や経験を自分の人生に活かしたいと思う人、またスポーツに関わって行きたい人に履修を薦めます。

■ 科目一覧

コア科目	アスリートの科学
B講義科目	大学スポーツ論、アスリートキャリア
プロジェクト入門	プロジェクト入門（アスリート）
C講義科目	アスリートクロス、アスリートのリーダーシップ教育、アスリートのライフスキル
MAST特別実習	地域部活動指導講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

1 スポーツ教育学科教育課程表（一般教育科目）

大学共通科目 [MAST]

MAST A

●…必修 ○…選択

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年 (予定)	備考
一般教育科目	MAST A	桐蔭キャリアゲート	必 2	講義	●				
		桐蔭スキルゲート	必 2	講義	●				注1
		データコミュニケーション入門	必 2	講義	●				注1
		英語コミュニケーションⅠ	必 2	講義	●				
		英語コミュニケーションⅡ	必 2	講義	●				
		英語コミュニケーションⅢ	2	講義		○			
		英語コミュニケーションⅣ	2	講義		○			

注1：教員免許を取得する学生は教職必修科目となります。

MAST B/C

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年 (予定)	備考
一般教育科目	地域創成コンボ	MAST B	地域の科学	2	講義	○			
		サステナブル社会学	2	講義	○				
		地域における健康課題	2	講義	○				
		コミュニティ・ファシリテーション	2	講義	○				
	MAST C	地域政治論	2	講義		○			
		地域観光事業論	2	講義		○			
		横浜地域学	2	講義		○			
		実践地域創成学	2	講義		○			
	ビジネス・インテグレーションコンボ	MAST B	ビジネスの科学	2	講義	○			
		マーケティング各論	2	講義	○				
		アントレプレナーシップ	2	講義	○				
		デジタル産業論	2	講義	○				
	MAST C	マーケティング・リサーチ	2	講義		○			
		ウェブ・コミュニケーション	2	講義		○			
		現代ビジネス論	2	講義		○			
		ビジネスアイデアデザイン	2	講義		○			
	異文化スタディコンボ	MAST B	異文化の科学	2	講義	○			
		言語文化論	2	講義	○				
		表現とコミュニケーション	2	講義	○				
		視覚文化論	2	講義	○				
	MAST C	異文化リサーチ	2	講義		○			
		ファッション文化論	2	講義		○			
		フード文化論	2	講義		○			
		若者文化論	2	講義		○			
	現代心理コンボ	MAST B	心の科学	2	講義	○			
		健康と心理学	2	講義	○				
		こころの世界	2	講義	○				
		青年と心理学	2	講義	○				
MAST C		集団と心理学	2	講義		○			
幸せと心理学		2	講義		○				
意思決定と心理学		2	講義		○				
自己調整と心理学		2	講義		○				

(次ページに続く)

			授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年 (予定)	備考
一般教育科目	地球環境コンポ	MAST B	地球環境の科学	2	講義	○				
			科学技術の未来	2	講義	○				
			地球と環境	2	講義	○				
			持続可能な開発と法	2	講義	○				
	スポーツ・イン・ソサエティ・コンポ	MAST B	アスリートの科学	2	講義	○				
			大学スポーツ論	2	講義	○				
			アスリートキャリア	2	講義	○				
			体育実技 I	1	実験・実習	○				注2
			体育実技 II	1	実験・実習	○				注2
	MAST C	アスリート・クロス	2	講義		○				
		アスリートのリーダーシップ	2	講義		○				
		アスリートのライフスキル	2	講義		○				
	プロジェクト科目	プロジェクト入門	2	演習	○				注3	
分野横断型プロジェクト		3	演習		○					

注2：スポーツ科学部の学生は本科目を履修しても卒業要件単位になりません。学科基礎科目として開講される競技（演習）を履修すること。

注3：プロジェクト入門は6つのコンポがテーマを設定し、それぞれに授業が開講されます（年度によって開講される授業は異なります）。詳細は、授業時間割を確認してください。

ウェルビーイングプログラム

			授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年 (予定)	備考
一般教育科目	キャリアデザイン系	キャリアセミナー I	2	講義			○			
		キャリアセミナー II	2	講義			○			
		キャリアセミナー III	2	講義					○	注4
		インターンシップ	2	実験・実習				○		
		ソーシャルコミュニケーション	2	講義				○		
	ライフデザイン系	キャリアトランジション	2	講義	○					
		ことばのスキル	2	講義	○					
		ボランティア論	2	講義	○					
		ボランティア実習	2	実験・実習	○					注5
		海外実習	2	実験・実習				○		注6

MAST特別講義

			授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	備考
一般教育科目	MAST特別実習	1	実験・実習	○						注7
	MAST特別講義	2	講義	○						注7

注4：本科目はスポーツ教育学科では、学科基礎科目の「学部キャリアセミナー」（3年次開講予定）として開講されます。そのため、スポーツ教育学科の学生は、本科目を一般教育科目として履修することはできません。「学部キャリアセミナー」の開講時限は、別途配布される時間割表で確認すること。

注5：「ボランティア実習」の履修を希望する場合には、「ボランティア論」の単位を修得していなければいけません（単位修得見込み者も含む）。「ボランティア実習」は実習先が異なる場合には、複数の履修が可能です。修得可能な単位数の上限は6です。詳しくは、「ボランティア論」の担当教員に確認してください。

注6：個人で参加する留学について、単位認定を申請できる場合があります。詳しくは、55ページの「4. 留学制度について」の「3）個人による留学について」を参照してください。

注7：年度によって開講される科目が異なります。詳細は、各年度の授業時間割を確認してください。

●…必修 ○…選択
 △…選択必修(1科目以上) □…選択必修(1科目以上)
 ☆…選択必修(中学のみ2科目以上)

2 スポーツ教育学科教育課程表(専門科目)①

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考	
								小学校	中・高体育		
専 門 基 礎 科 目	必修	身体の仕組みと働き	2	講義	●				●		
		障害者スポーツ論	2	講義		●			○	○	
		学部キャリアセミナー	2	講義			●				
	選択必修	スポーツ史	2	講義	○					●	2科目 以上 選択
		スポーツ社会学	2	講義	○					●	
		スポーツ情報処理論	2	講義	○						
		衛生学・公衆衛生学	2	講義	○					●	
		スポーツ心理学	2	講義		○				●	
		スポーツバイオメカニクス	2	講義		○				●	
		※1									
		バレーボール	1	演習	○					△	2科目 以上 選択
		バスケットボール	1	演習	○					□	
		サッカー	1	演習		○				□	
		ラグビー	1	演習		○				□	
		ソフトボール・野球	1	演習		○				△	
		ハンドボール	1	演習		○				□	
		テニス	1	演習		○					
		バドミントン	1	演習		○					
		2科目 以上 選択	陸上競技	1	演習	○				●	●
			水泳	1	演習	○					●
	ダンス		1	演習	○					●	
	柔道		1	演習	○					○	
	※2										
	剣道		1	演習	○					○	
	※2										
	器械運動		1	演習	○					●	
	ボディーワーク2(体操:体づくり運動、集団行動)		1	演習	○					●	
	●										
	エアロビクス(演習を含む)	1	演習			○					
	ゼミナール	専門演習Ⅰ	2	演習			●				
		専門演習Ⅱ	2	演習			●				
		専門演習Ⅲ	2	演習				●			
		専門演習Ⅳ	2	演習				●			
		卒業研究	4	演習				●			
	国際	国際コミュニケーション実習Ⅰ	4	実験・実習	○						
		国際コミュニケーション実習Ⅱ	4	実験・実習	○						
		国際コミュニケーション実習Ⅲ	4	実験・実習	○						
	教養	法学	2	講義	○				●	●	
		教育学	2	講義	○						
		数学概論Ⅰ	2	講義	○						
数学概論Ⅱ		2	講義	○							
統計入門		2	講義		○						
スポーツ科学の基礎	スポーツ文化論	2	講義	○							
	生涯スポーツ論	2	講義	○				○	○		
	スポーツイベント施設論	2	講義	○							
	発育発達老化論	2	講義	○							
	シーズンスポーツ論Ⅰ(演習を含む)	2	演習	○							
	シーズンスポーツ論Ⅱ(演習を含む)	2	演習	○							
	スポーツ人類学	2	講義	○							
	スポーツプロジェクト研究Ⅰ	2	講義	○							
	スポーツプロジェクト研究Ⅱ	2	講義	○							
	スポーツ哲学	2	講義		○				●		
	インクルーシブスポーツ論	2	講義		○						
	ヘルスプロモーション論	2	講義		○						
	運動部活動論	2	講義		○				○		
スポーツ医学Ⅰ	2	講義		○							

※1: スポーツバイオメカニクスまたは機能解剖学Ⅰより1科目選択
 ※2: 柔道または剣道より1科目選択

2 スポーツ教育学科教育課程表（専門科目）②

●…必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考	
								小学校	中・高体育		
専 門 科 目	学 科 必 修 科 目	学科基礎セミナーⅠ	2	講義	●						
		学科基礎セミナーⅡ	2	講義	●						
		小学体育Ⅰ	1	講義	●				●		
		小学体育Ⅱ	1	講義	●				●		
		教師論（初等を含む）	2	講義	●				●	●	
		教育心理学（初等を含む）	2	講義	●				●	●	
		自然活動論Ⅰ（演習を含む）	2	演習	●						
		教育方法論（初等を含む）	2	講義		●			●	●	
		スポーツ教育学	2	講義		●			○	○	
	教 育 ・ 現 場 の 理 解	教育原理・教育課程論（初等を含む）	2	講義		○			●	●	
		教育社会論（初等および学校安全を含む）	2	講義		○			●	●	
		学校体験実習（小学校）	1	実験・実習		○			○		
		学校体験実習（中・高）	1	実験・実習		○				○	
		学校インターンシップ実習	1	実験・実習				○	○	○	
		ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）	2	講義			○		●	●	
		学校保健・学校安全	2	講義			○			●	
	教 科 総 論 ・ 概 論	人文科学系教科総論	2	講義		○			●		
		社会科学系教科総論	2	講義		○			●		
		自然科学系教科総論	2	講義		○			●		
		国語概論（書写を含む）	1	講義			○		●		
		算数概論	1	講義			○		●		
		理科概論	1	講義			○		●		
		社会科概論	1	講義			○		●		
		外国語概論	1	講義			○		●		
		家庭概論	1	講義			○		●		
		生活概論	1	講義			○		●		
		図画工作概論	1	講義			○		●		
		音楽概論	2	講義		○			●		
		小学体育Ⅲ	2	講義		○			●		
		教 科 指 導 法	教科指導法（国語）	1	講義			○		●	
			教科指導法（算数）	1	講義			○		●	
	教科指導法（理科）		1	講義			○		●		
	教科指導法（社会）		1	講義			○		●		
	教科指導法（外国語）		2	講義			○		●		
	教科指導法（家庭）		1	講義			○		●		
	教科指導法（生活）		1	講義			○		●		
	教科指導法（図画工作）		1	講義			○		●		
	教科指導法（音楽）		2	講義			○		●		
	教科指導法（体育）		2	講義			○		●		
	児 童 生 徒 の 指 導	特別支援教育指導論（初等を含む）	2	講義		○			●	●	
		教育相談・キャリア教育指導論（初等を含む）	2	講義		○			●	●	
		児童生徒指導論	2	講義		○			●	●	
		道徳教育指導論（初等を含む）	2	講義		○			●	● ※○	
		特別活動・総合的な学習の時間指導法（初等を含む）	2	講義			○		●	●	
		体づくり運動指導法	2	講義			○			○	
体育科教育法		2	講義		○				●		
保 健 ・ 体 育 の 指 導	保健科教育法	2	講義		○				●		
	器械運動指導法・コーチング論	2	講義			○			○		
	陸上競技指導法・コーチング論	2	講義			○			☆		
	水泳指導法・コーチング論	2	講義			○			○		
	ゴール型球技指導法・コーチング論	2	講義			○			○		
	ネット型球技指導法・コーチング論	2	講義			○			☆		
	ベースボール型球技指導法・コーチング論	2	講義			○			☆		
	武道指導法・コーチング論	2	講義			○			☆		
	ダンス指導法・コーチング論	2	講義			○			☆		
	保健体育授業演習Ⅰ	2	演習		○				○		
	保健体育授業演習Ⅱ	2	演習			○			○		
保健体育授業演習Ⅲ	2	演習			○			○			

- …必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

2 スポーツ教育学科教育課程表（専門科目）③

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考		
								小学校	中・高体育			
専門科目	学科専門科目 関連知識の理解	テーピング論（演習を含む）	2	演習	○							
		幼児スポーツ論（演習を含む）	2	演習		○						
		自然活動論Ⅱ（演習を含む）	2	演習		○						
		スポーツ政策論	2	講義	○							
		スポーツマーケティング論	2	講義	○					●		
		スポーツマネジメント論	2	講義	○				○	○		
		機能解剖学Ⅰ	2	講義	○					○	※1	
		レクリエーション論	2	講義		○						
		文章表現論	2	講義				○				
		身近な数学	2	講義				○				
		「スポーツ人物史」の研究	2	講義				○				
		測定評価学（演習を含む）	2	演習				○				
		コーチング学	2	講義				○		○		
高齢者活動支援論（演習を含む）	2	演習				○						
教職科目	教育の実践	教育実習（初等）	4	実験・実習			○	●				
		教育実習（中学校）	4	実験・実習				○	●	※3		
		教育実習（高校）	2	実験・実習				○			※4	
		事前・事後指導（初等）	1	講義				○	●			
		事前・事後指導（中・高）	1	講義				○	●			
		教職実践演習（初等を含む）	2	演習				○	●	●		

※1：スポーツバイオメカニクスまたは機能解剖学Ⅰより1科目選択

※3：中・高両方取得の場合

※4：高校免許のみ取得の場合

※○：小・中のみ

注）各年度によって、科目の前後期配当が変わる場合があります。その際は、学年が開始される前に別途お知らせします。

3 スポーツ健康科学科教育課程表（一般教育科目）

大学共通科目 [MAST]

MAST A

●…必修 ○…選択

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年 (予定)	備考
一般教育科目	MAST A	桐蔭キャリアゲート	必 2	講義	●				
		桐蔭スキルゲート	必 2	講義	●				注1
		データコミュニケーション入門	必 2	講義	●				注1
		英語コミュニケーションⅠ	必 2	講義	●				
		英語コミュニケーションⅡ	必 2	講義	●				
		英語コミュニケーションⅢ	2	講義		○			
		英語コミュニケーションⅣ	2	講義		○			

注1：教員免許を取得する学生は教職必修科目となります。

MAST B/C

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年 (予定)	備考	
一般教育科目	地域創成コンポ	MAST B	地域の科学	2	講義	○				
			サステナブル社会学	2	講義	○				
		MAST C	地域における健康課題	2	講義	○				
			コミュニティ・ファシリテーション	2	講義	○				
	ビジネス・インテリゲンシコンポ	MAST B	地域政治論	2	講義		○			
			地域観光事業論	2	講義		○			
			横浜地域学	2	講義		○			
			実践地域創成学	2	講義		○			
		MAST C	ビジネスの科学	2	講義	○				
			マーケティング各論	2	講義	○				
			アントレプレナーシップ	2	講義	○				
			デジタル産業論	2	講義	○				
	異文化スタディコンポ	MAST B	マーケティング・リサーチ	2	講義		○			
			ウェブ・コミュニケーション	2	講義		○			
			現代ビジネス論	2	講義		○			
			ビジネスアイデアデザイン	2	講義		○			
		MAST C	異文化の科学	2	講義	○				
			言語文化論	2	講義	○				
			表現とコミュニケーション	2	講義	○				
			視覚文化論	2	講義	○				
	現代心理コンポ	MAST B	異文化リサーチ	2	講義		○			
			ファッション文化論	2	講義		○			
			フード文化論	2	講義		○			
			若者文化論	2	講義		○			
		MAST C	心の科学	2	講義	○				
			健康と心理学	2	講義	○				
			こころの世界	2	講義	○				
			青年と心理学	2	講義	○				
集団と心理学			2	講義		○				
幸せと心理学			2	講義		○				
意思決定と心理学			2	講義		○				
自己調整と心理学			2	講義		○				

(次ページに続く)

●…必修 ○…選択

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年 (予定)	備考	
一般教育科目	地球環境コンボ	MAST B	地球環境の科学	2	講義	○				
		科学技術の未来	2	講義	○					
		地球と環境	2	講義	○					
		持続可能な開発と法	2	講義	○					
	スポーツ・イン・ソサエティ・コンボ	MAST B	アスリートの科学	2	講義	○				
			大学スポーツ論	2	講義	○				
			アスリートキャリア	2	講義	○				
		MAST C	体育実技Ⅰ	1	実験・実習	○				注2
			体育実技Ⅱ	1	実験・実習	○				注2
			アスリート・クロス	2	講義		○			
	プロジェクト科目	MAST C	アスリートのリーダーシップ	2	講義		○			
			アスリートのライフスキル	2	講義		○			
		プロジェクト科目	プロジェクト入門	2	演習	○				注3
			分野横断型プロジェクト	3	演習		○			

注2：スポーツ科学部の学生は本科目を履修しても卒業要件単位になりません。学科基礎科目として開講される競技（演習）を履修すること。

注3：プロジェクト入門は6つのコンボがテーマを設定し、それぞれに授業が開講されます（年度によって開講される授業は異なります）。詳細は、授業時間割を確認してください。

ウェルビーイングプログラム

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年	4年 (予定)	備考
一般教育科目	キャリアデザイン系	キャリアセミナーⅠ	2	講義		○			
		キャリアセミナーⅡ	2	講義		○			
		キャリアセミナーⅢ	2	講義			○		注4
		インターンシップ	2	実験・実習		○			
		ソーシャルコミュニケーション	2	講義		○			
	ライフデザイン系	キャリアトランジション	2	講義	○				
		ことばのスキル	2	講義	○				
		ボランティア論	2	講義	○				
		ボランティア実習	2	実験・実習	○				注5
		海外実習	2	実験・実習		○			注6

MAST特別講義

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	備考
一般教育科目		MAST特別実習	1	実験・実習	○				注7
		MAST特別講義	2	講義	○				注7

注4：本科目はスポーツ健康科学科では、学科基礎科目の「学部キャリアセミナー」（3年次開講予定）として開講されます。そのため、スポーツ健康科学科の学生は、本科目を一般教育科目として履修することはできません。「学部キャリアセミナー」の開講時限は、別途配布される時間割表で確認すること。

注5：「ボランティア実習」の履修を希望する場合には、「ボランティア論」の単位を修得していないといけません（単位修得見込み者も含む）。「ボランティア実習」は実習先が異なる場合には、複数回の履修が可能です。修得可能な単位数の上限は6です。詳しくは、「ボランティア論」の担当教員に確認してください。

注6：個人で参加する留学について、単位認定を申請できる場合があります。詳しくは、55ページの「4. 留学制度について」の「3）個人による留学について」を参照してください。

注7：年度によって開講される科目が異なります。詳細は、各年度の授業時間割を確認してください。

4 スポーツ健康科学科教育課程表（専門科目）①

●…必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考	
専 門 科 目	必修	身体の仕組みと働き	2	講義	●			●		
		障害者スポーツ論	2	講義		●		○		
		学部キャリアセミナー	2	講義			●			
		スポーツ史	2	講義	○				●	
		スポーツ社会学	2	講義	○				●	
		スポーツ情報処理論	2	講義	○					
		衛生学・公衆衛生学	2	講義	○				●	
		スポーツ心理学	2	講義		○			●	
		スポーツバイオメカニクス	2	講義		○			●	※1
		バレーボール	1	演習	○				△	
	選択必修	バスケットボール	1	演習	○				□	
		サッカー	1	演習		○			□	
		ラグビー	1	演習		○			□	
		ソフトボール・野球	1	演習		○			△	
		ハンドボール	1	演習		○			□	
		テニス	1	演習		○				
		バドミントン	1	演習		○			△	
		陸上競技	1	演習	○				●	
		水泳	1	演習	○				●	
		ダンス	1	演習	○				●	
	基礎科目	柔道	1	演習	○				○	※2
		剣道	1	演習	○				○	※2
		器械運動	1	演習	○				●	
		ボディーワーク2(体操:体づくり運動、集団行動)	1	演習	○				●	
		エアロビクス(演習を含む)	1	演習			○			
		専門演習Ⅰ	2	演習			●			
		専門演習Ⅱ	2	演習			●			
		専門演習Ⅲ	2	演習				●		
		専門演習Ⅳ	2	演習				●		
		卒業研究	4	演習				●		
	国際	国際コミュニケーション実習Ⅰ	4	実験・実習	○					
		国際コミュニケーション実習Ⅱ	4	実験・実習	○					
		国際コミュニケーション実習Ⅲ	4	実験・実習	○					
	教養	法学	2	講義	○				●	
		教育学	2	講義	○					
		数学概論Ⅰ	2	講義	○					
		数学概論Ⅱ	2	講義	○					
		統計入門	2	講義		○				
		スポーツ科学の基礎	スポーツ文化論	2	講義	○				
	生涯スポーツ論		2	講義	○				○	
スポーツイベント施設論	2		講義	○						
発育発達老化論	2		講義	○						
シーズンスポーツ論Ⅰ(演習を含む)	2		演習	○						
シーズンスポーツ論Ⅱ(演習を含む)	2		演習	○						
スポーツ人類学	2		講義	○						
スポーツプロジェクト研究Ⅰ	2		講義	○						
スポーツプロジェクト研究Ⅱ	2		講義	○						
スポーツ哲学	2		講義		○			●		
インクルーシブスポーツ論	2		講義		○					
ヘルスプロモーション論	2		講義		○					
運動部活動論	2		講義		○			○		
スポーツ医学Ⅰ	2		講義		○					
学科専門科目	学科必修科目	学科基礎セミナーⅠ	2	講義	●					
		学科基礎セミナーⅡ	2	講義	●					
		機能解剖学Ⅰ	2	講義	●				○	※1
		救急処置論(演習を含む)	2	演習	●					
		運動処方論	2	講義	●					
		トレーニング論(演習を含む)	2	演習	●					
		スポーツ栄養学Ⅰ	2	講義		●				

※1: スポーツバイオメカニクスまたは機能解剖学Ⅰより1科目選択
 ※2: 柔道または剣道より1科目選択

●…必修 ○…選択
 △…選択必修(1科目以上) □…選択必修(1科目以上)
 ☆…選択必修(中学のみ2科目以上)

4 スポーツ健康科学科教育課程表(専門科目)②

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考
専 門 科 目	スポーツ情報分析	測定機器の操作	2	講義		○			
		スポーツ映像分析論	2	講義		○			
		スポーツデータ解析	2	講義		○			
		スポーツ情報戦略論	2	講義		○			
		動作分析論	2	講義			○		
		検査・測定と評価	2	講義			○		
		測定評価学(演習を含む)	2	演習			○		
	スポーツコーチング	スポーツ指導者論	2	講義	○				
		スポーツ技術・戦術論	2	講義		○			
		健康教育学	2	講義		○			
		スポーツ教育学	2	講義		○			○
		コーチング学	2	講義			○		○
		メンタルトレーニング論	2	講義			○		
		チャンピオンシップスポーツコーチング論	2	講義			○		
		ジュニアスポーツコーチング論	2	講義			○		
		陸上競技指導法・コーチング論	2	講義			○		☆
		水泳指導法・コーチング論	2	講義			○		○
		武道指導法・コーチング論	2	講義			○		☆
		ダンス指導法・コーチング論	2	講義			○		☆
		器械運動指導法・コーチング論	2	講義			○		○
		ゴール型球技指導法・コーチング論	2	講義			○		○
		ネット型球技指導法・コーチング論	2	講義			○		☆
	ベースボール型球技指導法・コーチング論	2	講義			○		☆	
	スポーツコーチング実習Ⅰ	1	実験・実習			○			
	スポーツコーチング実習Ⅱ	1	実験・実習			○			
	スポーツトレーナー	アスレティックトレーナーの役割	2	講義	○				
		健康医学入門	2	講義	○				
		テーピング論(演習を含む)	2	演習	○				
		運動生理学	2	講義		○			
		機能解剖学Ⅱ	2	講義		○			
		リハビリテーション論	2	講義		○			
		スポーツ栄養学Ⅱ(演習を含む)	2	演習		○			
		トレーニング学(演習を含む)	2	演習			○		
		健康管理とスポーツ医学	2	講義			○		
		スポーツ医学Ⅱ	2	講義			○		
		体づくり運動指導法	2	講義			○		
		ストレッチング論(演習を含む)	2	演習	○				
		予防とコンディショニングⅠ(演習を含む)	2	演習	○				
		予防とコンディショニングⅡ(演習を含む)	2	演習		○			
		予防とコンディショニングⅢ(演習を含む)	2	演習			○		
	アスレティックリハビリテーションⅠ(演習を含む)	2	演習		○				
	アスレティックリハビリテーションⅡ(演習を含む)	2	演習			○			
	アスレティックリハビリテーションⅢ(演習を含む)	2	演習				○		
	スポーツライフ	スポーツ政策論	2	講義	○				
		スポーツマーケティング論	2	講義	○				●
		スポーツマネジメント論	2	講義	○				○
		スポーツジャーナリズム論	2	講義	○				
幼児スポーツ論(演習を含む)		2	演習		○				
「スポーツ人物史」の研究		2	講義			○			
日本伝統の身体表現		2	講義		○				
障害概論(演習を含む)		2	演習		○				
国際交流論		2	講義		○				
レクリエーション論		2	講義		○				
高齢者活動支援論(演習を含む)		2	演習			○			
スポーツ現場実習Ⅰ		1	実験・実習	○					
スポーツ現場実習Ⅱ		1	実験・実習		○				
スポーツ現場実習Ⅲ		1	実験・実習			○			
スポーツ現場実習Ⅳ		1	実験・実習			○			
スポーツ現場実習Ⅴ	2	実験・実習				○			
スポーツインターンシップ実習	1	実験・実習	○						

4 スポーツ健康科学科教育課程表（専門科目）③

●…必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考
専門科目	学科専門科目 教育法等	体育科教育法	2	講義		○		●	
		保健科教育法	2	講義		○		●	
		学校保健・学校安全	2	講義			○		●
		教育方法論	2	講義		○			●
		ICT活用スキルの理論と実際	2	講義			○		●
		教師論	2	講義	○				●
		教育心理学	2	講義	○				●
		特別活動・総合的な学習の時間指導法	2	講義			○		●
		教育相談・キャリア教育指導論	2	講義		○			●
		道徳教育指導論	2	講義		○			●
		教育社会論（学校安全を含む）	2	講義	○				●
		教育原理・教育課程論	2	講義		○			●
		特別支援教育指導論	2	講義		○			●
		生徒指導論	2	講義			○		●
		保健体育授業演習Ⅰ	2	演習		○			○
保健体育授業演習Ⅱ	2	演習			○		○		
保健体育授業演習Ⅲ	2	演習			○		○		
教職科目	教育の実践	教育実習（中学校）	4	実験・実習			○	○	※3
		教育実習（高校）	2	実験・実習			○	○	※4
		事前・事後指導（中・高）	1	講義			○	●	
		教職実践演習（中・高）	2	演習			○	●	
		学校体験実習（中・高）	1	実験・実習		○		○	
学校インターンシップ実習	1	実験・実習				○	○		

※3：中・高両方取得の場合

※4：高校免許のみ取得の場合

注）各年度によって、科目の前後期配当が変わる場合があります。その際は、学年が開始される前に別途お知らせします。

履修上の諸注意

1 履修計画を立てる前に知っておきましょう

卒業するのに必要な単位は最低126単位です。ただし、必ず履修しなければならない科目があったり、各学期で履修登録できる単位数に上限があったりするなど、履修計画を立てるうえで知っておかなければならないことがあります。以下をよく理解して履修計画を立てましょう。

1) CAP制度（それぞれの学期で登録できる単位数には上限があります）

履修する授業科目をよく選び、その科目に十分な時間をかけて深く学修することができるよう、各学期に履修登録できる単位数に上限があります。原則として各学期に履修登録できる単位数は24単位までです。

学 年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
単位登録の上限	前 期	24単位	24単位	24単位	24単位
	後 期	24単位	24単位	24単位	24単位

ただし、累積GPAが3.0以上の者は、30単位まで登録できます（GPA制度については50ページを参照）。

履修登録できる単位数の上限を超えていないかどうか計算をするときに、以下の科目は除いて計算してください。

- (1) 履修申告期間外に登録する科目（自然活動論、他）および集中講義科目
- (2) 「自由科目」のカテゴリーに入っている科目
- (3) 学期当たりの単位数が1単位の科目
- (4) 演習科目
- (5) 大学間等の単位互換制度によって修得する単位

上記のほか、次ページの科目がCAP制度から除外されます。

■ CAP制度から除外される科目

教師論
教師論（初等を含む）
教育原理・教育課程論
教育原理・教育課程論（初等を含む）
教育心理学
教育心理学（初等を含む）
教育社会論（学校安全を含む）
教育社会論（初等および学校安全を含む）
道徳教育指導論
道徳教育指導論（初等を含む）
特別活動・総合的な学習の時間指導論
特別活動・総合的な学習の時間指導論（初等を含む）
教育方法論
教育方法論（初等を含む）
生徒指導論
児童生徒指導論
教育相談・キャリア教育指導論
教育相談・キャリア教育指導論（初等を含む）
ICT活用スキルの理論と実際
ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）

2) 履修上、配慮を必要とする科目

(1) 専門演習・卒業研究（全員 必修）

専門演習Ⅰ、Ⅱを3年次で履修し、専門演習Ⅲ、Ⅳを4年次で履修します。専門演習は、学期ごとにⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順に履修し、1つの学期内で複数の専門演習を同時に履修することはできません。たとえば、3年前期に専門演習Ⅰの単位が修得できなかった場合、3年後期では専門演習Ⅱを履修できませんし、4年前期に専門演習Ⅰと専門演習Ⅲを同時に履修することはできません。卒業研究は通年科目です。通年科目は4月のみ登録可能です。したがって、卒業研究ほか通年科目を残している場合、9月卒業はできません。

2 留年しないために（4年で卒業するにはこの条件をクリアすべし）

スポーツ科学部では、2年次が終わるまでに修得した合計修得単位数が50単位未満の場合、3年次に進級することができません。3年次に進級できないと、3年次以上に配当されている開講科目を履修することができません。

次の学期に進む際に、修得した卒業要件単位数が次表に示してある単位数に満たない場合には、保証人宛に「警告」あるいは「注意」の文書が送られることになっています。

		1年次	2年次	3年次	4年次
警告基準	前期末	10	35	70	110
	後期末	20	50	90	—
注意基準	前期末	15	45	80	—
	後期末	30	60	100	—

3 卒業見込み証明書発行基準

下記の基準を満たした者に、卒業見込み証明書が発行されます。

- (1) 4年次に進級したもの
- (2) 「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」の単位を取得済みであること
- (3) 4年次前期においては、(3年次後期末までに) 90単位以上の卒業要件単位を取得していること
- (4) 4年次後期においては、(4年次前期末までに) 110単位以上の卒業要件単位を取得していること

4 履修科目を登録する(履修申告)

履修する科目を登録することを「履修申告」と言います。履修申告していない授業科目は、授業に出席しても試験を受けることができず、単位も修得できません。下記の手続きに従って、決められた期間内に履修申告をしてください。履修申告は、特別の場合を除き、すべて桐蔭ユニバーサル・パスポート(桐蔭ユニバ)による登録です。

1) 桐蔭ユニバーサル・パスポート(桐蔭ユニバ)による登録

個人のIDとパスワードを使ってパソコンで履修申告を行う制度です。インターネットが利用できれば、自宅からでも履修申告を行うことができます。許可されない科目を登録したり、単位数の上限を超えて申告した場合等には、画面上にエラーや警告メッセージが表示される「リアルタイム・チェック機能」があり、履修申告の結果もオンラインで確認することができます。

間違いなど後で修正が必要になることがあるので、**必ずプリントアウトしておきます。**

2) 履修申告の際の留意点

- (1) 履修科目を登録するときは、次のことによく注意してください。
 - ① 同じ時間帯の授業科目は重複して登録できない
 - ② クラスが指定されている授業科目については、指定クラス以外で登録できない
(特別な事情と認められる場合には、指定クラス以外での登録が認められることがあります。詳しくは、学務部に相談してください)
 - ③ 単位をすでに修得している授業科目は再登録できない
 - ④ 上位学年に指定されている授業科目は登録できない
 - ⑤ 各学期の登録単位数の上限を超えては登録できない(38ページ「1-1) CAP制度」参照)
- (2) 他学部・他学科で開講されている科目および指定されたクラス以外のクラスを登録する場合は、桐蔭ユニバーサル・パスポート(桐蔭ユニバ)での登録はできません。下記の手続きが必要です。
 - ① 学務部で、「他学部・他学科科目等履修希望届」を受けとる
 - ② 授業担当教員の許可を得て、サインをもらう
 - ③ 学務委員長に承認のサインをもらう
 - ④ 履修登録期間中に、学務部へ書類を提出する

履修申告の流れ

履修登録に間違いがないように十分注意し、申告してください。
不明点の問い合わせは学務部までお願いします。

1 学期始めのガイダンス

- ① 前の学期までの修得単位数を確認。
- ② 履修申告期間を確認。
- ③ シラバス等を参考に、当該学期の履修計画を練る。

2 計画ができれば、桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニパ）にアクセス

- ① 自分のIDとパスワードを使ってログインし、画面で履修申告を行ってください。
- ② 疑問や質問があるときは、学務部に問い合わせてください（電話やメールでの問い合わせはできません。窓口での対応になります）。
- ③ 申告内容を修正したい場合、**履修申告期間内であれば、何度でも修正できます。**
- ④ 「他学部・他学科科目等履修届」は、授業担当教員および学務委員長のサインをもらう必要があります（桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニパ）では履修申告できません）。

住所不明の者（学生本人、保証人）、提出書類に不備がある学生は、登録画面に「時間割は登録できません」のメッセージが表示され、履修申告ができません。
必ず学務部の窓口で所定の手続きを済ませてから履修申告をしてください。

定期健康診断未受診者は、身体活動を伴う実技・実習科目等は履修できません。
未受診者は、各自医療機関で受診し、結果を保健室へ提出してください。

3 時間割の確認

- ① 自分の時間割の登録内容に間違いがないかどうかを確認してください。

4 履修申告期間内に登録を完了し、必ずプリントアウト

- ① **各自、必ずプリントアウトして履修登録できていることを確認してください。**
- ② 履修申告期間終了後に、何らかのミスが見つかったり、訂正が必要となった場合、プリントアウトした時間割がないと確認することができません。

これで履修登録完了！

履修申告のその他の注意事項

■ 履修申告の修正について

履修申告修正期間内に、履修登録した科目を修正することができます。履修申告の修正については、学務部の通知およびオリエンテーションで確認をしてください。

■ 履修申告期限内に履修申告をしなかった者について

学務委員会の承認を受けることを条件として、授業開始後3週目までは、履修申告の登録をすることができます。

■ 履修申告期間外の登録（集中講義など）

以下の科目は、通常の履修申告期間以外に、インターネット、もしくは「履修申告用紙」により履修申告を行います。

- ① 集中講義として開講される科目
- ② 自然活動論など通常の授業期間外に開講される科目
- ③ 実習は、各実習のガイダンス等で、日程や登録の仕方を確認してください。
- ④ 教育実習の登録は、別途手続きをします。

5 学部外で修得した単位の認定

スポーツ科学部の学生は、基本的に、本学部で開講されている科目を履修して、卒業に必要な単位を修得してください。ただし、下記のケースに限り、学部外で修得した単位を本学部の単位として認定することがあります。

1) 1年次入学生の入学前修得単位の認定

1年次に入学した学生が、本学に入学する前に他の教育機関等で修得した単位の一部を、**16単位を限度**として本学部の卒業要件単位として認めることがあります。認定を希望する学生は、前期（第1学期）の履修申告期間の開始までに、学務部に相談してください。

2) 外国人留学生の日本語授業の受講免除と単位認定

外国人留学生は、日本語のプレースメントテストの成績により、日本語授業の受講を免除し単位を認めることがあります。外国人留学生は、必ず「日本語」の第1回目の授業で行われるプレースメントテストを受験してください。

3) 放送大学の授業科目の単位認定

放送大学で修得した単位は、10単位を上限として本学部の「一般教育科目」の単位として認定されますので、卒業要件単位に算入されることとなります。放送大学で履修できる授業科目は定められたものに限り、放送大学の授業の受講にかかる費用は自己負担です。受講の申し込みは年に2回、学務部を通して行います。詳細は学務部に相談してください。

4) 横浜市内大学間単位互換協定による単位認定

この協定に参加している大学で修得した単位は、「一般教育科目」として卒業単位に認定します。但し、履修希望者は、事前に履修指導を受けなければなりません。また、以下の規定がありますので十分注意してください。

- ① 履修できる科目は加盟大学の開講科目のみとする。
- ② 1年次生、4年次生（卒業に必要な単位を全て修得した者を除く）は履修することができない。
- ③ 成績評価と単位認定は、本学の評価基準に従って行う。

5) 留学先機関で修得した単位の認定

「留学」が認められ、海外の大学等教育機関で単位を修得した場合、**30単位を上限**として本学部の卒業要件単位として認められることがあります。「留学」をする際は、必ず事前に学務部に相談してください。

6) 英語科目の到達目標と単位認定

英検、TOEIC[®]、TOEFL[®]、IELTS[™]において、所定の級、点数を取得した者は、以下の基準でMAST科目として開講される英語コミュニケーションを除く、英語関連の講義・演習科目の単位として認定します。当該年度の対象科目については、学務部に確認をしてください。

すでに到達しているレベルに加算される形で、上限を8として単位が認定されます。科目でレベル2までの4単位を修得した後に、英検2級（レベル2）を取得した場合には、追加で単位は認定されませんが、英検準1級（レベル3）を取得した場合には、2単位分が認定されます。

ただし、入学後に受験した試験に限ります。

■卒業までの最低到達目標

英検準2級、TOEIC[®]400点、TOEFL[®] (PBT) 400点、TOEFL[®] (iBT) 40点、IELTS[™] 4

■単位認定の基準

レベル	認定単位数	英検	TOEIC [®]	TOEFL [®] (iBT)	IELTS [™]
4	2	1級	860～990	80～120	6.5～9
3	2	準1級	630～855	67～79	5.5～6
2	2	2級	500～625	56～66	5
1	2	準2級	400～495	40～52	4～4.5

7) スポーツ科学部の認定科目

公務員演習（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）を履修して単位修得した場合は、各学科の学科専門科目の認定科目（卒業要件単位）としてそれぞれ2単位が認定されます。

2 授業・試験・成績評価

- 授業や試験、成績評価についての基本的なルールと注意事項です。
- 試験に関するルールなどは、違反すると進級や卒業ができなくなる場合もあるので「知らなかった……」にならないように。

1 授業

1 授業時間

一般の授業	
時 限	時 間
第1時限	8:50 ~ 10:35
第2時限	10:45 ~ 12:30
第3時限	13:00 ~ 14:45
第4時限	14:55 ~ 16:40
第5時限	16:50 ~ 18:35

2 受講上の心得

- (1) 授業は時間割に基づいて行われます。時間割や教室等に変更がある場合は、桐蔭ユニパまたは掲示板を通じて連絡されます。
- (2) 単位を修得するには、少なくとも授業回数の**3分の2以上**の出席が必要です。

3 実技科目受講上の注意

- (1) 定期健康診断未受診者は身体活動を伴う実技・実習科目等は履修できません。
- (2) 運動靴は「体育館専用」のもの、「屋外専用」のものを必ず別々に用意してください。また、「体育館専用」の運動靴の靴紐は、売店で販売している赤色の靴紐を使用することが必要です。
- (3) 学内の体育施設へ、自転車やバイク等で移動することは禁止です。
- (4) 原則として屋外施設を含む、桐蔭学園内の体育施設内は、水分補給の為に飲料を除き、飲食禁止とします。
- (5) 更衣は必ずロッカー室を使用してください。

4 授業の欠席について

授業はすべて出席することが原則です。

1) 欠席する場合（感染症は 2）、忌引きは 3）を参照）

病気や怪我、その他の理由によりやむなく授業を欠席し、以下の事由に該当した場合は、「欠席届」等を授業担当教員に提示し報告することができます。

「忌引届」、「感染症罹患届」、「診断・登校許可証明書」の書式は、桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニバ）からダウンロードしてください。

ただし、「欠席届」は**欠席理由を明示するものであって、欠席が出席になるわけではありません。**扱いについては授業担当教員の判断に委ねられています。

「欠席届」を提出することができる事由

- 学会発表（発表者のみ）
- 学生会公認団体の試合等
- 大学行事等
- 国または都道府県の諸行事や大学代表として派遣される場合
- 通学中、授業中、公認団体での活動中の傷害
- 病気にかかった場合（「2）感染症にかかった場合」も参照）

いずれの場合も大会要項、医師の診断書等、欠席理由・欠席期間を証明する書類を添付すること

（手続方法）

- ① 学務部窓口にて「欠席届」を受け取り、必要事項を記入する。
- ② 記入した「欠席届」を顧問等の教員に提出し、署名および捺印をいただく。
- ③ 欠席した授業の担当教員に「欠席届」を提示して説明する。
※授業担当教員から欠席届の提出を求められたときは適宜コピーをとること。

2) 感染症にかかった場合

- (1) 学校保健安全法に定められた感染症にかかっていると疑われる場合は通学を見合わせ、速やかに医師の診療を受けてください。診断の結果、感染症にかかっていると診断された場合は直ちに学務部（045-971-1415）に電話で連絡をしてください。医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。
- (2) 医師が治癒したものと診断し通学を許可した場合、医師の署名捺印を受けた「診断・登校許可証明書」を添えて「感染症罹患届」を学務部に提出してください。
※「感染症罹患届」「診断書・登校許可証明書」は、桐蔭ユニバからダウンロードしてください。

■ 病名と出席停止の期間

	病名	期間
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群 ^{※1} 、中東呼吸器症候群 ^{※2} 、特定鳥インフルエンザ ^{※3} 、	治癒するまで
第2種	新型コロナウイルス（COVID-19）感染症	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまで
	百日咳	特有の咳がなくなるまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	熱が下がって3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消えるまで
	水痘（水ぼうそう）	すべての発疹がかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消失した後2日を経過するまで
第3種	結核、髄膜炎菌髄膜炎	病状により、学校医・その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（溶連菌感染症、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症など） ^{※4}	

※1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る

※2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る

※3 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に規定する特定鳥インフルエンザをいう

※4 第3種その他の感染症については学校医・大学の判断で出席停止となる場合があります

3) 忌引きの場合

忌引により欠席する場合、次の続柄の親族が亡くなった場合は「忌引届」を提出することができます。提出の際、欠席日を確認できる「会葬御礼」または死亡を確認できる「公的証明書」の写しが必要です。なお、忌引日数は次のとおりです。

※「忌引届」は桐蔭ユニバからダウンロードしてください。

父 母	7日以内	※日数には、土日・祝日を含む連続する期間とします。
祖父母・兄弟姉妹	3日以内	
伯（叔）父母	1日	

5 公共交通機関の遅延等について

通学中、電車やバスが何らかの理由により運行できない、もしくは遅延して授業に遅刻・欠席せざるをえない場合は、遅延証明書を駅やバス営業所等からもらい、授業担当教員に自分で報告してください。ただし、遅延証明書を提出しても遅刻が取り消しになったり、欠席が出席になるわけではありません。すべて授業担当教員の判断に委ねられています。

遅延等に備えてあらかじめ迂回ルートを考えておくとよいでしょう。

6 休講と補講

- (1) 授業が休講になる場合は、掲示板に休講情報が掲示されます。
- (2) 休講等で所定の授業回数が不足している場合、その他やむをえない事情がある場合には補講を行うことがあります。補講情報は掲示板に掲示されます。
- (3) 補講予定日は、各年度の授業予定カレンダーを参照してください。
- (4) 休講情報、補講情報は桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニバ）でも確認できます（補講情報も含まれます）。

パソコン <https://unipa.toin.ac.jp/uprx/>

7 緊急時の授業の取り扱い

1) 台風等

台風接近等により、神奈川県全域または神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に『大雪警報』『特別警報』『暴風警報』または『暴風雪警報』が発令された場合は、次のとおりとします。

- (1) 当日午前6時までに警報が解除された場合 …… 平常どおり授業を行う。
- (2) 当日午前10時までに警報が解除された場合 …… 午前中の授業を休講とし、午後から授業を行う。
- (3) 当日午前10時までに警報が解除されない場合 …… 授業を終日休講とする。

また、授業中に警報が発令があった場合は、指示に従ってください。その他、不測の事態が発生した場合は学長の判断によります。

なお、定期試験についても上記に準じます。

2) 地震

東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想されるときは、「地震防災対策強化地域判定会」（以下「判定会」）が招集され、状況によって内閣総理大臣より「警戒宣言」が発令されます。大学では「判定会」が招集されたことがテレビ・ラジオ等で確認された時点で休校とします。

- (1) 在宅中および通学途中においては、各自の判断で行動してください。
- (2) 在校中においては、大学からの指示に従ってください。
- (3) 「判定会」が解散されたとき、または「警戒宣言」が解除されたときの授業再開は、

- ① 午前6時より前の場合は、当日の平常授業を行います。
- ② 午前6時を過ぎている場合は休校とし、翌日より平常授業を行います。

※ 常日頃からの防災 …… 『学生便覧』 P46参照（13 防災について）

3) 交通機関の運休について

東急田園都市線（渋谷-中央林間）及び小田急小田原線（新宿-小田原）が**両線とも**、災害、停電、事故等により運休した場合。

- ① 午前6時に両線とも運休している場合は、午前の授業等を休講とする。
- ② 午前11時に両線とも運休している場合は、午後の授業等を休講とする。

※ 東急田園都市線及び小田急線以外の交通機関が不通になった場合は、全学休講措置はとりませんが、授業担当者が出校不能で休講となることがあります。

また、代替交通機関が利用できず登校できない場合は、各交通機関で発行している遅延証明書を受け取り、授業に間に合う場合は遅延証明書を授業担当者に渡してください。授業に間に合わない場合は、遅延証明書及び学生証を持参の上、後日学務部窓口に来てください。

2 試験

1 定期試験と授業内試験

定期試験：第1学期末と第2学期末に、それぞれ一定の期間を定めて行われる試験

授業内試験：授業担当教員が、必要に応じて授業時間内に行う試験

(受験資格)

- (1) 受験する科目の履修申告をしていること
- (2) 出席回数が、授業回数の3分の2以上あること
- (3) 当該学期の学費、およびその他の納付金を滞納していないこと

2 追試験

病気その他やむを得ない理由により、**定期試験を受けることができなかった者で、授業科目担当教員が適当であると認め、次の事項に該当する場合**に行います。

- (1) 病気（診断書または本学指定の診断（登校許可）書添付）
伝染病の場合は伝染病罹患届も提出すること
- (2) 不慮の事故及び災害（事故証明添付）
- (3) 2親等までの親族の死亡（保証人の届出書または親引届添付）
- (4) 就職試験および公的な資格取得試験、放送大学の定期試験等（試験日等を証明する書類添付）
- (5) その他やむを得ない理由と認められるとき

(手続方法)

- ① 該当の添付書類を持参し、学務部で1科目につき1枚追試験願を受け取る。
- ② 必要事項を記入し、学務部に提出する。
- ③ 追試験の実施の有無、実施日時等が学務部から連絡がある。
(連絡は、大学が発行しているアドレスに入ります。受信メールがすぐ確認できるように事前に準備しましょう)
- ④ 追試験実施日までに、学務部に追試験許可通知書を受け取りに行く。

3 再試験

定期試験または追試験で不合格になった者に対し、**授業科目担当教員が特に必要と認めた場合に限り**行います。なお、1科目につき2,000円の再試験受験料が必要です。

(手順)

- ① 証明書自動発行機で再試験受験料2,000円を納める
- ② 納入後印刷された再試験願を再試験受験時に授業科目担当教員に提示する

4 試験に関する注意事項

1) 試験を受ける際の注意

- (1) 学生証を机の上に置いてください。学生証を忘れた場合は、証明書自動発行機で仮学生証発行料200円を支払い、学務部で「仮学生証」を発行してもらってから受験してください。
- (2) 試験場では、試験監督の指示に従ってください。指示に従わない場合、退出を命じることがあります。
- (3) スマートフォン、携帯電話等の電子機器類は電源を切ってください。時計としても使用できません。
- (4) 不正行為、または疑わしき行為があった場合、ただちに答案、関連する物品はとりあげられ、退場させられます。

2) 不正行為があった場合

当該学期の履修科目すべての単位が無効となり、かつ懲戒処分が行われます。

不正行為とは？

- (1) 身代わり受験、あるいはその依頼をすること。
- (2) あらかじめ机等に書き込みをしたり、カンニングペーパー等を持ち込むこと。
- (3) あらかじめ許可されたもの以外の資料等を持ち込むこと。
- (4) 試験開始の合図以前に解答を始めること。
- (5) 他の受験者の答案を見ること。
- (6) 他の受験者に答案を見せたり、他の受験者の答案を作成すること。
- (7) 言語、動作等で受験者相互に連絡をとること。(試験とは関係ない会話や、ちょっとした会話も不可。)
- (8) 許可なく席を離れ、または監督者の指示に反する行為をすること。
- (9) 試験中に物の貸し借りをすること。
- (10) 試験中、スマートフォンや携帯電話等電子機器類を使用すること。(時計として机に置くことも不可。)
- (11) 試験終了後に、筆記用具をもっていることや解答を記入すること。
- (12) その他、不正行為と疑われるような行為をすること。

5 レポートの書式と提出ルール

レポートは必ず所定のカバーシートをつけて提出！

レポートは原則としてA4サイズの用紙で作成してください。提出するときは、必要事項を記載した「レポート提出用カバーシート」(この履修要項の最後の頁に書式があります)をつけて、提出期限までに所定の提出先に提出すること。

1 成績評価の方法

- 成績評価は、試験、レポート、平素の成績等をもとに行われます。
- 採点は100点満点で行われ、成績評価は右表のように定められています。
- 成績評価はS、A、B、Cを合格とし、所定の単位が与えられます。
- 単位認定科目の評価は、N（合格）またはH（不合格）になります。
- 再試験の場合、成績評価は70点未満となります。

S	90点以上
A	80点以上90点未満
B	70点以上80点未満
C	60点以上70点未満
D	60点未満（不合格）

2 成績の通知

当該学期の成績および修得単位は、学期ごとにインターネット（桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニパ））上で閲覧することができます。

3 成績照会

各学期の学期末に交付された成績表に記載された成績評価に疑義がある場合は、成績公開日から2週間以内に限り、成績評価を担当した教員に照会を求めることができます。照会を求める場合には、学務部窓口申し出て、所定の手続きを行ってください（桐蔭ユニパで案内されます）。

たとえば、出席やレポート、試験などにすべて対応したにもかかわらず、自身が考える評価とは異なる成績評価であった場合に、その成績評価について確認をしたいときには、「成績照会の申請書」を学務部に提出し確認を求めることができます。

成績照会制度は、成績評価について学生の言い分を聞き、評価の理由について説明をを求める制度で、成績を変更してもらう制度ではありません。制度の趣旨を十分に理解したうえで利用してください。

成績照会請求の期限を過ぎてしまった場合、成績評価は、誤記などの特別の事情のない限り変更されることはありません。

4 GPA制度

（Grade Point Average、グレード・ポイント・アベレージによる評価）

学生の学修成果を評価し、履修指導に生かすためGPA制度を活用しています。

GPAは、たとえば特待生奨学生の選考基準の一つとなる（「学生便覧」参照）、累積GPA2.5以上が転学科応募条件の一つである、介護等体験には累積GPA2.2以上の必要がある、といったかたちで利用されます。また就職等に際して、GPA値が成績評価の基準として利用されることもあります。

GPA値は次の計算式により算出されます。

ただし、自由科目は除きます。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(GP} \times \text{単位数) の総和}}{\text{履修申告した単位数の総和}}$$

上記の計算式で用いるGP（Grade Point）は右表のとおりです。

成績評価	GP（評価点）
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0

4年次生で、卒業に必要な要件を満たすものの、就職活動など正当な理由により、卒業を延期し、引き続き在学を希望する場合は、卒業延期制度を利用することができます。本制度を利用して卒業延期を希望する学生は学務部まで申し出てください。

1 申請条件

- (1) 卒業に必要な要件を満たす4年次生であること。
- (2) 授業料等納付金を完納していること。
- (3) 引き続き在学することにより在学期間が6年を超えないこと。

※以上の条件を満たしている場合、卒業延期願を提出することができ、その申請に基づき教授会が審査し、これを許可します。したがって、上記申請条件を満たしていても、卒業延期が認められない場合があります。

2 期間

- (1) 卒業に必要な要件を満たした学年の翌年度の1年間。ただし、1回に限り再延長可（最長2年間）。

3 卒業時期

- (1) 卒業の時期は延長後の在学期間が終了する年度の最終日とします。ただし、卒業延期による在学期間中に事情の変更により前期で卒業を希望する場合は、願い出により9月卒業をすることができます。再延長した場合も同様です。

4 身分

- (1) 4年次在学学生として扱われます。
- (2) 卒業延期を許可された学生は、在学学生として扱われます。よって、情報施設や図書館などの諸施設・設備利用、学生証の発行、及び学則に基づく懲戒処分についてもその対象になります。

5 授業科目の履修

- (1) 授業科目の履修を希望する場合は、年間10単位までの履修が認められます。
- (2) 履修した授業科目は、成績証明書に記載されます。

6 納付金

- (1) 在籍料10万円を納付期限までに一括で納付してください。
※年額一括納付ですので、事情の変更により前期卒業した場合も納付金は返還されません。
※別途学生グループ保険料が必要です。

3 実習と特別プログラム

- 「大学で学習したことを、現場でどのように生かせるのか」、「大学の学びは社会の動きとどうかかわっているのか」を考えながら学べるようにするのが、スポーツ科学部の実習と特別プログラムです。
- 大学の4年間は、実社会に出る前の“モラトリアム”でも、専門的職業訓練の場でもありません。「社会との接点を常に意識して、その現実を理解しながら知識を獲得する力」をつけることで、これまでに考えもしなかった職業、生き方（道）と自分を発見し、激動する社会の中で柔軟に生き抜いていく人間力が育ちます。

ここでは、スポーツ科学部が展開する以下の実習と特別プログラムを紹介します。
(教育実習については、「5-1 教育職員免許状」に記しています)

■ 実習の種類

全ての学科を対象とする実習	<ol style="list-style-type: none">1 学校インターンシップ実習2 国際コミュニケーション実習Ⅰ～Ⅲ3 学校体験実習（中・高）4 シーズンスポーツ論Ⅰ・Ⅱ（演習を含む）5 スポーツプロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ
各学科の特色ある実習	<p>スポーツ教育学科</p> <ol style="list-style-type: none">6 自然活動論Ⅰ・Ⅱ（演習を含む）7 学校体験実習（小） <p>スポーツ健康科学科</p> <ol style="list-style-type: none">8 スポーツインターンシップ実習9 スポーツコーチング実習Ⅰ・Ⅱ10 スポーツ現場実習Ⅰ～Ⅴ

■ ガイダンスへの出席

実習や特別プログラムでは、事前にガイダンスが行われるので、履修する人は必ず出席してください。履修にあたって特別に必要なとされる手続き等を理解して、安全に、また意味のある実習にしていけるためにも、まずはガイダンスから実習が始まる、と考えてください。それぞれの実習に関するガイダンスの情報は、桐蔭ユニパに掲出されます。

全ての学科を対象とする実習

1 学校インターンシップ実習

(全学科対象、4年次、選択科目)

教職課程カリキュラムの最終段階で、大学での学修成果を学校現場で生かす実践的指導力の確認及び、教育実習を通して明確となった採用後に自己が取り組むべき課題の解決に向けて、学校現場において学校行事や教師のサポート等に積極的に取り組む中で、学校における学び続ける教員としての素養を身に付けることをねらいとします。

学校インターンシップ実習とは、教職に関わる科目群に設定されている大学が独自に設定する科目の一つです。本科目は、教員免許を取得した後に、教壇に立つことを強く志す学生が、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の学校現場に出向き、教員としての知識や技能、学校運営活動の多岐にわたる業務内容について実践的に学習するものです。

単位認定条件

- ① 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校で30時間以上の活動を継続して行なう。
 - ② 活動記録として「活動記録（学校インターンシップ実習日誌）」を記入する。
 - ③ 「活動記録（学校インターンシップ実習日誌）」を本科目担当者に提出し、面談等を行なう。
- * 単位付与については、活動内容や活動時間数等を総合的に評価し、教職課程委員長および教職課程委員会にて審議し、決定する。

【履修登録およびガイダンス】

本科目は、履修申告期間中に登録する授業科目ではありません。

本科目担当者がガイダンスの開催について桐蔭ユニバーサルパスポート（桐蔭ユニバ）等にて告知しますので、履修を希望する学生はガイダンスに参加してください。

なお、履修者の選定には、履修希望者の教職関連科目等の単位修得状況（GPA含む）等が一定の基準に達していることを教職課程委員会にて確認の後、決定します。

2 国際コミュニケーション実習Ⅰ～Ⅲ

(全学科対象、1年次以上、選択科目)

1 国際コミュニケーション実習の目的

海外での短期語学研修と体験プログラムに参加することによって、国際交流や国際化している職場で必要とされるコミュニケーション能力や、現場で考え、自力で動く力を高めます。海外で外国語のコミュニケーション力を磨くチャンスですので、ぜひ積極的に参加してください。

同時にこの実習では、活動成果を作品にまとめる作業を通じて、現場で記録をとり、それをどのようにプレゼンテーションするかというトレーニングも行います。

2 履修申告

プログラムは夏期と冬期に実施します。

夏期のプログラム（韓国語）に参加する学生は4月下旬～5月頃に、冬期のプログラム（英語）に参加する学生は10月頃に参加申込み（履修申告）をします。通常の履修申告期間にはウェブ登録を行いません。

1) 研修先一覧（2018年度実績）

研修地域	研修先（大学）	所在地	研修時期
韓国	慶南大学	Kyungnam University 449 Wolyoung-dong, Masan, Gyeongnam 631-701, Korea	8月
アメリカ	ウエスト大学	University of the West 1409 Walnut Grove Ave. Rosemead, California 91770, U.S.A.	3月
オーストラリア	ボンド大学	Bond University Gold Coast, Queensland 4229, Australia	3月
イギリス	ウースター大学	University of Worcester St John's Campus, Henwick Grove, Worcester, WR2 6AJ, UK	3月

※研修地域・研修先・研修時期は変更・追加の可能性があります。

2) 研修期間

研修前後の授業（10回程度）＋研修先でのプログラム（2～3週間）＋実習報告会での発表

3) 参加要件

研修先で学習する言語を履修していることが望ましい。

4) 現地での体験プログラム

語学の授業以外に、伝統的な舞踊や武術、生活文化体験活動、セレブレーション、スポーツ活動などのアクティビティに参加します（国によって活動内容は異なります）。

5) 成績評価

(1) 研修先が発行する成績証明書、修了証明書

(2) 体験プログラムへの参加状況と活動成果の提出並びに発表

[写真、ビデオ、レポートなど何らかのかたちで公開することを前提に、実習先で作成した活動記録やそれらを編集した活動成果をまとめます。]

(3) 参加による修得単位数は4単位です。

3月に実施される実習に参加する場合は、翌年度に単位が付与されます。

6) 参加経費

旅費（航空チケット等）＋現地研修費＋滞在費（宿泊費、食費等）＋その他 雑費

韓国：20万円程度 アメリカ：50万円程度 オーストラリア：45万円程度

イギリス：39万円程度

（滞在期間、通貨レート変動等によって金額は変化します）

3 国際コミュニケーション実習実施前のガイダンス

夏期、冬期のプログラムともに、出発前に10回程度の事前ガイダンスを行います。このガイダンスは授業の一部ですので、欠席すると実習に参加できず、単位も認められなくなることがあります。

ガイダンスの実施予定は掲示板で告知します。

4 留学制度について

1) 短期留学（短期語学研修）について

スポーツ科学部では、「国際コミュニケーション実習」という授業科目にて実施しています。研修先は、慶南大学（韓国）、ウースター大学（英国ロンドン郊外）、ウエスト大学（米国ロサンゼルス）、ボンド大学（豪州ゴールドコースト）からの選択となります。各大学でのプログラムの実施年度は異なります。詳しくは、案内掲示や事前説明会で確認してください。

※渡航までに英語村での事前指導があります。

※研修地域・研修先・研修時期は変更・追加の可能性があります。

2) 本学協定大学等との交換留学（1年間または半年）

休学せずに、本学協定大学等に留学（交換留学）するものです。語学力はもちろん、コミュニケーション力が一回りも二回りも成長します。帰国後、留学先大学で修得した科目内容により単位を認定します。

【英語圏の大学】

ウースター大学（英国ロンドン郊外）との交換留学に申請することができます。これに申請するにはIELTSの高得点が求められます。また留学先大学の学費は免除されますが、その他の経費は自己負担になります（学部からの推薦が必要です）。

【中国語圏の大学】

法学部では西南政法大学や南京師範大学等中国語圏の大学との交換留学を行っています。これらの大学との協定では、本学へ納入した学費で相手校に留学できます。ただし旅費や滞在費は個人負担となります（学部からの推薦が必要です）。なお中国語を習得するための講義のみの履修でも可能であるため、医用工学部、スポーツ健康政策学部・スポーツ科学部、現代教養学環の学生も留学の機会があります。

【韓国語圏の大学】

スポーツ健康政策学部・スポーツ科学部では慶南大学（韓国）との実績があります。法学部、医用工学部、現代教養学環の学生も応募可能です。大学間の協定によるものなので、本学へ納入した学費で相手校に留学できますが、旅費や滞在費は個人負担となります（学部からの推薦が必要です）。

3) 個人による留学について

夏休みや春休みを利用した個人参加による留学、または長期の留学を希望される場合、外部の留学プログラム等を紹介することが可能です。

単位認定を希望する場合には、渡航前に所定の様式をもって学務部にお問い合わせください。その後、各学部の国際交流担当の教員と面談を行います。帰国後に申請した通りの活動に従事したことを証明する書類を提出し、活動成果を報告・発表をすることで、単位（MAST科目「海外実習」、2単位）が認められる場合があります。

※授業期間中を含めた長期の留学をされる場合は、大学を休学する必要があります。

4) 学内の取組みについて

交流会館3階に「桐蔭英語村」があります。

ここには常に外国のネイティブスタッフが常駐し、毎日気軽にお喋りやゲームを楽しんだり、好きな時に好きなだけ英会話のレッスン、TOEIC®・文法・読解などの勉強をすることができます。ここは、楽しく、そして自然に英語を使う場として、さまざまな活動を提供しています。

3

学校体験実習（中・高）

（全学科対象、2年次以上、選択科目）

教職の資質・能力に関する実践的指導力の育成に向けては、教職の基礎的な知識・技能の習得にとどまらず、それらを活用する機会や探究的に学ぶ機会の充実が求められています。本科目では、教職課程の学習をする早期の段階で、学校現場における学校行事や教師のサポート等の体験を通して、学校の実態及び教員の職務を学ぶ機会とします。

学校教育の現場は教師と生徒のみならず、保護者や地域社会をはじめとするさまざまな人々との関わり合いから成り立ちます。特に今日では、学校ボランティアの存在が極めて重要な役割を担いつつあります。本学でもボランティアをはじめとするさまざまな活動を通して、教育現場に関わることを推奨しています。学校体験実習（中・高）では、学生の皆さんが学校で行われるボランティア活動に参加した場合に、一定の条件を満たしていれば、一連の活動について単位（成績）を付与するものです。

単位認定条件

- ① 中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校で30時間以上の活動を継続して行う。
- ② 活動記録として「活動記録（学校体験実習（中・高）日誌）」を記入する。
- ③ 「活動記録（学校体験実習（中・高）日誌）」を本科目担当者に提出し、面談等を行う。

* 単位付与については、活動内容や活動時間数等を総合的に評価し、教職課程委員長および教職課程委員会にて審議し、決定する。

【履修登録およびガイダンス】

本科目は、履修申告期間中に登録する授業科目ではありません。

本科目担当者がガイダンスの開催について桐蔭ユニバーサルパスポート（桐蔭ユニバ）等にて告知しますので、履修を希望する学生はガイダンスに参加してください。

なお、履修者の選定には、履修希望者の教職関連科目等の単位修得状況（GPA含む）等が一定の基準に達していることを教職課程委員会にて確認の後、決定します。

（全学科対象、1年次以上、選択科目）

自然の中でさまざまなアウトドア活動を体験することを通して、自然の豊かさや厳しさを体験的に学び、自らの「からだ」への気づきを深めるとともに、アウトドア活動を実施する上で必要となる知識や技能を学ぶ。また、アウトドア活動を通して自然・環境・社会・自己の関係性を見直し、現代社会におけるアウトドア活動の文化・社会的意義を考えていくものとする。さらに、野外活動施設等の経営論などの学習を深める。

【シーズンスポーツ論Ⅰ（演習を含む）】

プログラム内容：カヤック、ヨット、シュノーケリング、SUP、カヌー、他

*本科目の履修者には参加費を徴収します。

【シーズンスポーツ論Ⅱ（演習を含む）】

プログラム内容：トレッキング、アドベンチャープログラム、テント設営（キャンプギア）、
野外炊事、ブッシュクラフト、他

*本科目の履修者には参加費を徴収します。

【履修登録およびガイダンス】

シーズンスポーツ論Ⅰ（演習を含む）、シーズンスポーツ論Ⅱ（演習を含む）は、履修申告期間中に登録する授業科目ではありません。

授業担当者がガイダンスの開催について桐蔭ユニバーサルパスポート（桐蔭ユニバ）にて告知しますので、履修を希望する学生はガイダンスに参加してください。

なお、履修希望者が多数の場合には抽選等にて履修者を選定します。

【注意】

上記の2科目は、宿泊を伴うプログラム内容となる場合もあります。

(全学科対象、1年次以上、選択科目)

学生が主体となって、文化スポーツに関連するさまざまな企画を立案し、その実現に向けて活動します。スポーツに関わる短い映像や番組をつくる、あるいはイベントを企画して実施するなど、学生自身が考えたアイデアや企画を具体的な「かたち」にしていくプロセスを通して、目的達成に向けて相互に協力し、コミュニケーションする力を身につけます。

1) 授業のすすめかた

学生は、個人もしくはグループで企画を立案し、プレゼンテーションと審査を経て、認められた企画を自主的に進めていきます。

企画の内容に応じて、その実現に必要な講習や、関連分野の講師を招いた講義等が本授業の一環として行われる場合もあります。

学期の中間に進捗状況の報告会があり、また学期終了時に最終発表会を行います。企画書、中間・最終報告、報告書に基づいて審査が行われ、単位（成績）が付与されます。

2) 履修申告とガイダンスについて

通常の履修申告期間には履修申告を行いません。ガイダンス日程は掲示板で告知します。

各学科の特色ある実習

6 自然活動論Ⅰ・Ⅱ（演習を含む）

（スポーツ教育学科対象、Ⅰ：1年次必修科目、Ⅱ：2年次以上選択科目）

「目的・ねらい」

「自然」が持つ力によって「人と自然」「人と人」の関わりを理解し、自然への畏敬の念と人への思いやりの心を育むことを目的とします。また、自然災害が多く発生する我が国において、児童・生徒を安全かつ迅速に誘導、避難させ、避難生活でも明るく、生きる力を育ませることのできる資質を持った指導者の育成を目的にしています。

また、自然活動論Ⅱでは、野外活動の専門的な知識、技能を習得し、野外活動から自然災害に対する安全管理と安全教育をしっかり習得した指導者の育成を目的にします。

自然活動論Ⅰ（1年次必修科目） 自然活動論Ⅱ（2年次以上選択科目）

期 日：2月中旬

実習場所：千葉県大房岬自然の家（千葉県南房総市）または神奈川県立愛川ふれあいの村【予定】

日 程：3泊4日

プログラム内容：講義、災害時対策、アドベンチャープログラム（ローエレメント）、
野外炊事、グループチャレンジワーク、ネイチャークラフト等

自然活動論Ⅰは、1年次の必修科目となります。事前指導に参加しないと実習に行くことはできません。事前指導の日時は掲示にて案内されます。

自然活動論Ⅱは、自然活動論Ⅰと同日程、同じ場所で行います。

期 日：2月中旬

実習場所：千葉県大房岬自然の家（千葉県南房総市）または神奈川県立愛川ふれあいの村【予定】

日 程：3泊4日

プログラム内容：アドベンチャープログラム（ハイエレメント）、ソロビバーク等

自然活動論Ⅰに参加している学生のリーダー、指導的立場で参加します。

※人数に余裕がある場合は、スポーツ教育学科以外の学生でも希望があれば参加できます（単位は付与されますが、卒業要件単位にはなりません）。

（スポーツ教育学科対象、2年次以上、選択科目）

教職の資質・能力に関する実践的指導力の育成に向けては、教職の基礎的な知識・技能の習得にとどまらず、それらを活用する機会や探求的に学ぶ機会の充実が求められています。本科目では、教職課程の学習をする早期の段階で、学校現場における学校行事や教師のサポート等の体験を通して、学校の実態及び教員の職務を学ぶ機会とします。

学校教育の現場は教師と児童のみならず、保護者や地域社会をはじめとする様々な人々との関わり合いから成り立ちます。特に今日では、学校ボランティアの存在が極めて重要な役割を担いつつあります。本学でもボランティアをはじめとするさまざまな活動を通して、教育現場に関わることを推奨しています。学校体験実習（小）では、学生の皆さんが学校で行われるボランティア活動に参加した場合に、一定の条件を満たしていれば、一連の活動について単位（成績）を付与するものです。

単位認定条件

- ① 幼稚園、小学校、義務教育学校、特別支援学校で30時間以上の活動を継続して行う。
 - ② 活動記録として「活動記録（学校体験実習（小）日誌）」を記入する。
 - ③ 「活動記録（学校体験実習（小）日誌）」を本科目担当者に提出し、面談等を行う。
- * 単位付与については、活動内容や活動時間数等を総合的に評価し、教職課程委員長および教職課程委員会にて審議し、決定する。

【履修登録およびガイダンス】

本科目は、履修申告期間中に登録する授業科目ではありません。

本科目担当者がガイダンスの開催について桐蔭ユニバーサルパスポート（桐蔭ユニバ）等にて告知しますので、履修を希望する学生はガイダンスに参加してください。

なお、履修者の選定には、履修希望者の教職関連科目等の単位修得状況（GPA含む）等が一定の基準に達していることを教職課程委員会にて確認の後、決定します。

(スポーツ健康科学科、1年次以上、選択科目)**【概要】**

スポーツクラブ経営やスポーツイベント運営の職場について理解を深めていくことが目的である。「スポーツイベントを中心にスポーツに係わる職場を体験する」、「スポーツクラブ経営や運営に係わる仕事を知る」ことが主な内容です。

本学と提携のあるスポーツチームや競技連盟・協会などの団体が開催するスポーツイベント運営などを所定の時間の実習を行った後、学内において報告会や事後指導を行います。

【履修登録およびガイダンス】

本科目は、履修申告期間中に登録する授業科目ではありません。授業担当者がガイダンスの開催について桐蔭ユニバーサルパスポート（桐蔭ユニバ）にて告知しますので、履修を希望する学生はガイダンスに参加してください。

実習参加条件として、「スポーツマネジメント論」と「スポーツマーケティング論」の2科目の単位修得（評価A以上）を果たしていることを求めます。なお、履修希望者が多数の場合には抽選等にて履修者を選定します。

【実習先】

- 株式会社川崎フロンターレ
- 横浜ビー・コルセアーズ
- 横浜トライアスロン／ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会
- その他、女子プロサッカーチーム、パラアスリート大会
- 東急スポーツシステム
- ティップネス スポーツクラブ
- 東京YMCA、横浜YMCA
- 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
- NPO法人わくわく教室

その他今後も実習先を増やす予定

(スポーツ健康科学科対象、3年次以上、スポーツコーチングコース推奨科目)

これまでの学修で身につけたコーチングやスポーツ医・科学に関わる基本的知識を、スポーツ指導の現場で応用、実践します。実習Ⅰでは、本学のスポーツ強化クラブにおいてコーチング実習を行います。また、実習Ⅱでは、履修生の母校となる中学校や高等学校の運動部、あるいは出身のクラブチーム等を実習先としてコーチング実習を行います。それぞれ10時間、40時間のコーチング実践を行うとともに、実習日誌を用いながら担当コーチや教員から継続的な指導を受けます。また、各実習とも事前・事後指導を行い、チームや選手と関わるための基本的なコミュニケーションスキルやマナー等を身につけます。さらに、実習後に履修者同士で振り返りを行うことで、実習の体験を学びに繋げ指導力を養います。

ガイダンスおよび履修申告

「チャンピオンシップスポーツコーチング論」あるいは「ジュニアスポーツコーチング論」の授業内で指示します。

(スポーツ健康科学科対象、1年次以上、選択科目)

スポーツ現場実習Ⅰ～Ⅴでは、(1) アスレティックトレーナーの役割 (2) 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防 (3) コンディショニング (4) リコンディショニング (5) 救急対応について実習を行います。このうち、スポーツ現場実習Ⅰは見学実習とし、スポーツ現場実習Ⅱ～Ⅴは総合実習とします。また、スポーツ現場実習Ⅳはコンディショニング、リコンディショニングに含まれるストレングストレーニングの実践およびプログラミング、指導法を中心に実施します。

「スポーツ現場実習」単位認定条件

- ①実習先を事前に申請し、大学担当教員および学科の承認を得る。
- ②スポーツ現場実習を原則として1箇所30時間以上(スポーツ現場実習Ⅴは60時間)行う。
- ③実習記録および報告書、実習先担当者の評価等の書類を提出する。

4 専門演習（ゼミ）の選択から卒業まで

専門演習（ゼミ）と卒業研究

- 卒業が認定され、「学士（スポーツ科学）」が授与されるためには、必要とされる授業科目の履修による所定の単位数の修得が求められます。
- この中には、3年次、4年次に皆さん全員が履修することになる「専門演習（ゼミ）」と「卒業研究」が含まれます。

1 「専門演習（ゼミ）」について

3年次【必修】「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次【必修】「専門演習Ⅲ・Ⅳ」「卒業研究」は、3、4年次の2年間の大学生活の中心となり、自分の問題意識や課題をつかみ、それを中心として学部での学びを深めていく時間です。1人の教員と10人程度の学生が活動の基本単位となり、文献の読み込み、資料収集や実験、調査、発表などを通して、「自分が設定した課題に取り組み、自分の、今の時点での答えを提示する力」を高めます。この専門演習をゼミナール【Seminar】、通称「ゼミ」と呼びます。

2 専門演習から卒業研究へ

2年次後半	専門演習（ゼミ）の選択
3年次	<p>専門演習Ⅰ・Ⅱ（必修、半期各2単位）</p> <p>* 専門演習Ⅰ・Ⅱを履修登録し、原則として3、4年を通じ同じ教員の専門演習に参加します。</p> <p>* 専門演習Ⅱは、専門演習Ⅰの先修要件となりますので、同時履修はできません。</p>
4年次	<p>専門演習Ⅲ・Ⅳ（必修、半期各2単位） + 卒業研究（必修、通年4単位）</p> <p>* 専門演習Ⅲは専門演習Ⅱ、および専門演習Ⅳは専門演習Ⅲのそれぞれが先修要件となりますので、同時履修はできません。</p>

* 専門演習及び卒業研究は「学科基礎科目」です。

3 卒業研究への流れ（詳細は3年次に提示）

1 研究構想発表（ゼミ単位）	4年次 6月頃
2 中間発表（ゼミ単位）	10月頃
3 卒業研究提出（論文および要旨）	1月上旬
4 卒業研究発表会（合同ゼミ）	1月下旬～2月上旬
5 合否判定	

4 卒業研究テーマ

卒業研究の表現スタイルとして、大きく次の三つのタイプを設けています。どのタイプで卒業研究を進めるのかについては、ゼミの教員と相談して決定します。グループによる同じテーマの研究は可能ですが、視点や分担などの相違を明確に区別し、研究論文は学生一人一人が作成します。

タイプ		まとめ方
1	実験系	実験・計測・調査・開発を中心とする。実験・計測などの結果を、図表などに表し結果をまとめる。
2	非実験系	調査・検討・提案を中心とする。文章での論述表現を主とし、必要に応じて図表によるデータ、写真・スケッチなどを挿入しまとめる。
3	制作系	企画・演出・創造的パフォーマンスなどの映像・模型・教材の制作を中心とする。映像記録・作品・教材などを制作し、その説明を文章によって記述し、必要に応じて図・写真などを挿入しまとめる。

5 免許・資格を取得する

- 資格は、それがあれば就職できるという“パスポート”ではありません。将来の仕事のための“道具”、あるいは自分が身につけた力を示す、ひとつの“ものさし”のようなもの。仕事にふさわしい道具がなければ困りますが、道具があっても使いこなせなければ役には立ちません。
- ここでは、スポーツ科学部で取得できる資格を紹介します。自分が身につけたい力、取り組みたい仕事は何なのか。それをイメージしながら、そこに向かう最初のステップとして、積極的に活用してください。

1 教育職員免許状（教員免許）

学校の教員には志さえあれば誰もがなれるというわけではありません。正式な教員として学校の教壇に立つためには、文部科学省によって認定された教育職員免許状（以下、教員免許）のためのカリキュラムが設置された大学において、法律に定められた科目を履修し、単位を修得しなければなりません。

スポーツ科学部の教職課程では、中学校教諭1種免許状（保健体育）、高等学校教諭1種免許状（保健体育）の教員免許を取得することができます。さらに、スポーツ教育学科では小学校教諭1種免許状を取得することができます。中学・高校で保健体育科教諭として勤めるためには、保健体育を深く教える能力が求められますし、小学校教諭として勤めるためには、小学校全教科に渡って広く学んでいなければなりません。

教員免許を取得して教員としての責任を果たすために、教職課程の履修にあたっては、法律で求められるすべての単位の修得と成績による参加条件、決められた手続きの厳守と説明会への出席、体験や実習にあたっての事前指導、事後指導への出席など、様々なハードルがあります。

教職課程に関する詳しい説明は、「教職課程の手引き」（72ページ）に掲載されています。教員免許を取得するにあたっての注意事項や参加条件、事務手続き方法、授業科目が掲載されていますので、よく読んで履修をしてください。

■ 資格取得に必要な科目

★印から1科目 ▲印から1科目 ●印から1科目 ▼印から1科目 ■印から1科目

科目名	配当年次	単位	共通科目Ⅲ	スポーツ指導者	健康運動実践指導者	（初級）ハラスポーツ指導員	ハラスポーツ指導者資格	JATI認定 トレーニング指導者資格 （JATI-A）	JPSU-IST	NSCA-CSCS	アスレチック トレーナー資格 （JSPD-AT） 【予定】
身体の仕組みと働き	1	2	○	○				○		○	○
検査・測定と評価	3	2									○
機能解剖学Ⅰ	1	2		○				○	○	○	○
機能解剖学Ⅱ	2	2									○
トレーニング学	3	2									○
トレーニング論（演習を含む）	1	2	○	○				○	○	○	○
運動処方論	1	2	○	○				○		○	○
陸上競技	1	1		○					★		
水泳	1	1		○					★		
ボディワーク2 （体操：体づくり運動、集団行動）	1	1		○							
救急処置論（演習を含む）	1	2		○				○	○	○	○
ストレッチング論（演習を含む）	1	2						○			
スポーツ情報処理論	1	2						○			
アスレチックトレーナーの役割	1	2							○		○
バスケットボール	1	1							▲		
バレーボール	1	1							▲		
柔道	1	1							●		
剣道	1	1							●		
ダンス	1	1							■		
テーピング論	1	2									○
予防とコンディショニングⅠ	1	2							○		○
予防とコンディショニングⅡ	2	1							○		○
予防とコンディショニングⅢ	3	2									○
ボランティア論	1	2				○					
スポーツイベント施設論	1	2						○			
健康教育学	2	2		○							
ヘルスプロモーション論	2	2				○				○	
障害概論（演習を含む）	2	2				○					
アスレチックリハビリテーションⅠ	2	2						○	○		○
アスレチックリハビリテーションⅡ	3	2									○
アスレチックリハビリテーションⅢ	4	2									○
スポーツ栄養学Ⅰ	2	2		○				○			
スポーツ栄養学Ⅱ（演習を含む）	2	2	○					○	○		
スポーツバイオメカニクス	2	2		○				○	○	○	○
発育発達老化論	1	2									○
スポーツ医学Ⅰ	2	2		○				○	○		○
スポーツ心理学	2	2	○	○				○	○		
ハンドボール	2	1							▲		
運動生理学	2	2						○	○	○	○
障害者スポーツ論	2	2	○			○					○
測定機器の操作	2	2						○			
スポーツ政策論	2	2	○								
インクルーシブスポーツ論	2	2	○			○					
ジュニアスポーツコーチング論	3	2	○								
メンタルトレーニング論	3	2	○								
チャンピオンシップスポーツコーチング論	3	2	○								
測定評価学（演習を含む）	3	2		○				○			
エアロビクス（演習を含む）	3	1		○							
学校保健・学校安全	3	2				○					
コーチング学	3	2						○			
体づくり運動指導法	3	2							■		
健康管理とスポーツ医学	3	2							○		○
健康医学入門	1	2									○
スポーツ映像分析論	3	2									○
スポーツ現場実習Ⅰ	1	2									○
スポーツ現場実習Ⅱ	1	2									○
スポーツ現場実習Ⅲ	1	2									○
スポーツ現場実習Ⅳ	3	1								○	○
スポーツ現場実習Ⅴ	1	2									○
教育実習（初等）・教育実習（中学）	4	4							▼		
教育実習（高校）	4	2							▼		

1 公益財団法人 日本スポーツ協会公認 「スポーツ指導者」資格 講習・免除適応コース

1) スポーツ指導者制度とは

(公財)日本スポーツ協会(旧日本体育協会)では、生涯スポーツ社会の実現のため、各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図り、指導活動の促進と、指導体制の確立を目指し、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度を制定しています。

2) どうしたら取得できる?

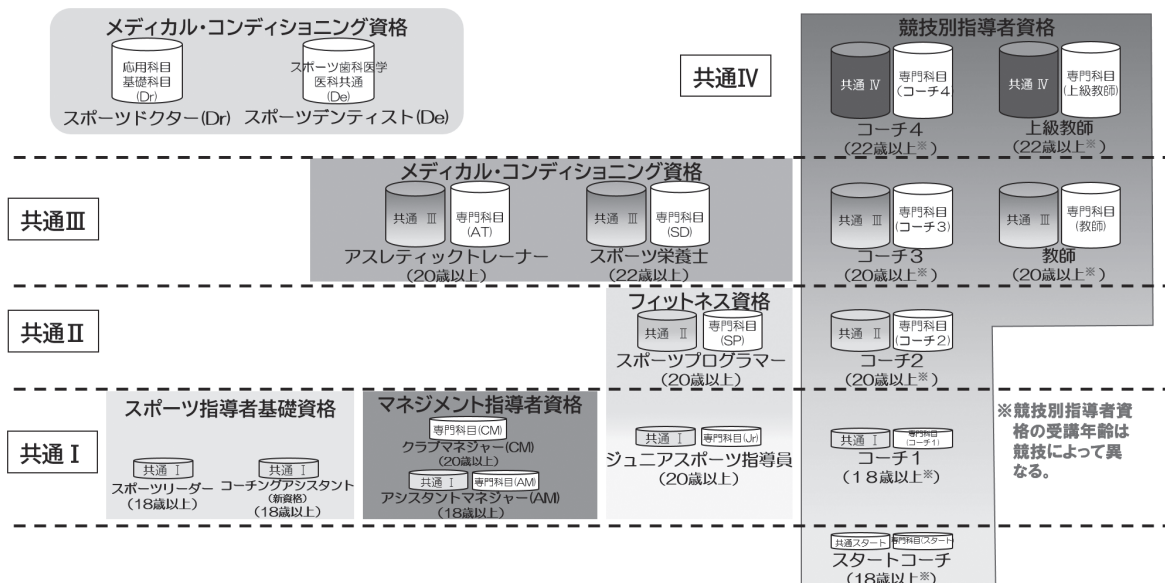
スポーツ指導者制度による、スポーツ指導者の資格を取得する場合には、各都道府県の体育協会や、各スポーツ競技団体が開催する講習会に参加し、「共通科目」及び「専門科目」を受講することが必要となります。しかし、**必要単位を取得し、受講完了申請とオンラインテストの受験**を受けることで、「共通科目Ⅲ」(図の共通科目Ⅰ～Ⅲ)が免除されます。申請は、①指導者マイページ作成・リファレンスブック購入、②共通科目コースの受講完了申請、③共通科目検定試験(オンラインテスト)の合格、④マイページに登録した連絡先宛に案内が送られてきた後、マイページ上で登録の手続きが完了することで共通科目Ⅲの修了となります。

3) 免除適応コースで資格を取得するメリット

- 時間的節約：通常の講習会では、平日を含めた4日連続の講習会に参加する(共通科目Ⅲ集合講習会の場合)など、ある程度の時間の確保が必要ですが、免除適応コースでは学校の授業(単位取得)で資格が取得できるため、効率よく資格が取得できます。
- 金銭的節約：資格取得までにかかる金額は資格によっても異なりますが、受講料や交通費が必要なため、通常の講習会を受講するよりも、安価に資格が取得できます。

4) 各資格の概要・カリキュラム

公認スポーツ指導者資格のカリキュラムは、スポーツドクター・スポーツデンティストを除き「共通科目」と「専門科目」によって構成されています。スポーツ指導者資格の種類と役割については、日本スポーツ協会のHPでも確認ができます(<http://www.japan-sports.or.jp>)。アスレティックトレーナー資格を目指す学生は、共通科目Ⅲの取得が必須になります。



5) 申請費用

基本登録料	10,000円
初期登録手数料	3,300円

(申請費用は2023年度現在)

2 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団認定 「健康運動実践指導者」資格

1) 健康運動実践指導者とは

健康づくりのための運動指導者に与えられる称号の一つで、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づいて、実践指導を行うことができると認められた方に与えられる資格です。

近年増加しているメタボリック症候群などの生活習慣病に対し、国が本格的に対策を図るなか、安全で効果的な運動プログラムを作成し、実践指導ができる者として重要な役割を果たすものと期待されています。

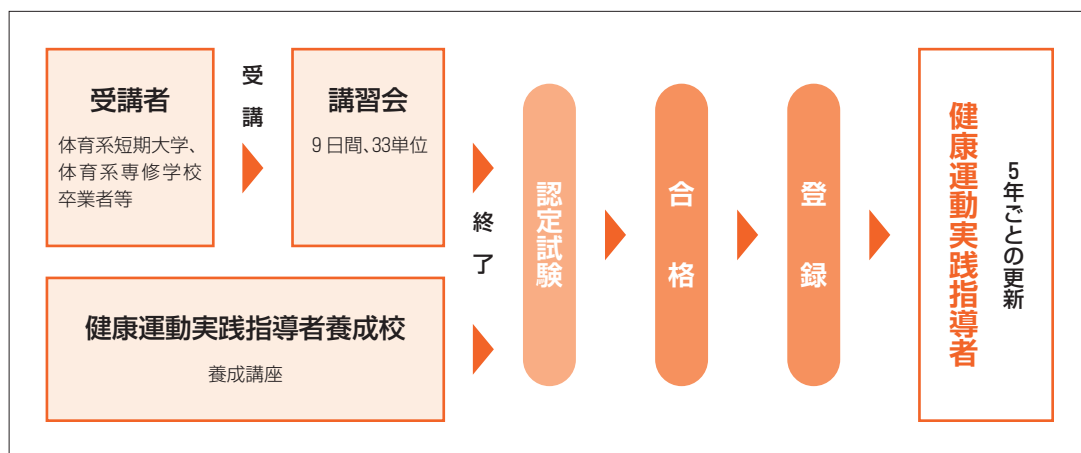
健康運動実践指導者として財団に登録されている方は、病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業等で活躍しています。

2) どうしたら取得できる?

「健康運動実践指導者」の資格を取得するには図のように健康運動実践指導者養成講習会を受講するか、または、健康運動実践指導者養成校の養成講座を修了して、健康運動実践指導者認定試験に合格し、健康運動実践指導者台帳に登録されなければなりません。

なお、合格・登録後は5年ごとの更新が必要となります。本学は、健康運動実践指導者養成認定校ですので、66ページの資格取得に必要な科目のすべての科目を履修し、単位を修得することで、受験資格を得ることができます。

■「健康運動実践指導者」の資格取得までの流れ



3) 試験・登録

資格認定試験料	25,300円
登録申請料	22,000円

(認定試験料・登録申請料は2023年度現在)

新規の試験は在学中のみ可能です（注意：卒業すると受験資格が喪失します）。3年生の後期と4年生の後期に受験できます。なお、在学中に受験経験のある者は卒業後も受験することが可能です。

登録は5年間有効で、所定の講習会を受講することにより、更新することができます。

4) 説明会

資格の説明会を実施します。掲示をよく確認の上、出席してください。

3 公益財団法人 日本パラスポーツ協会公認 「パラスポーツ指導者」資格（初級パラスポーツ指導員）

1) パラスポーツ指導者とは

障がい者のスポーツ振興と競技力の向上にあたる指導者の資質と指導力を向上させるとともに、指導活動の促進と指導体制を確立するために、公益財団法人日本パラスポーツ協会によるパラスポーツ指導者制度があります。

初級 パラスポーツ指導員	地域で活動する指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者。 【受講資格】 受講年度の4月1日現在で18歳以上の者。
中級 パラスポーツ指導員	地域における障がい者スポーツのリーダーとしての役割を持ち、指導現場で十分な知識・技術と経験に基づいた指導ができる者。 【受講資格】 初級パラスポーツ指導員資格を取得して、2年以上経過している者で、かつ80時間以上の活動経験を有する者。または、日本体育協会公認スポーツ指導員資格（スポーツリーダーを除く）を取得し、初期登録から3年以上の指導経験を有する者。
上級 パラスポーツ指導員	県レベルのリーダーとして、指導現場では障がい者スポーツの高度な専門的知識を有し、指導技術と豊富な経緯に基づいた指導と指導員を取りまとめる指導的立場になる者。 【受講資格】 中級パラスポーツ指導員資格を取得して、3年以上経過している者で、かつ120時間以上の活動経験を有する者。

2) 資格申請・登録料

申請・認定料	5,500円
登録料	年間 3,800円

（申請・認定料、登録料は2023年度現在）

※毎年、登録の更新が必要です。

3) どうしたら取得できる？

日本パラスポーツ協会が実施する指導員養成講習会、または、協会の指導で地方公共団体等が実施する指導員養成講習会を受講し、その後、資格取得申請を行います。

スポーツ科学部では、66ページの資格取得に必要な科目のすべての科目を履修することで講習の受講が免除されます。資格取得を希望する学生は、必ずガイダンスに出席してください。日程は掲示板で告知します。

4) 初級パラスポーツ指導員の役割

障がい者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員。健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担います。地域の大会や教室など、スポーツ現場におけるサポートを行っております。資格取得後は、経験を積み講習会を受講することで、中級・上級指導員にステップアップできます。

4 特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会JATI JATI認定トレーニング指導者資格（JATI-ATI）

1) JATI認定トレーニング指導者資格とは

一般人からトップアスリートを対象とし、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導ができる専門家であることを証明する資格です。

2) どうしたら取得できる？

- (1) 本学はJATIが認定するトレーニング指導者養成校・養成機関ですので、所定の科目を履修済みまたは受験年度中に履修することで受験資格を得ることができます。
- (2) 合格後すみやかに入会することを条件に入会前の認定試験受験が認められます。
- (3) 66ページの資格取得に必要な科目の指定カリキュラム（講義・実技）に該当する単位を卒業までに取得すること（修了認定講習会時点では見込みでも可）

3) 受験料・入会費

受験料	33,000円（税込み）（一般科目と専門科目の両方を含む）
個人正会員年会費	11,000円（税込み）（受験合格後、入会することにより資格証を得ることができる）

（受験料、個人正会員年会費は2023年度現在）

5 一般社団法人 全国体育スポーツ系大学協議会JPSU JPSUスポーツトレーナー資格（JPSU-ST）

1) JPSU認定スポーツトレーナー資格とは

体育・スポーツ系大学の専門性を活かした学びのさまざまな知識・技術を駆使し、運動実践・指導、ケガの予防、救急処置ができる専門家であることを証明する資格です。

2) どうしたら取得できる？

JPSU認定スポーツトレーナー資格（JPSU-ST）を取得するためには、以下の4条件を満たす必要があります。

- (1) 66ページの資格取得に必要な科目の指定カリキュラム（講義・実技）に該当する単位を卒業までに取得すること（修了認定講習会時点では見込みでも可）
- (2) 資格授与时（卒業式）まで有効期限があるBLS資格を取得し、その証明書があること
- (3) 修了認定講習会の全ての講座を受講し、講習会時に行う認定試験に合格すること
- (4) 認定試験に合格し、学業成績証明書（卒業を明記）を提出した者にJPSUスポーツトレーナーの「認定証」を交付する

3) 受験料

受験料	20,000円（修了認定講習会受講料および検定料）
-----	---------------------------

（受験料は2023年度現在）

6 特定非営利活動法人 NSCAジャパン Certified Strength and Conditioning Specialist (NSCA-CSCS)

1) NSCA-CSCSとは

傷害予防とスポーツパフォーマンス向上を目的とした、安全で効果的なトレーニングプログラムを計画・実行する知識と技能を有する人材を認定する資格です。

指導対象は主にアスリート、スポーツチームです。筋力トレーニングや他の体力要素の指導だけでなく、施設を運営、管理することも重要な職務となります。また、栄養、ドーピング、生活習慣に関する指導など、教育者の側面も併せ持っています。

2) どうしたら取得できる?

本学はNSCA-CSCS認定校です。66ページの資格取得に必要な科目のカリキュラムを全て履修し単位を取得した場合あるいは取得見込の場合は、CSCS特別認定試験を受験することができます。

3) 受験料

認定校受験料	39,700円 (税込み)
--------	---------------

※一般のCSCS認定試験受験料は、50,200円 (税込み)。 (認定校受験料は2023年度現在)

4) 以下は認定校の特典です。

- (1) 認定校生が、NSCAジャパン認定校CSCS特別認定試験を受験する場合は、出願前にNSCAジャパンに入会する必要がありません。
- (2) 認定校生が、在学中にCSCS特別認定試験を受験できなかった場合あるいは合格できなかった場合は、卒業後3年以内は、在籍した認定校のCSCS特別認定試験を、在校生と同じ条件で受験することができます。

7 公益財団法人 日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー資格 (JSPO-AT) 【予定】

1) JSPO公認アスレティックトレーナー資格とは

公認スポーツ指導者制度に基づき、ドクター及びコーチとの緊密な協力のもと、スポーツをする人の安全と安心を確保したうえで、パフォーマンスの回復や向上を支援する専門家であることを証明する資格です。

2) どうしたら取得できる?

JSPO公認アスレティックトレーナー資格 (JSPO-AT) を取得するためには、以下の4条件を満たす必要があります。

- (1) 資格取得に必要な科目 (下記) の指定カリキュラム (講義・実技) に該当する単位を実技確認テスト実施まで (4年後期開始まで) に取得すること。
- (2) 実技確認テスト実施までに有効期限があるBLS資格を取得し、その証明書があること。
- (3) 実技確認テスト合格後、専門科目検定理論試験に合格すること
- (4) 上記、実技確認テストおよび専門科目検定理論試験に合格し、JSPOに申請することにより認定を受けることとなります。

3) 受験料

実技確認テスト受験料	11,000円 (税込み)
専門科目検定理論試験受験料	16,500円 (税込み)

(受験料は2024年度以降、変更されます)

教職課程の手引き

はじめに

教員免許を取得して将来教員となるためには、単に大学で単位を取るだけでなく、免許取得に必要な科目を適切に選択し、教職課程に係るさまざまな手続きを滞りなく行う必要があります。また、教職課程を履修するためには単位数や成績、教員としてふさわしい生活態度などさまざまな条件を満たすことが求められます。これらをすべてクリアしていくためには、1年生の4月から4年生で卒業するまで、折に触れてこの教職課程の手引きを自分自身で確認し、教員免許取得に向けて自分が何をやる必要があるのか、しっかりと準備をしながら取り組むことが求められています。

1 教職課程について

1) 教職課程の意義と目的

あなたが将来教員となるためには、教育職員免許状を取得しなければなりません。そのためには、文部科学省により認定された教員免許取得のためのカリキュラムが設置された大学において、法律に定められた科目を履修し、単位を修得しなければなりません。

法学部では、中学校教諭1種免許状（社会）と高等学校教諭1種免許状（公民）を取得することができます。

スポーツ科学部では、すべての学科において中学校教諭1種免許状（保健体育）と高等学校教諭1種免許状（保健体育）を、更にスポーツ教育学科では、小学校教諭1種免許状を取得することができます。

教員免許を取得するための科目は、以下のカテゴリーに分かれます。

教育の基礎的理解に関する科目	教員として知っておかなければならない教育に関する基礎理論を修得するための科目が設定されています。また、特別支援教育の科目など幅広い理論を学ぶこととなります。
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育、総合的な探究の時間、生徒指導などの指導法のほか、カリキュラムや教育相談等に特化した基礎的科目が設定されています。
教育実践に関する科目	実際に教育現場に出て実践的な学習を行います。 学校現場で授業を行う「教育実習」はこの科目に含まれます。
教科及び教科の指導法に関する科目	専門的知識・技能を習得するための科目が設定されています。 中学校・高等学校において必要な教科・科目の知識、技能の習得を目指します。
大学が独自に設定する科目	特に専門的知識を身に付けるための科目が設定されています。

以上の各科目の履修を通じて、教員としてのごく基本的な知識・技能を習得することが教職課程の第一義です。しかし単に知識・技能の習得だけでなく、日々の授業の中で自らの教師としての適性を問い、教員を目指す意思を確かめることも教職課程の重要な目的の一つです。

教員には、担当する教科に関する専門的な知識・技能を習得しているのはもちろん、人間に対する洞察、社会についての幅広い理解、教育方法や技術、教育法規・教育制度に関する十分な知識等、様々な能力が求められます。皆さん自身が本学の教職課程において学ぶ中で、人を育てることの意義深さと魅力に気がつき、自ら立派な教員となることができるよう自分自身を磨き上げていく努力を惜しまぬことを強く希望します。

2) 本学が目指す教師像

本学教職課程は、児童・生徒に寄り添い、共に学びながら、子どもの学びへのモチベーションを高めることができる教師の養成を目指します。もう少し具体的にイメージするならば「子どもから相談される教師」です。

社会が激しく変化し、現代人の生活や労働のあり方も大きく変化する中で、子どもの生活・生育環境も大幅に変わりつつあります。そのような中、子どもの生活実態をつぶさに見てみると、日常生活において子どもが大人と接する機会はそれほど多くありません。

教師は親や保護者と並んで、日常的に子どもに接することができる数少ない大人なのです。そして子どもは、その大人を通して社会につながります。

教師は社会と子どもをつなぐ重要な接点でもあります。子どもが何か不安や悩み事を抱えたときに、それらを安心して相談できる大人が傍にいたら、どれほど心強いでしょうか。いつでも的確なアドバイスを示してくれたり、間違っていればきちんと叱ってくれる大人がいるということが、その子どもの自信を深めモチベーションを高めることにつながり、ひいては社会と未来への希望につながるものと考えます。

同時に、今日、学校教育や教師に対する社会の目は一段と厳しさを増しつつあります。教職に携わる者は子どもの人権を尊重しその安全を守り、高い倫理性を兼ね備えていなければなりません。また、保護者や地域社会に対する説明責任を果たす必要もあります。子どもからだけではなく、家庭や地域からの信頼をも得てこそ、学校教育はその効果を十分に発揮できるのです。そのためにも、本学教職課程における学習を通して教科に関する専門的知識や技能はもちろん、幅広い教養と人間性、適切な社会性と倫理性、そして行動力と協調性を兼ね備えた教師を養成したいと考えています。

3) 教職課程を履修するにあたっての心構え

理想的な教師とは、単に自分の専門とする教科についての知識に秀でているというだけではありません。教科についての専門的知識だけでなく、人間について深い理解があり、自然や歴史、社会に対する幅広く豊かな教養と経験があり、愛情豊かで、孤立せず、常に同僚・上司と明るく連携し問題解決に取り組むことが求められます。さらに、常に子どもの目線に立って行動を共にする中で彼らの将来を見据えた的確な指導ができる教師が理想と言えるでしょう。

しかし、皆さんがこのような教師をめざして教員免許を取得し、教員採用試験に合格すれば、それで一人前の教師として認められるということではありません。教師として教壇に立った時が本当のスタートラインになります。

「教師になったら勉強は終わり」ではなく、教師は常に学び続けていかなければならないのです。むしろ道を究めるための本当の学びは教師になったその日から始まると言えます。この点から言えば、教職課程も含めた大学4年間は教師になるためのトレーニングの場であると同時に、教師となった後も理想の教師を目指して自ら学び続けるための基礎的なスキルを身につける場でもあります。つまり、教材研究の方法、図書館の利用方法、本の探し方、レポートや論文の書き方、プレゼンテーションの方法、PCの使い方等々、いわゆる「メタ学力」の向上を図る場でもあるのです。

教師になるための学びは、皆さん自身が「学ぶ」とはどういうことかについて十分な考えと心構えを持っていることがとても重要です。自ら学ばない者は、他の者を教えることなどできるはずはありません。「教えてもらう」という姿勢ではなく「自ら学ぶ」という姿勢こそが重要です。

4) 教員になるためには

(1) 教員免許状の取得

教員になるためにはまず、大学を卒業し学士号を取得します。しかしそれは基礎資格に過ぎません。教員免許状を取得するためには教職課程の科目を履修し、必要な単位を修得しなければなりません。

教員免許状の校種や免許教科によって授業科目は異なります。単位を修得すべき授業科目等は以下に記載されていますので熟読してください。修得できない単位が1単位でもあれば教員免許状を取得することはできません。

(2) “絶対に教員になる”という強い意志

さらに、教員免許状を取得してもまだ教員にはなれません。教員採用試験を受験しそれに合格しなければいけませんし、合格しても即採用ではありません。合格すると「採用予定候補者」として登録され、その後、学校や教育委員会の面接を経て採用となります。このように正規の教員として採用されるまでにはいくつものハードルを越えなければならないのです。そのためには“絶対に教員になる”という強い意志を持つ必要があります。

5) 本学で教育職員免許状を取得するための単位修得

教育職員免許状の取得には、以下の基礎資格ならびに教育職員免許法に基づき設置された科目の単位修得が必要です。

基礎資格等

免許状の種類	所要資格	基礎資格	大学において修得することを必要とする 専門教育科目の最低単位数				
			教科及び 教科の指 導法に関 する科目	教育の基 礎的理解 に関する 科目	道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等 に関する科目	教育実践 に関する 科目	大学が独 自に設定 する科目
小学校教諭一種免許状		学士の学位を有すること	30	10	12	7	2
中学校教諭一種免許状			28	10	10	7	4
高等学校教諭一種免許状			24	10	8	5	12

さらに、文部科学省令で定める科目（教育職員免許法施行規則第66条の6）についても単位修得が必要です（下表参照）。

免許法施行規則で定める科目及び単位	
科 目	単位数
日本国憲法	2
体育	2
外国語コミュニケーション	2
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目又は 情報機器の操作	2

2 教職課程履修について

1) 教職課程履修の流れ

年次	時期	内容
1年	4月	教職課程履修オリエンテーション 教職課程仮登録
2年	4月	教職課程履修オリエンテーション 教職課程履修本登録 ----- 教職課程履修費納入
	11月	介護等の体験説明会 介護等の体験申込 ----- 介護等の体験費納入
	後期中	教育実習事務手続きに関する説明会
	2月～3年次5月	教育実習先訪問・決定
	4月	教職課程履修オリエンテーション 教職課程履修継続の登録 ----- 教職課程履修費納入
3年	4月～	内諾依頼発行申請書提出
	7月～11月	介護等の体験事前指導
	7月～3月	介護等の体験 ----- 介護等の体験証明書提出
	3月～4月	教育実習事前指導
4年	4月	教職課程履修継続の登録 ----- 教職課程履修費納入
		教育実習履修手続きに関する説明会
	5月～	教育実習
	7月	公立学校 教員採用第一次試験
	7月～1月	教育実習事後指導
	10月	教員免許一括申請手続きに関する説明会
	12月	教員免許一括申請手数料納入
	3月	教員免許授与（卒業式当日）

※以上のスケジュールは変更される場合があります。

2) 教職課程履修オリエンテーション

教職課程を履修し、教育職員免許状の取得を希望する学生は、1年次に行うオリエンテーションに必ず出席してください。また、各学期ごとに行われる教職オリエンテーションに必ず出席してください。なお、教職オリエンテーションに無断で欠席した場合には、教職免許状の取得の意志を断念した者と判断します。やむを得ず欠席する場合には、予め担当者へ連絡をすること。

3) 教職課程仮登録申込【1年次】

1年次では仮登録となり、オリエンテーションで配付する登録マニュアルを見て、Webで仮登録をしてください。仮登録をした学生に限り教職課程を履修することができます。

申込期間：前期履修申告期間の頃。(具体的日程は掲示にて連絡します。)

申込方法：Webで登録してください。

4) 教職課程登録申込・履修費納入【2年次】

1年次で仮登録をした学生のみ、2年次での本登録が可能です。2年次以降、教職課程の授業科目を履修するためには、教職課程履修費を納め、「教職課程登録申込」をWebでしなければなりません。この登録を行わない場合は、2年次以降、教職課程を履修することはできなくなりますので注意してください。

申込期間：前期履修申告期間の頃。(具体的日程は掲示にて連絡します。)

教職課程履修費：小学校と中学校または高等学校、もしくは3校種全ての免許状を取得する
為に教職課程を履修する場合…45,000円

(2年次15,000円、3年次15,000円、4年次15,000円)

小学校のみ、中学校のみ、高等学校のみ、中学校と高等学校の免許状を取得する
為に教職課程を履修する場合…30,000円

(2年次10,000円、3年次10,000円、4年次10,000円)

*一度納入した教職課程履修費は返還しません。

申込・納入方法：証明書自動発行機で教職課程履修費を納めた後、出力される用紙を見てWebで登録してください。

5) 3年次、4年次の教職課程の履修について

教職課程の履修を継続するには、3年次、4年次でそれぞれ定められた期日までに、証明書自動発行機で教職課程履修費を納め、「教職課程履修継続登録」をWebでしなければなりません。なお、教職課程履修費を納めず、「教職課程履修継続登録」をしなかった場合は教職課程を継続することができませんので注意してください。

納入期限：前期履修申告期間の頃。(具体的日程は掲示にて連絡します。)

納入方法：証明書自動発行機で教職課程履修費を納めた後、出力される用紙を見てWebで登録してください。

〈途中で取得希望免許の校種が変更になる場合の教職課程履修費納入例〉

- ① 2年次では“小学校”と“中学校”を希望して15,000円を納入。
3年次になり、“中学校”のみに変更した場合は3年次に10,000円、4年次にも10,000円納入しますが、差額5,000円の返金はしません。
4年次になって変更した場合も差額の10,000円は返金しません。
- ② 2年次では“中学校のみ”を希望して10,000円を納入。
3年次になり、“小学校”と“中学校”に変更した場合は3年次に15,000円と2年次に遡って不足分の5,000円の合わせて20,000円を納入し、4年次は15,000円を納入します。
4年次になって追加した場合は15,000円と不足分の10,000円の合計25,000円を納入しなければなりません。
つまり、3年次以降に小学校の免許を追加希望する場合でも、4年次までに45,000円納入しなければなりません。

6) 教職課程科目の履修

(1) 教職課程を履修するには

教職課程を履修するには前述の教職課程履修仮登録（1年次）、本登録申込手続き（2年次）、3年次以上は継続の登録をします（2年次以上は教職課程履修費が必要です）。

また、定められた履修申告期間内に、通常の授業とともに履修申告を行います。

(2) 教職課程に関わる履修申告上の注意

- ① 教職科目が自由科目である場合は履修上限単位に含まれない等、履修上の注意があります。学部・学科によって異なるので確認してください。法学部は教職に関する科目は履修上限単位に含まれません。
- ② 教職に関する科目については履修年次に従って履修し、単位を修得してください。履修登録を怠ったり、単位を落とすなどで標準の履修年次に単位を修得できない場合、授業時間割によっては4年間で免許を取得することができなくなります。
- ③ 介護等の体験は授業ではないので履修申告はありませんが、別途申請が必要です。手続きについては79ページ「3 介護等の体験について」を確認してください。
- ④ 集中講義で開講される科目もあるので、時間割を確認の上、履修申告をしてください。集中講義の履修申告は別に定めますから、掲示に注意してください。

(3) 教職課程の履修を開始する学生へ

免許状取得のための要件は「教育職員免許状取得要件」の通りですが、本学の教職課程は1年次より開講されています。教育実習参加資格、免許取得要件を満たすためには1年次から計画的に履修することが望まれます。しっかりと履修をして単位を修得してください。

(4) 介護等の体験・教育実習に参加する学生へ

介護等の体験、教育実習では、体験・実習先の児童または生徒や施設利用者の氏名など個人に関する情報を知ることがありますが、実習中はもちろんのこと、実習後も決して外部にもらすこと（SNSへの書き込み等を含む）の無いよう十分注意して、必ず指導教員の指示に従ってください。

7) 卒業後に教育職員免許状を取得する場合

卒業までに取得要件を満たせない場合や、卒業後に他学部、他学科の免許種の取得を希望する場合は、本学の科目等履修生（大学院に在籍していても可）として、あるいは他大学の通信課程等で不足する単位を修得すれば免許状を取得することができます。

8) 取得希望の免許種を変更する場合

本登録・継続手続き時に取得希望免許種を選択していますが、そこから変更になった学生は変更届を提出する必要があります。

例1) 本登録時・継続時は「小学校、中学、高校」を希望していたが、後期から小学校免許をあきらめて「中学と高校」の2つにする場合

例2) 本登録時・継続時は「中学、高校」を希望していたが、介護等の体験を実施できなかったため「高校」のみにする場合

9) 教職課程の履修を途中で取り止めるとき

何らかの理由で教職課程の履修を中止するときは、教職課程担当教員と面談の上、「教職課程履修辞退届」を学務部に必ず提出してください。

10) 他学部で取得できる免許状を希望する場合

他学部履修によって他学部で取得できる免許状を取得するためには厳しい条件があります。また、在学する学部で取得できる免許状を取得せずに、他学部で取得できる免許状のみを取得することはできません。

教職の他学部履修を希望する場合は、学務部に申し出て相談してください。

3 介護等の体験について（小・中学校免許希望者のみ）

1) 介護等の体験とは

「介護等体験に関する特例法」（1998年4月施行）により、小学校・中学校教諭免許状を取得するために7日間の介護等の体験を行うことが義務付けられました。介護等の体験を行わないと、小学校・中学校の免許状を取得することはできません。

2) 対象学生

教職課程を履修していて、小学校・中学校の教育職員免許状取得を希望する学生

3) 対象年次

原則として3年次に行います。

4) 参加条件

介護等体験に参加するには次の前提条件を満たしている必要があります。

- ・2年次前期までのGPA2.2以上

ただし、介護等の体験資格の有無についての最終的な決定は、大学で行われるガイダンス、説明会の出席状況や態度、講義の受講態度など総合的に確認し教職課程委員会において判断します。その結果については掲示にて発表します。発表時期についても別途連絡します。

5) 申込時期

2年次の秋頃に介護等の体験に関する説明会を開催します。この時点で再度、自分はどの校種の免許を取得するのかよく考えてください。小学校・中学校の教諭免許状を取得すると決めた学生は、定められた期日までに体験費用を納め、申込書を学務部に提出してください。なお、説明会の日程については掲示でお知らせします。

申込期間	: 説明会で連絡
体験費	: 10,000円
申込・納入方法	: 証明書自動発行機で体験費を納めた後、出力される用紙を見てWebで登録してください。

6) 体験日数ならびに体験先

神奈川県内特別支援学校にて2日間、指定された社会福祉施設にて5日間、計7日間。

7) 体験期間

7月～3月の間で受入先の学校・施設等の指定する日。期間の決定次第、参加者に直接お知らせします。

8) 介護等の体験の内容

- (1) 高齢者、障害者に対する介護、介助の手助け
- (2) 児童に対する学習指導やスポーツの手助け
- (3) 散歩の付添いなどの交流等の体験
- (4) レクリエーションや運動会等の行事の手助け
- (5) 福祉施設の業務の手助けなどの体験

9) 事前指導

体験を行う前に申込者を対象に事前指導を行います。本学の教員ならびに学外の講師などから体験を行うにあたっての注意事項等、重要な指導があるので必ず出席して下さい。欠席した場合、介護等の体験に参加することができません。

事前指導の日程については掲示でお知らせします。

10) 介護等の体験証明書

体験先の神奈川県内特別支援学校及び社会福祉施設において記載事項の内容、捺印を確認の上、「介護等の体験証明書」を発行して頂いてください。但し、体験先の機関が直接本学に郵送する場合があります。この証明書は教育職員免許状一括申請時に必要となるので、体験終了後に体験先の機関から直接渡された場合は速やかに提出してください。紛失した場合は再発行できず免許申請が行えない可能性があります。

なお、介護等の体験証明書は卒業時に返却します。

11) 介護等の体験日誌について

体験時には忘れずに携帯し、全ての体験終了後は各自で大切に保管してください。体験日誌は「教職実践演習（小・中・高）」で使用します。

12) 介護等の体験の辞退・日程変更

申込後の日程変更はできません（クラブ活動・就職活動等の理由も含む）。やむを得ない事情により辞退する場合は直ちに申し出てください。辞退により受入先の学校や施設等に多大な迷惑がかかります。辞退することの無いよう、よく考えてから申し込みをしてください。

* 申込後辞退をした場合は、いかなる理由でも体験費用の返還はしません。

13) 介護等の体験期間中の授業欠席について

介護等の体験期間中は授業に出席することはできませんので、欠席する授業の教員に事情を説明して下さい（欠席届を提出することができます）。

14) 健康診断の受診ならびに麻疹等の予防について

介護等の体験に参加するにあたって、体験先によっては健康診断書の提出が求められる場合があります。また、麻疹等の流行の状況によっては、あらかじめ抗体検査の結果の提出や予防接種が求められる場合があります。掲示等での連絡に注意してください。

4 教育実習について

1) 教育実習とは

教育実習とは教育職員免許状取得に必要な要件であり、それまでに学んだ知識をもとに一定期間大学を離れ、実際に教壇に立ち、教員としての知識や技能を現場の学校長ならびに指導教員のもとで習得することを目指すものです。

2) 教育実習参加条件

教育実習を履修するためには、原則として「事前・事後指導」と「教育実習」と「教職実践演習」を除く、**教育職員免許状取得のための授業科目の未修得が3年次終了時点で2単位以下でなければなりません。**なお、**3年次前期までのGPA2.3以上**、さらに、**3年次終了時点で修得単位が卒業見込証明書発行基準に達している**ことが前提条件となります。

教育実習実施についての最終的な決定は、大学内でのガイダンス、説明会、講義の受講態度など総合的に確認し教職課程委員会において判断します。

なお、前提条件について3年次前期、後期の成績発表で必ず確認し、教育実習の辞退が必要な場合はすみやかに手続きを行ってください。

また、教育実習を履修する年には、「事前・事後指導」・「教職実践演習」も必ずセットで履修してください。

3) 教育実習校

原則として出身校で行います。但し、事情により出身校での実習が困難な場合は相談してください。また、一部の地域においては教育委員会が実習先を決定する場合があります。

4) 教育実習時期ならびに期間

教育実習は例年5月から6月に行うことが多いですが、秋に行う場合もあります。詳細については実習校の指示に従ってください。実習期間は以下の表のとおりです。

小学校の免許状を取得したい学生は**必ず小学校での教育実習を行います。**小学校と中学校または高等学校の免許状を取得したい場合は“小学校”と“中学校または高等学校”の2校において教育実習を行わなければなりません。

希望校種	期 間	対象学科
小学校のみ	小学校に4週間	スポーツ教育学科
小学校+中学校	小学校に4週間と 中学校または高等学校で3週間以上	スポーツ教育学科
小学校+高等学校	小学校に4週間と 中学校または高等学校で3週間以上	スポーツ教育学科
小学校+中学校+高等学校	小学校に4週間と 中学校または高等学校で3週間以上	スポーツ教育学科
中学校+高等学校	中学校または高等学校で3週間以上	法学部法律学科 スポーツ教育学科 スポーツ健康科学科
中学校のみ	中学校または高等学校で3週間以上	法学部法律学科 スポーツ教育学科 スポーツ健康科学科
高等学校のみ	2週間以上	法学部法律学科
	中学校または高等学校で3週間以上	スポーツ教育学科 スポーツ健康科学科

(実習期間は実習校により変わることがあります。)

5) 2～3年次における教育実習へ向けての手続き

教育実習は4年次に行いますが、2・3年次より準備を開始する必要があります。この準備を怠ると教育実習先が決まらず、結果的に免許状を取得できないというケースに陥る可能性がありますので計画的に手続きを進めてください。

また、日ごろから出身校とコンタクトをとっておくとよいでしょう。

教育実習の手続きについては、2年次の後期定期試験終了後に実施するガイダンスにおいて資料を渡し、説明します。

6) 教育実習履修の手続き(4年次)

教育実習履修手続きに関する説明会を4年次初めに行います。前年度(3年次)に実習校から内諾をいただき、かつ、教職課程履修継続届(4年次)を提出している学生に対して、必要書類を配付します。

7) 教育実習の日程

3年次に実習校から内諾をいただいた場合、4年次の4月中旬ごろに本学より承諾の依頼を文書にて行い、承諾書が返送されてくると正式に教育実習先が決定したことになります。その時点で学務部より教育実習の日程や、実習校で行われる事前指導日などの連絡をします。

8) 教育実習用通学定期券について

自宅より教育実習先まで鉄道を利用する場合、実習用通学定期券を購入することができます。但し、通常の方法で購入することはできません。詳細については学生部で確認してください。

9) 教育実習中の注意事項

教育実習は実習校側の好意で受け入れていただいていることを忘れないようにして教育実習に集中してください。くれぐれも体調に気をつけて欠勤・遅刻・早退のないようにしてください。教育実習期間中の就職活動(就職試験や面接、就職説明会への参加)や大学のクラブ活動(練習・試合等)、アルバイトは厳禁です。また、携帯電話やインターネットのブログ、ツイッター、フェイスブック、LINE等で教育実習に関する情報を発信することは、守秘義務違反や個人情報保護違反となる可能性があります。これらの行為が見られた場合、実習中止処分となる場合があります。

10) 教育実習の辞退について

内々諾、内諾後に教育実習を辞退することになると、辞退により受け入れ先の実習校に多大な迷惑をかけることとなります。進路の変更、参加条件を満たすことができなかった、禁止される行為を行って中止となった場合など、やむを得ない理由で教育実習を辞退することになった場合、すみやかに教職課程委員会に報告してください。その後ゼミ指導担当教員にも報告し、教員より実習校に連絡し、すみやかに実習校へ謝罪訪問を行うとともに、「教育実習辞退願」を学務部に提出してください。

11) 教育実習日誌について

教育実習終了後、教育実習日誌を実習校から返却されたら、各自で大切に保管してください。実習日誌は「事前・事後指導」、「教職実践演習(小・中・高)」などの授業で使用します。

12) 教育実習中の授業欠席について

教育実習中は授業への出席はできないので、欠席する授業の教員に事情を説明してください(欠席届を提出することができます)。

13) 健康診断の受診ならびに麻疹の予防について

教育実習を行うには健康診断を受ける必要があります。

また、一部の学校等においては、教育実習開始までに医療機関で抗体検査を受けることを求められる場合があります。抗体が無いと診断された場合は予防接種を受けてください。その後、抗体があるということが証明できる書類または予防接種をしたことを証明する書類を提出してください。

5 教育職員免許状申請手続き

教育職員免許法で定められている教育職員免許状取得の所要資格を満たした場合は、神奈川県教育委員会に申請することにより、免許状を取得することができます。申請の方法は次の2つの方法がありますが、卒業式当日に免許状を取得するには一括申請をしなければなりません。

1) 一括申請

本学卒業（修了）予定者で、教育職員免許状取得の所要資格を有する見込がある場合は、在学中に免許状の授与申請をすることができます。

本学が神奈川県教育委員会に一括申請することによって、卒業式当日に免許状が交付されます。この一括申請の手続きを行わないと卒業式当日に免許状を取得することができません。

4年次の10月に教育職員免許状授与手続きについての説明会を開催します。その際、「教育職員免許状授与等申請書」を作成して頂きますので必ず出席してください。説明会の日程については掲示にて連絡します。

申請にあたり、手数料として1教科あたり3,300円必要です。納入方法や時期等は掲示にてお知らせします。

例：小学校+中学校+高等学校の免許状の申請は9,900円

2) 個人申請

一括申請をしなかった場合、もしくは一括申請の対象から外れた場合（要件単位を満たしていない、卒業できない等）は個人で申請をして頂きます。

個人申請は卒業年の4月以降の申請となります。

手続方法：各自で4月以降に、居住する都道府県の教育委員会へ申請

各教育委員会により手続きや提出書類が異なるので、必ず教育委員会へ問い合わせをしてください。

※免許状は各都道府県教育委員会が授与するものであり、本学が交付するものではありません。
うっかり紛失してしまった場合には再発行できませんので取扱には十分注意してください。（授与証明書を申請できますので教育委員会に問い合わせてください）
破損・汚損や火災などで焼失してしまった場合は再発行できることがありますので教育委員会に確認してください。

6 教員採用試験について

教員になるためには、教員免許状を取得するのに加えて、教員採用試験を受験し合格しなければなりません。但し、教員採用試験は教員免許状を取得する前の4年次夏に行われます。まずは、試験を受ける各自治体の試験科目や倍率などを把握しておきましょう。試験内容は各自治体によって異なりますが、教職教養、一般教養、論文、面接などはどの自治体でも行われています。

本学では教員採用試験対策講座を開講しています。くわしくは教職課程担当教員または教職指導室へ問い合わせをしてください。

尚、私立学校の場合は学校によって採用方法等が異なりますので、各自で確認してください。

大学推薦特別枠に関して

大学推薦とは、各自治体が4年生を対象に大学に対しある一定の推薦基準を設け、それを満たしている学生を大学が推薦し、教員採用試験を受験する制度です。

この推薦は、3年次の2月下旬から3月中旬にかけて大学内にて選考（学科・面接）が実施されます。各自治体に設けられた推薦基準（成績等）を満たし、学内選考の結果を参考に推薦する学生が決定しますが、志願する前提条件として、3年次後期終了時に、事前・事後指導、教育実習、教職実践

演習を除く全ての教職に関係する単位を取り終えていること、並びに介護等の体験を実施していることが必須となります。

なお、神奈川県については10月下旬に学内選考が実施されます。志願する前提条件として、3年次前期終了時までに履修できる教職に関係する単位を取り終えていること、並びに介護等の体験を実施していることが必須となります。

手続の詳細は、1号館2階の教職情報運営室にお問い合わせください。

早期大学推薦特別枠に関して

早期大学推薦とは、各自治体が3年生を対象に大学に対しある一定の推薦規準を設け、それを満たしている学生を大学が推薦し、教員採用試験を早期に受験する制度です。

この推薦は、2年次の3月に大学内にて選考（学科、面接）が実施されます。各自治体に設けられた推薦基準（成績等）を満たし、学内選考の結果を参考に推薦する学生が決定しますが、志願する前提条件として、2年次後期終了時までに履修できる教職に関係する単位を取り終えていることが必須となります。

手続きの詳細は、1号館2階の教職情報運営室にお問い合わせください。

7 教職科目一覧表

7-1. 小学校一種免許、中・高一種免許（保健体育）資格

基礎資格等

●…必修 ○…選択必修

免許状の種類		所要資格	基礎資格	大学において修得することを必要とする 専門教育科目の最低単位数				
				教科及び 教科の指 導法に関 する科目	教育の基 礎的理解 に関する 科目	道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等 に関する科目	教育実践 に関する 科目	大学が独 自に設定 する科目
小学校教諭	一種免許状	一種免許状	学士の学位	30単位	10単位	12単位	7単位	2単位
保健体育	中学校教諭	一種免許状		28単位	10単位	10単位	7単位	4単位
	高等学校教諭	一種免許状		24単位	10単位	8単位	5単位	12単位

免許法施行規則で定める科目

免許法施行規則で定める 科目及び単位数		大学が定める 科目	対応する授業科目	単位数	備 考
科 目	単位数				
日本国憲法	2	●	法学	2	
体 育	2	●	陸上競技	1	
		●	ボディワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1	
外国語 コミュニケーション	2	●	英語コミュニケーションⅠ	2	
数理、データ活用 及び人工知能に関 する科目又は情報 機器の操作	2	●	データコミュニケーション入門	2	
		●	桐蔭スキルゲート	2	

5

免許・資格を取得する

■ 小学校一種免許

● … 必修 ○ … 選択必修

免許法施行規則で定める科目（必ず履修しなければなりません）					
科目	大学が定める 必要単位数	大学が定める 科目	対応する授業科目	単位数	修得チェック
日本国憲法	2	●	法学	2	
体 育	2	●	陸上競技	1	
		●	ポディーワーク2（体操：体づくり運動、集団行動）	1	
外国語コミュニケーション	2	●	英語コミュニケーションⅠ	2	
教理、データ活用及び 人工知能に関する科目又は 情報機器の操作	4	●	データコミュニケーション入門	2	
		●	桐蔭スキルゲート	2	

教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目（以下の科目全てを履修してください。）					
教職科目群	大学が定める 必要単位数	大学が定める 科目	科目名	単位	修得チェック
教育の基礎的理解に 関する科目	10	●	教師論（初等を含む）	2	
		●	教育原理・教育課程論（初等を含む）	2	
		●	教育心理学（初等を含む）	2	
		●	特別支援教育指導論（初等を含む）	2	
		●	教育社会論（初等および学校安全を含む）	2	
道徳、総合的な学習の時間 等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	12	●	道徳教育指導論（初等を含む）	2	
		●	特別活動・総合的な学習の時間指導法（初等を含む）	2	
		●	教育方法論（初等を含む）	2	
		●	ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）	2	
		●	児童生徒指導論	2	
教育実践に関する科目	5	●	事前・事後指導（初等）	1	
		●	教育実習（初等）	4	
	2	●	教職実践演習（初等を含む）	2	

教科及び教科の指導法に関する科目 (以下の科目全てを履修してください。)					
教職科目群 (区分)	大学が定める 必要単位数	大学が定める 科目	科 目 名	単 位	修得チェック
教科及び教科の指導法に関する科目	33	●	人文科学系教科総論	2	
		●	社会科学系教科総論	2	
		●	自然科学系教科総論	2	
		●	国語概論 (書写を含む)	1	
		●	教科指導法 (国語)	1	
		●	算数概論	1	
		●	教科指導法 (算数)	1	
		●	理科概論	1	
		●	教科指導法 (理科)	1	
		●	社会科概論	1	
		●	教科指導法 (社会)	1	
		●	生活概論	1	
		●	教科指導法 (生活)	1	
		●	外国語概論	1	
		●	教科指導法 (外国語)	2	
		●	音楽概論	2	
		●	教科指導法 (音楽)	2	
		●	図画工作概論	1	
		●	教科指導法 (図画工作)	1	
		●	家庭概論	1	
●	教科指導法 (家庭)	1			
●	小学体育Ⅰ	1			
●	小学体育Ⅱ	1			
●	小学体育Ⅲ	2			
●	教科指導法 (体育)	2			

*教科指導法の履修に際し各教科に該当する概論を履修済みであること。

大学が独自に設定する科目 (以下の科目から2単位以上になるように履修してください。)					
教職科目群 (区分)	大学が定める 必要単位数	大学が定める 科目	科 目 名	単 位	修得チェック
大学が独自に設定する科目	2	○	生涯スポーツ論	2	
		○	障害者スポーツ論	2	
		○	スポーツ教育学	2	
		○	学校体験実習 (小学校)	1	
		○	学校インターンシップ実習	1	
		○	スポーツマネジメント論	2	

■ スポーツ教育学科 中・高一種免許（保健体育）

● … 必修 ○ … 選択必修

免許法施行規則で定める科目（必ず履修しなければなりません）					
科目	大学が定める 必要単位数	大学が定める 科目	対応する授業科目	単位数	修得チェック
日本国憲法	2	●	法学	2	
体 育	2	●	陸上競技	1	
		●	ボディーワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1	
外国語コミュニケーション	2	●	英語コミュニケーションⅠ	2	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目又は 情報機器の操作	4	●	データコミュニケーション入門	2	
		●	桐蔭スキルゲート	2	

教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目（以下の科目全てを履修してください。）					
教職科目群	大学が定める 必要単位数	大学が定める 科目	科目名	単位	修得チェック
教育の基礎的理解に 関する科目	10	●	教師論（初等を含む）	2	
		●	教育原理・教育課程論（初等を含む）	2	
		●	教育心理学（初等を含む）	2	
		●	特別支援教育指導論（初等を含む）	2	
		●	教育社会論 (初等および学校安全を含む)	2	
道徳、総合的な学習の時間 等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	中 12 高 10	中学 ●	道徳教育指導論（初等を含む）	2	
		●	特別活動・総合的な学習の時間指導法 (初等を含む)	2	
		●	教育方法論（初等を含む）	2	
		●	ICT活用スキルの理論と実際 (初等を含む)	2	
		●	児童生徒指導論	2	
		●	教育相談・キャリア教育指導論 (初等を含む)	2	
教育実践に関する科目	中 5 高 3	●	事前・事後指導（中・高）	1	
		○	教育実習（中学校）※ ¹	4	
		○	教育実習（高校）※ ²	2	
	2	●	教職実践演習（初等を含む）	2	

※¹ 中・高両方取得の場合

※² 高校免許のみ取得の場合

教科及び教科の指導法に関する科目						
教職科目群 (区分)	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科目名	単位	修得チェック中34/高30	
教科及び教科の指導法に関する科目	中 34 高 30	●	体育科教育法	2		
		●	保健科教育法	2		
		○	保健体育授業演習Ⅰ	2		
		○	保健体育授業演習Ⅱ	2		
		○	保健体育授業演習Ⅲ	2		
		●	ボディワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1		
		●	陸上競技	1		
		●	器械運動	1		
		●	水泳	1		
		○	サッカー	1		
		この4科目より 1科目選択	○	バスケットボール	1	
			○	ハンドボール	1	
			○	ラグビー	1	
		この3科目より 1科目選択	○	バレーボール	1	
			○	バドミントン	1	
		この2科目より 1科目選択	○	ソフトボール・野球	1	
			○	剣道	1	
		この2科目より 1科目選択	○	柔道	1	
			●	ダンス	1	
		○	体づくり運動指導法	2		
		○	器械運動指導法・コーチング論	2		
		○	ゴール型球技指導法・コーチング論	2		
		○	水泳指導法・コーチング論	2		
		○ 中学校取得 希望者は、 2科目以上 選択	○	陸上競技指導法・コーチング論	2	
			○	ネット型球技指導法・コーチング論	2	
			○	ベースボール型球技指導法・コーチング論	2	
			○	武道指導法・コーチング論	2	
			○	ダンス指導法・コーチング論	2	
●	スポーツ哲学	2				
●	スポーツ心理学	2				
●	スポーツマーケティング論	2				
●	スポーツ社会学	2				
●	スポーツ史	2				
この2科目より 1科目選択	○	スポーツバイオメカニクス	2			
	○	機能解剖学Ⅰ	2			
●	身体の仕組みと働き	2				
●	衛生学・公衆衛生学	2				
●	学校保健・学校安全	2				

大学が独自に設定する科目 (以下の科目から中学校は4単位、高等学校は12単位履修してください。)					
教職科目群 (区分)	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科目名	単位	修得チェック中4/高12
大学が独自に設定する科目	中 4 高 12	○	運動部活動論	2	
		○	生涯スポーツ論	2	
		○	スポーツ教育学	2	
		○	障害者スポーツ論	2	
		○	コーチング学	2	
		高校 ●	道徳教育指導論(初等を含む)	2	
		○	学校体験実習(中・高)	1	
		○	学校インターンシップ実習	1	
		○	スポーツマネジメント論	2	

■ スポーツ健康科学科 中・高一種免許（保健体育）

● … 必修 ○ … 選択必修

免許法施行規則で定める科目（必ず履修しなければなりません）					
科目	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	対応する授業科目	単位数	修得チェック
日本国憲法	2	●	法学	2	
体 育	2	●	陸上競技	1	
		●	ボディーワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1	
外国語コミュニケーション	2	●	英語コミュニケーションⅠ	2	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	4	●	データコミュニケーション入門	2	
		●	桐蔭スキルゲート	2	

教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目（以下の科目全てを履修してください。）					
教職科目群	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科目名	単位	修得チェック
教育の基礎的理解に関する科目	10	●	教師論	2	
		●	教育原理・教育課程論	2	
		●	教育心理学	2	
		●	特別支援教育指導論	2	
		●	教育社会論（学校安全を含む）	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	中 12 高 10	中学 ●	道徳教育指導論	2	
		●	特別活動・総合的な学習の時間指導法	2	
		●	教育方法論	2	
		●	ICT活用スキルの理論と実際	2	
		●	生徒指導論	2	
教育実践に関する科目	中 5 高 3	●	事前・事後指導（中・高）	1	
		○	教育実習（中学校）※ ¹	4	
		○	教育実習（高校）※ ²	2	
	2	●	教職実践演習（中・高）	2	

※1 中・高両方取得の場合

※2 高校免許のみ取得の場合

教科及び教科の指導法に関する科目					
教職科目群 (区分)	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科目名	単位	修得チェック中34/高30
教科及び教科の指導法に関する科目	中 34 高 30	●	体育科教育法	2	
		●	保健科教育法	2	
		○	保健体育授業演習Ⅰ	2	
		○	保健体育授業演習Ⅱ	2	
		○	保健体育授業演習Ⅲ	2	
		●	ボディワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1	
		●	陸上競技	1	
		●	器械運動	1	
		●	水泳	1	
		○	サッカー	1	
		○ この4科目より 1科目選択	バスケットボール	1	
			ハンドボール	1	
			ラグビー	1	
		○ この3科目より 1科目選択	バレーボール	1	
			バドミントン	1	
			ソフトボール・野球	1	
		○ この2科目より 1科目選択	剣道	1	
			柔道	1	
		●	ダンス	1	
		○	体づくり運動指導法	2	
		○	器械運動指導法・コーチング論	2	
		○	ゴール型球技指導法・コーチング論	2	
		○	水泳指導法・コーチング論	2	
		○ 中学校取得希望者は、 2科目以上 選択	陸上競技指導法・コーチング論	2	
			ネット型球技指導法・コーチング論	2	
			ベースボール型球技指導法・コーチング論	2	
			武道指導法・コーチング論	2	
	ダンス指導法・コーチング論	2			
●	スポーツ哲学	2			
●	スポーツ心理学	2			
●	スポーツマーケティング論	2			
●	スポーツ社会学	2			
●	スポーツ史	2			
○ この2科目より 1科目選択	スポーツバイオメカニクス	2			
	機能解剖学Ⅰ	2			
●	身体の仕組みと働き	2			
●	衛生学・公衆衛生学	2			
●	学校保健・学校安全	2			

大学が独自に設定する科目 (以下の科目から中学校は4単位、高等学校は12単位履修してください。)					
教職科目群 (区分)	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科目名	単位	修得チェック中4/高12
大学が独自に設定する科目	中 4 高 12	○	運動部活動論	2	
		○	生涯スポーツ論	2	
		○	スポーツ教育学	2	
		○	障害者スポーツ論	2	
		○	コーチング学	2	
		高校 ●	道徳教育指導論	2	
		○	学校体験実習(中・高)	1	
		○	学校インターンシップ実習	1	
		○	スポーツマネジメント論	2	

2024年度

資料編

校舎平面図

94

キャンパスマップ

112

教員連絡先一覧

114

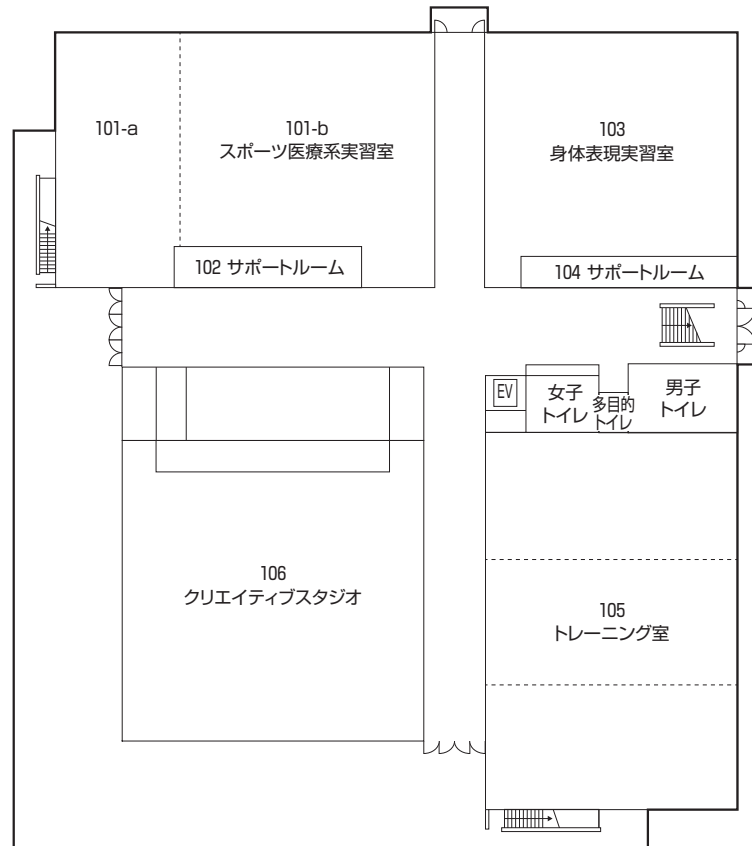
レポート提出用カバーシート

115

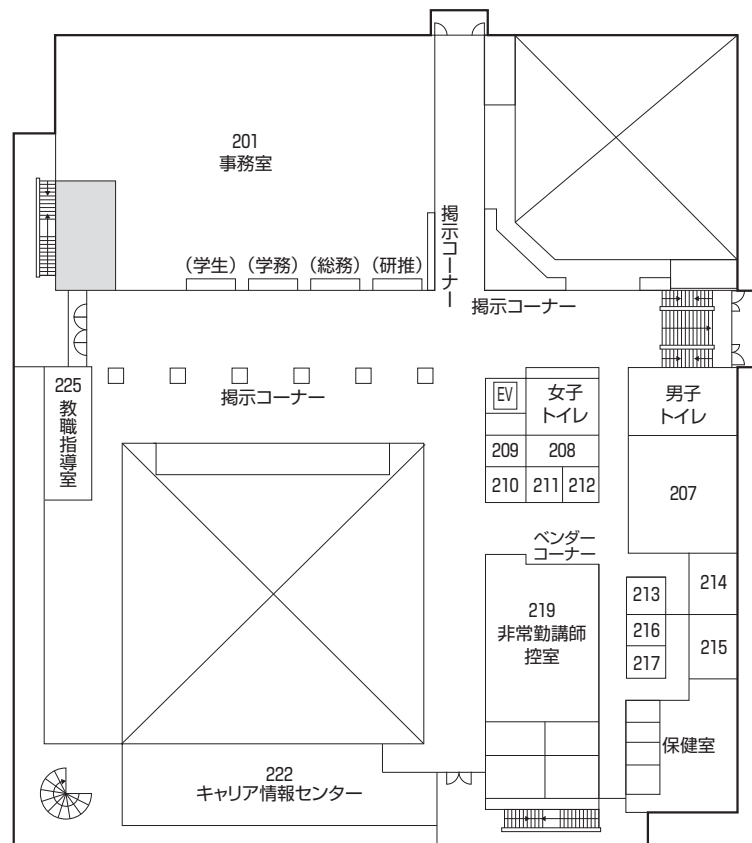
校舎平面図

I号館

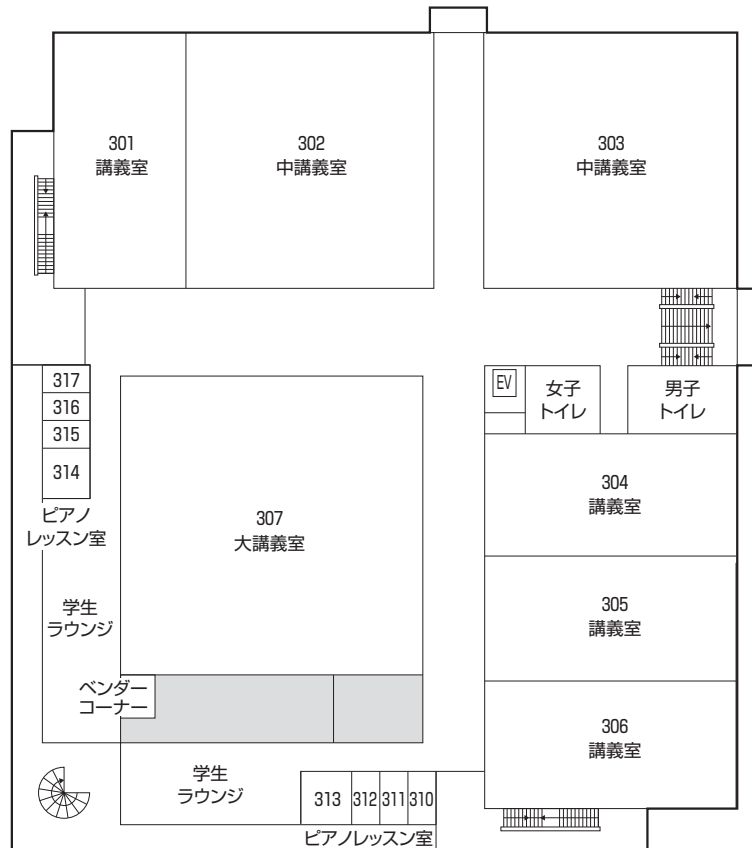
<1階>



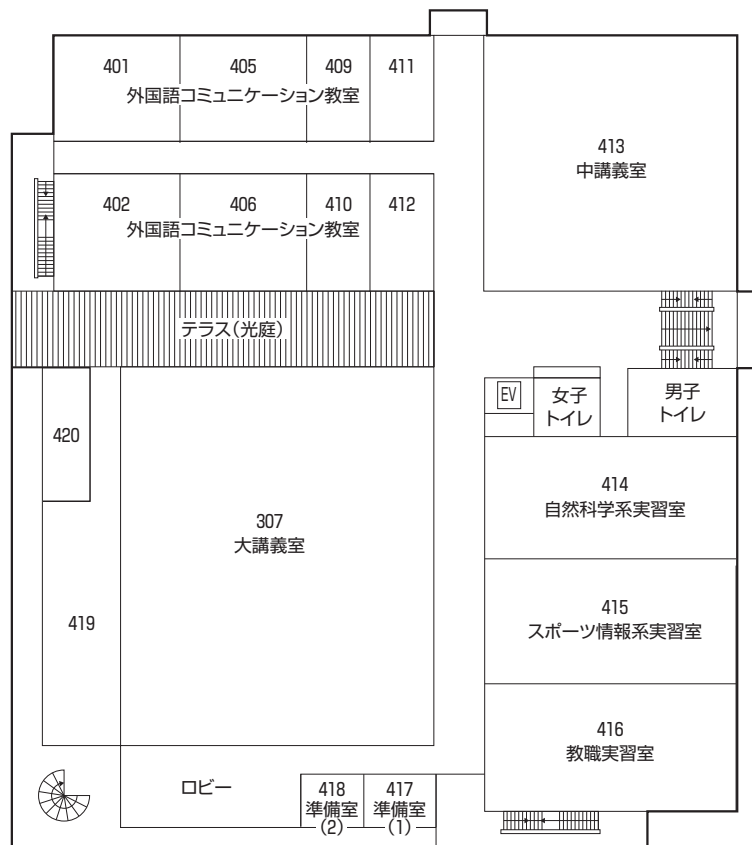
<2階>



〈3階〉

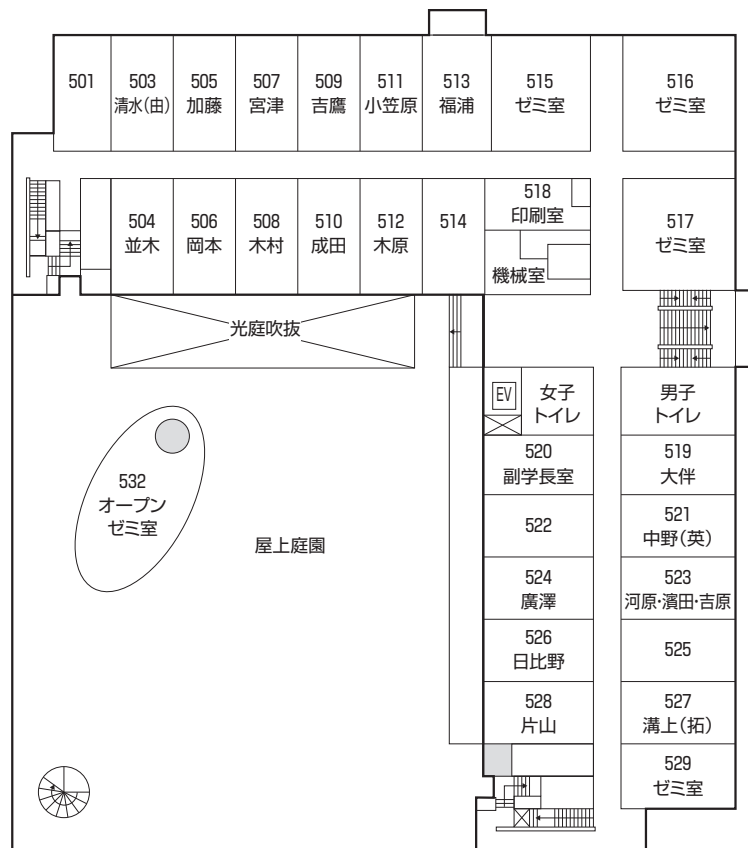


〈4階〉

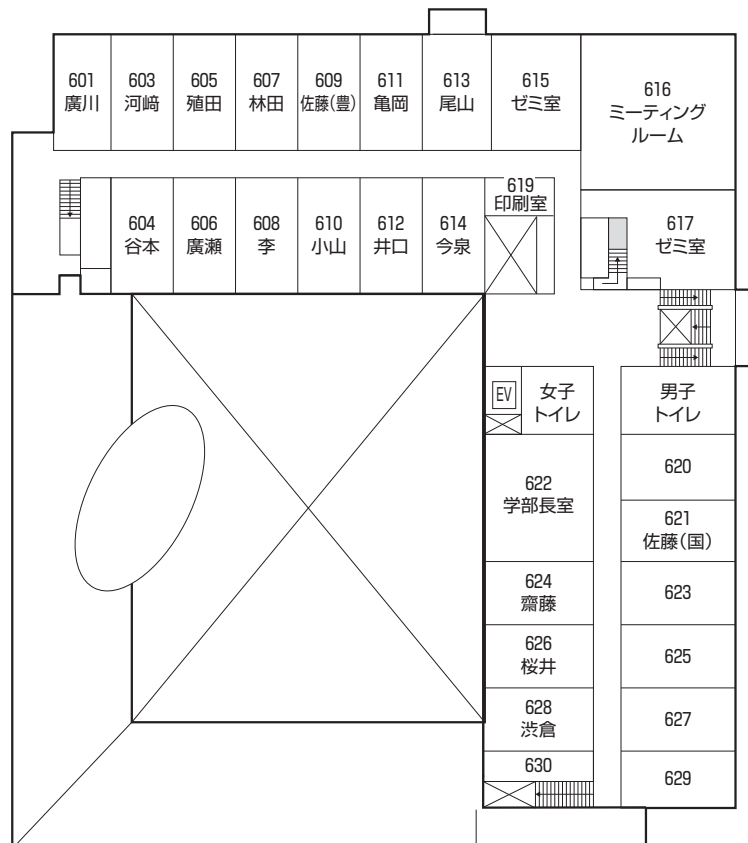


※学生が利用しない場所は
アミがけにしております。

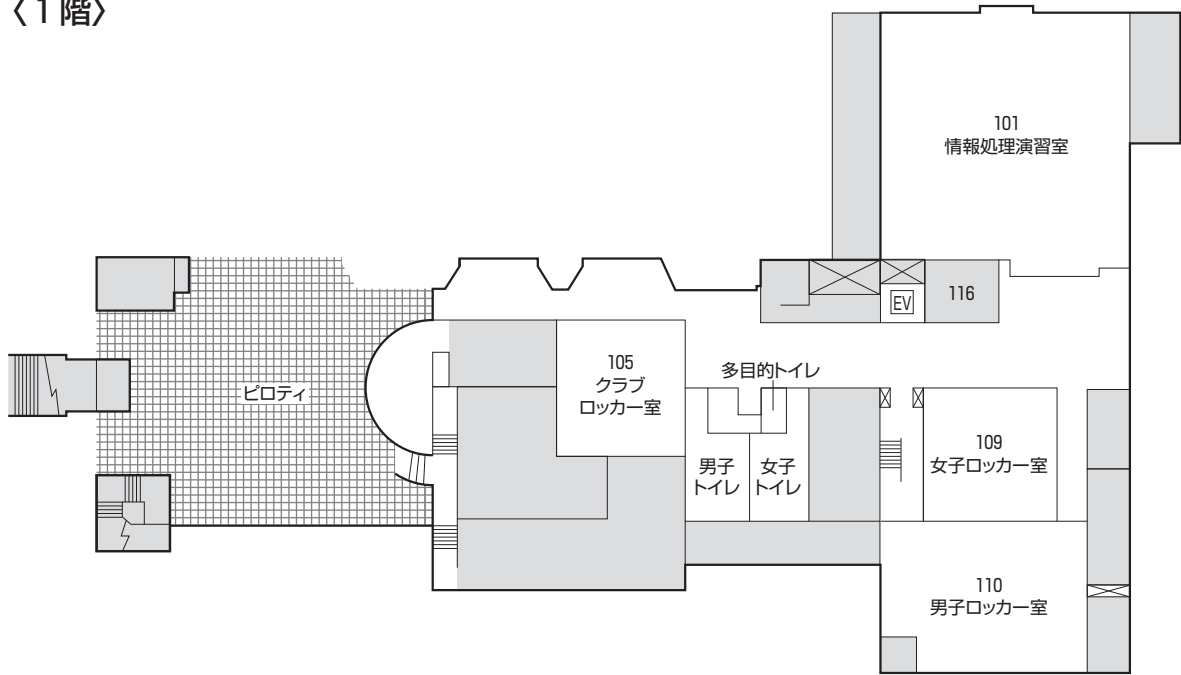
< 5階 >



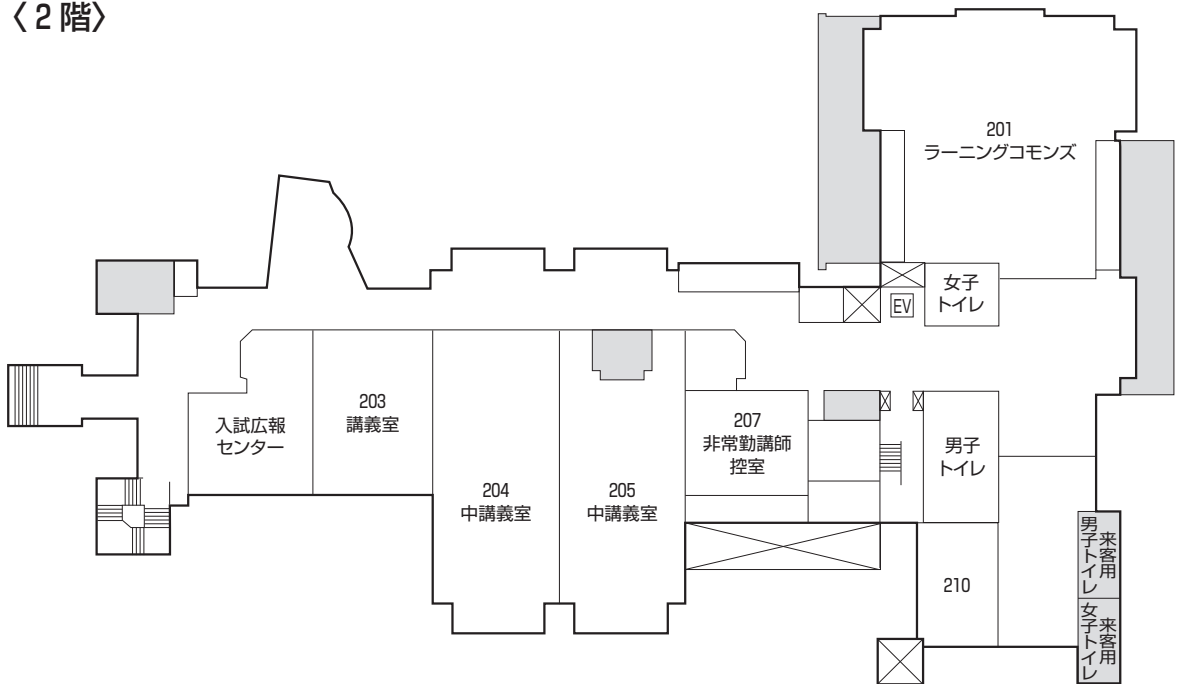
< 6階 >



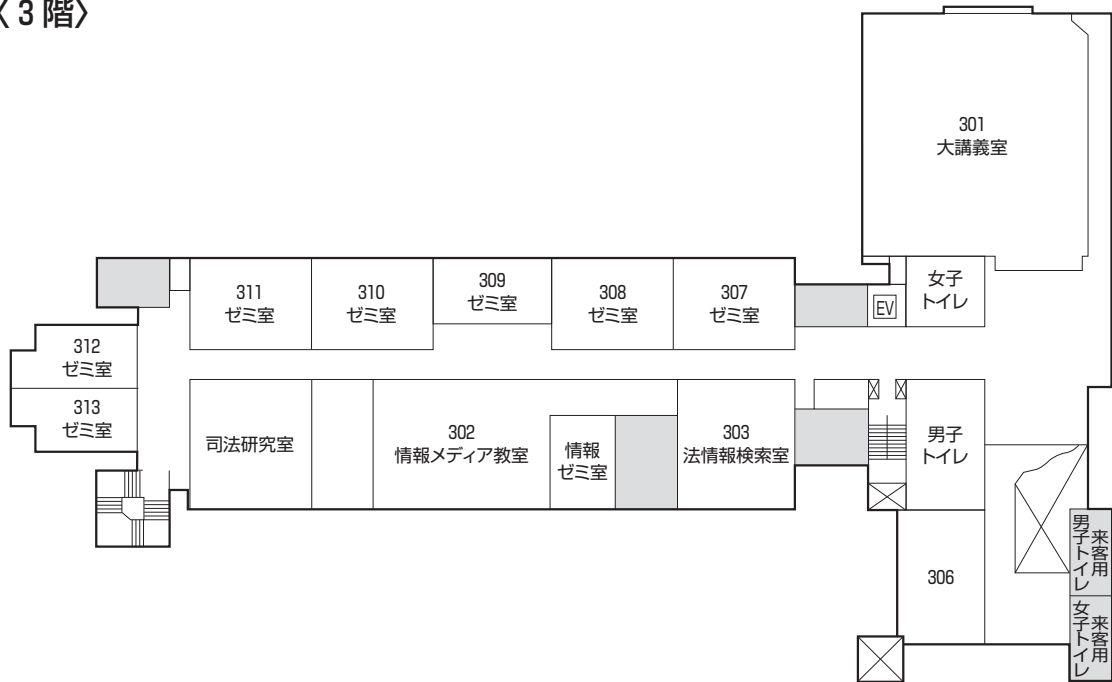
<1階>



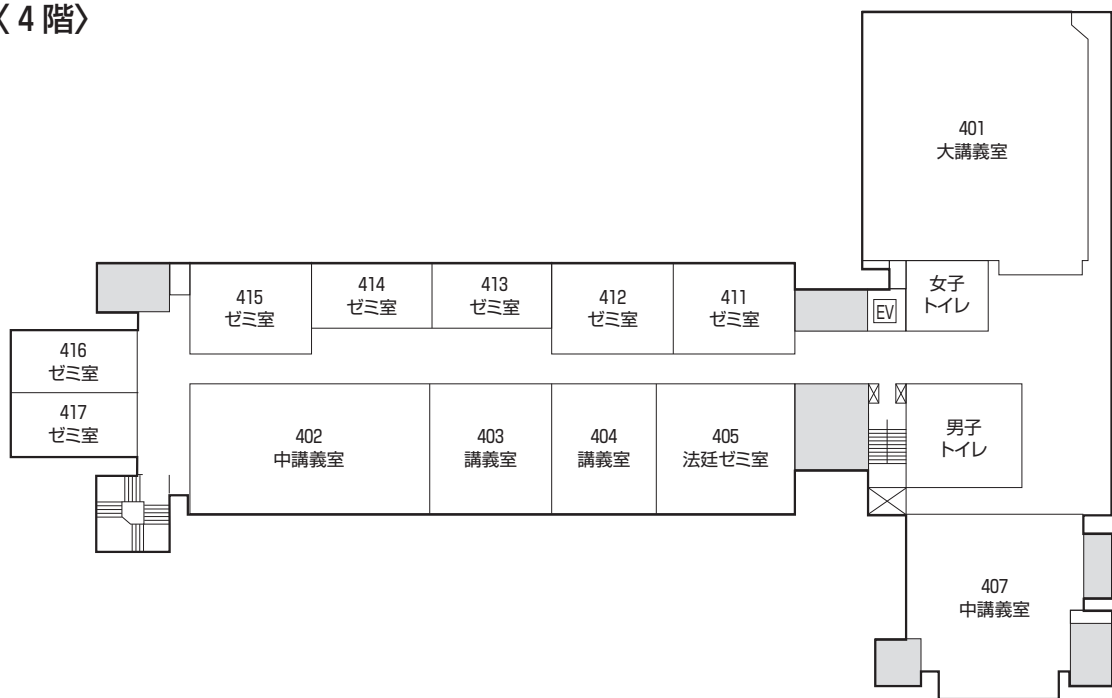
<2階>



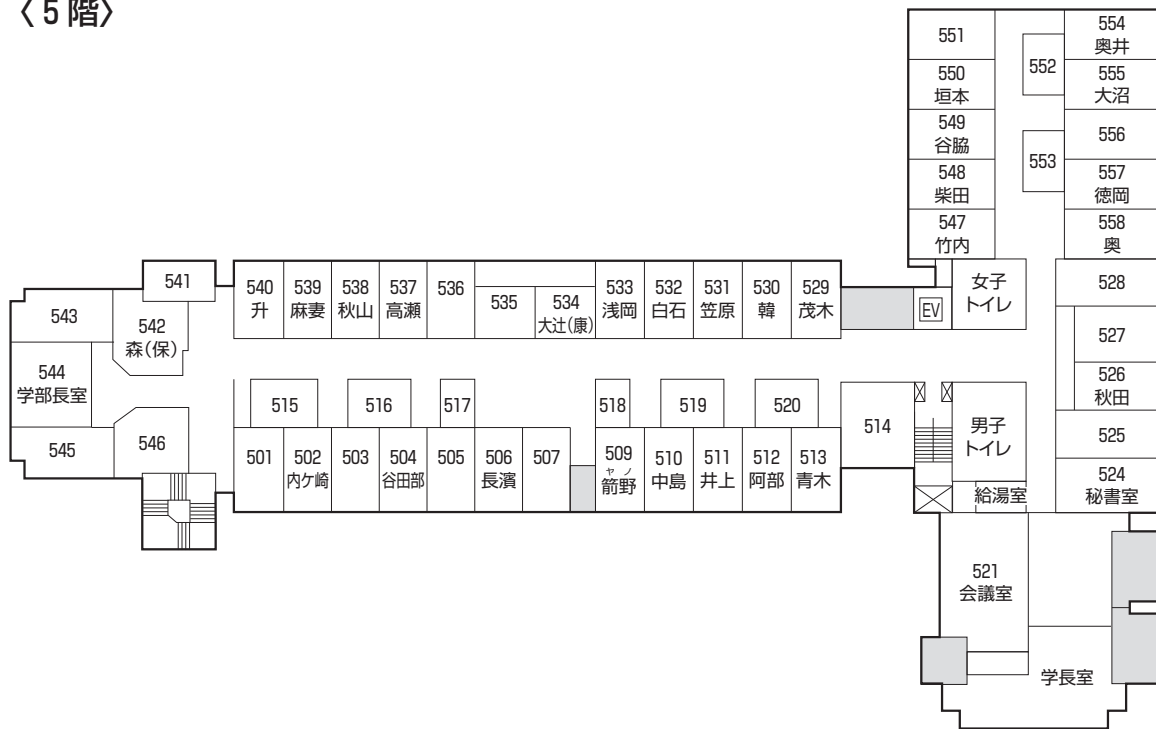
〈3階〉



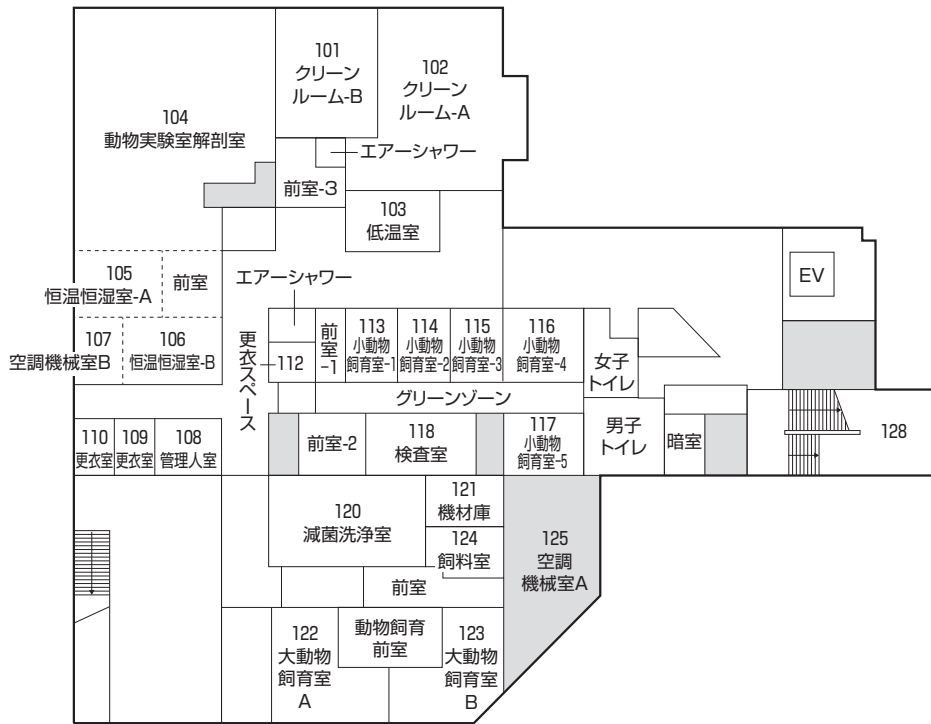
〈4階〉



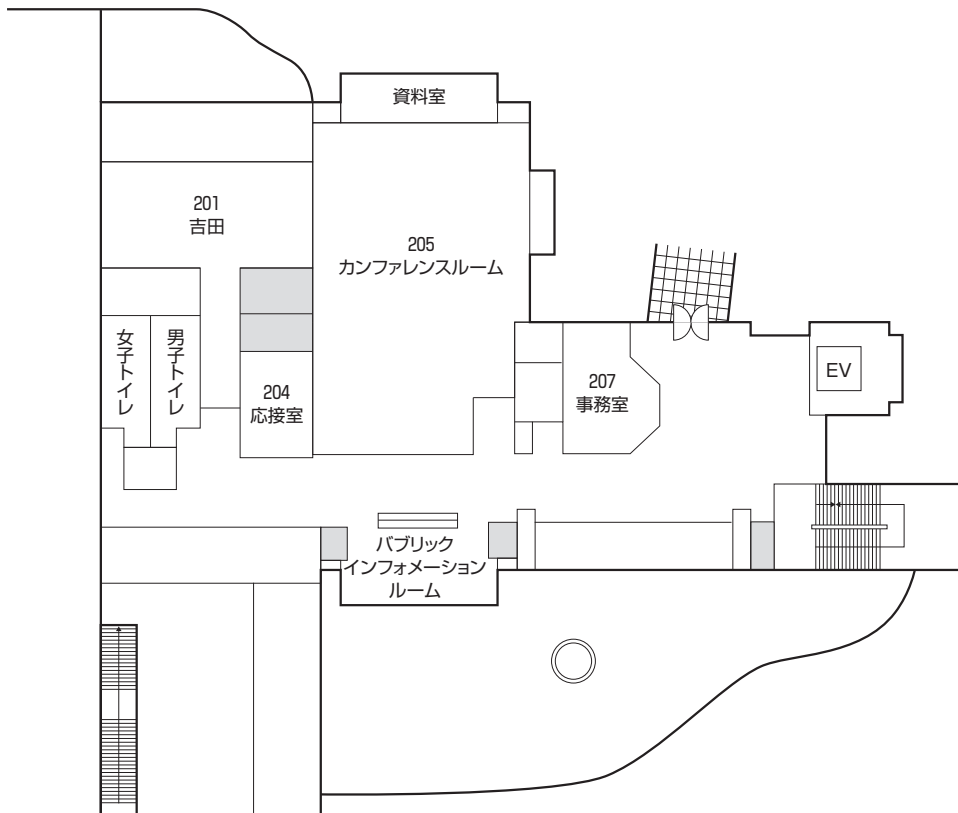
〈5階〉



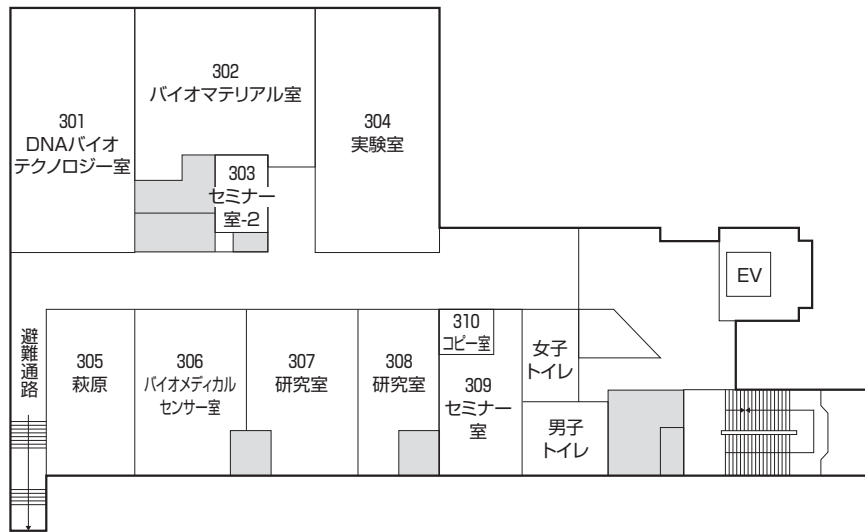
〈1階〉



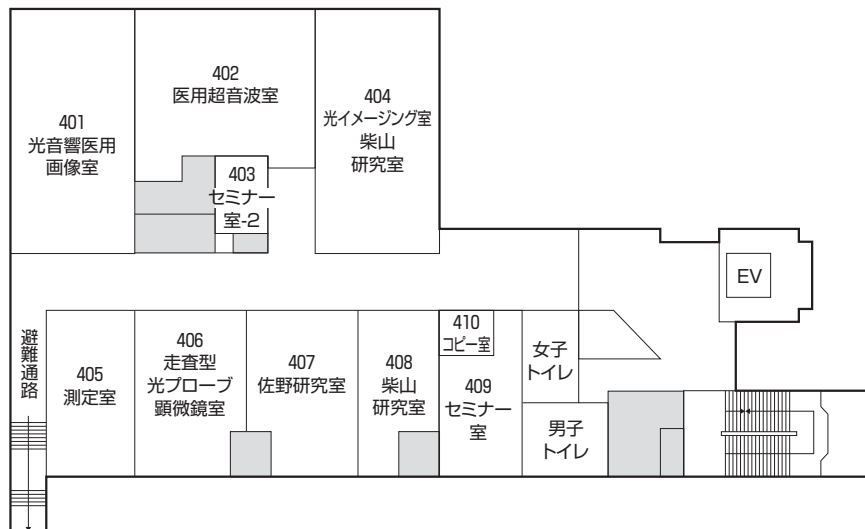
〈2階〉



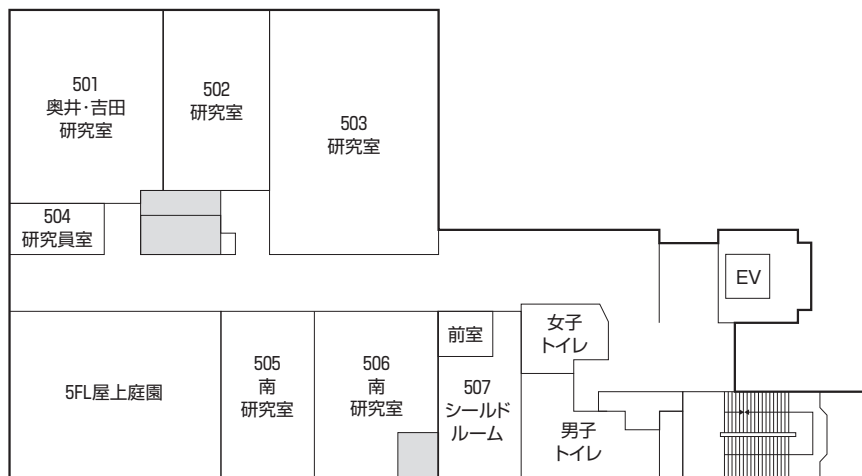
〈3階〉



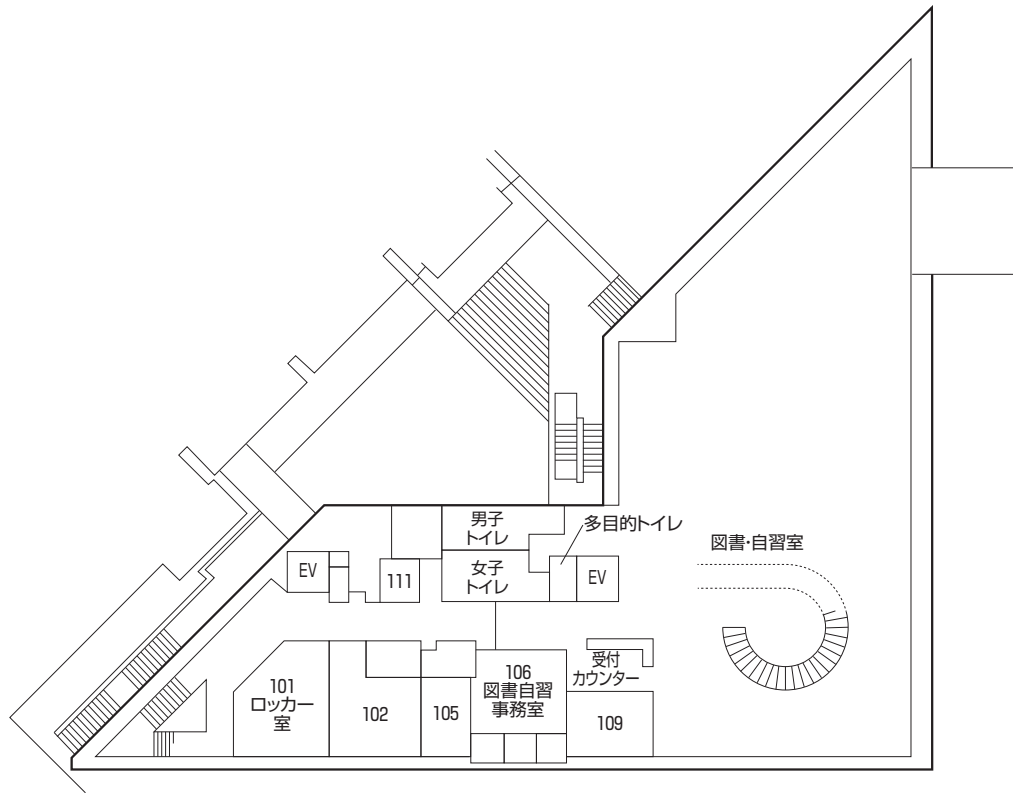
〈4階〉



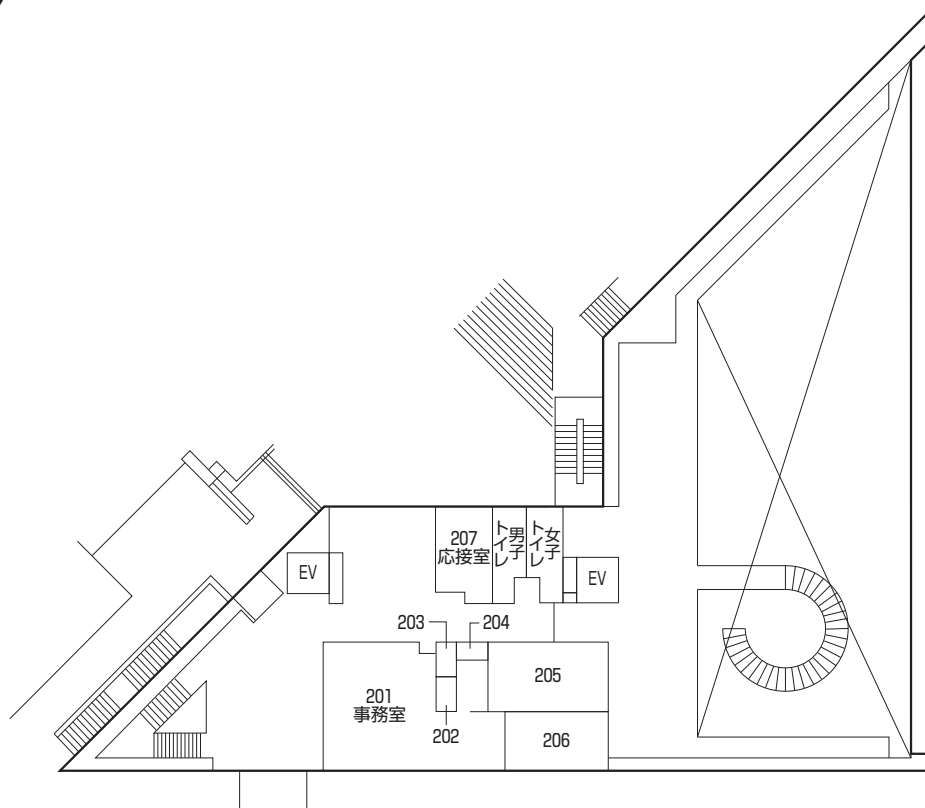
〈5階〉



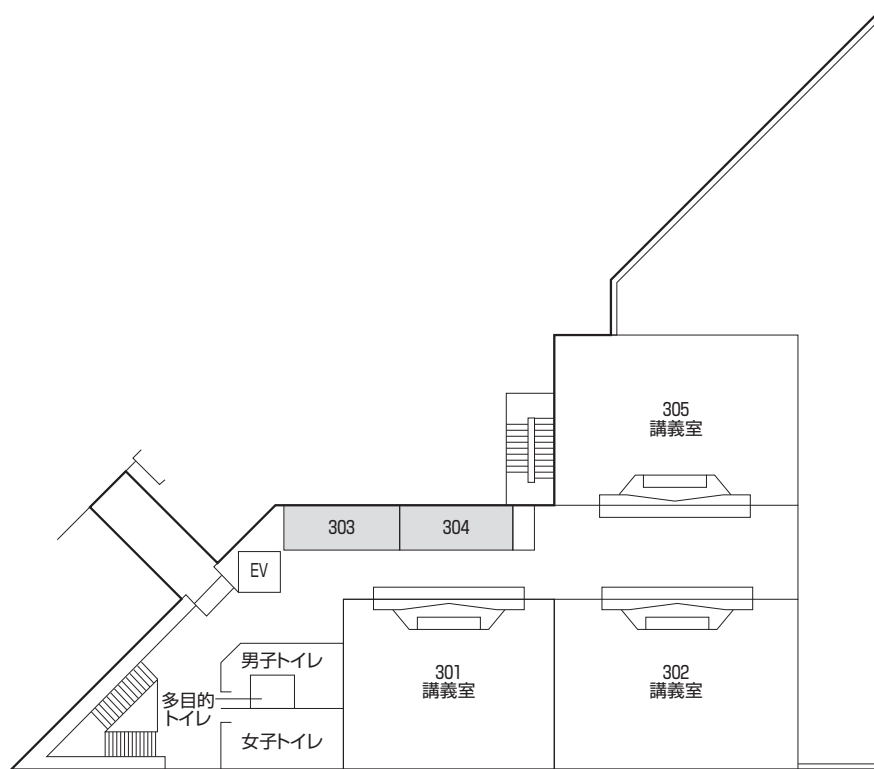
〈1階〉



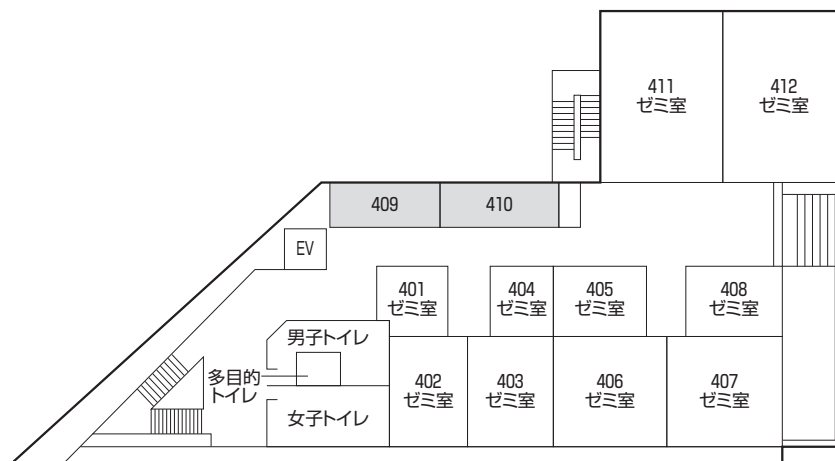
〈2階〉



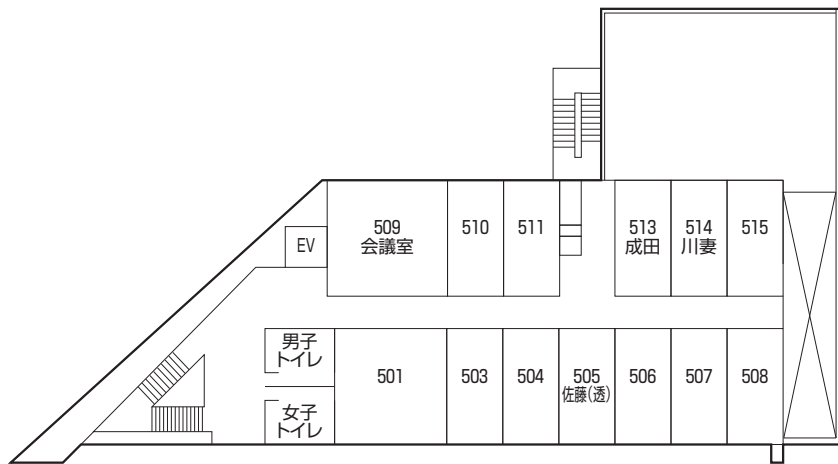
〈3階〉



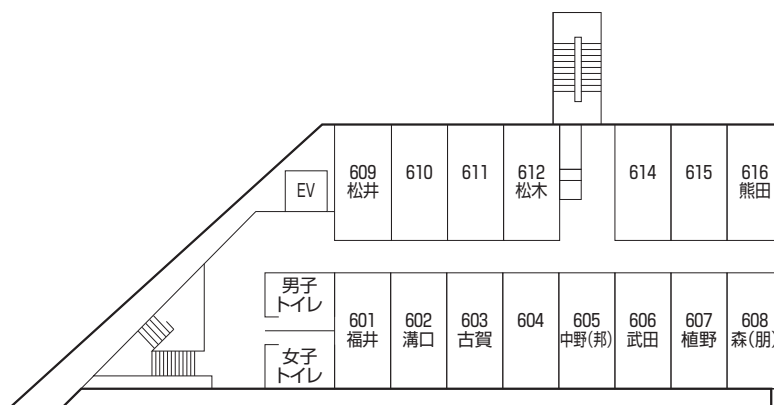
〈4階〉



〈5階〉



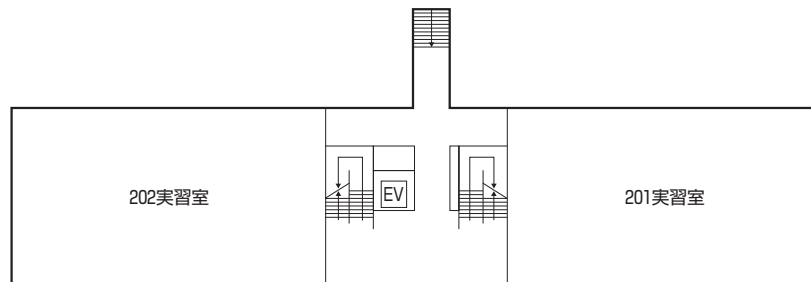
〈6階〉



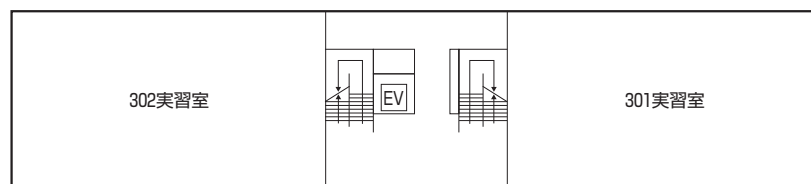
<1階>



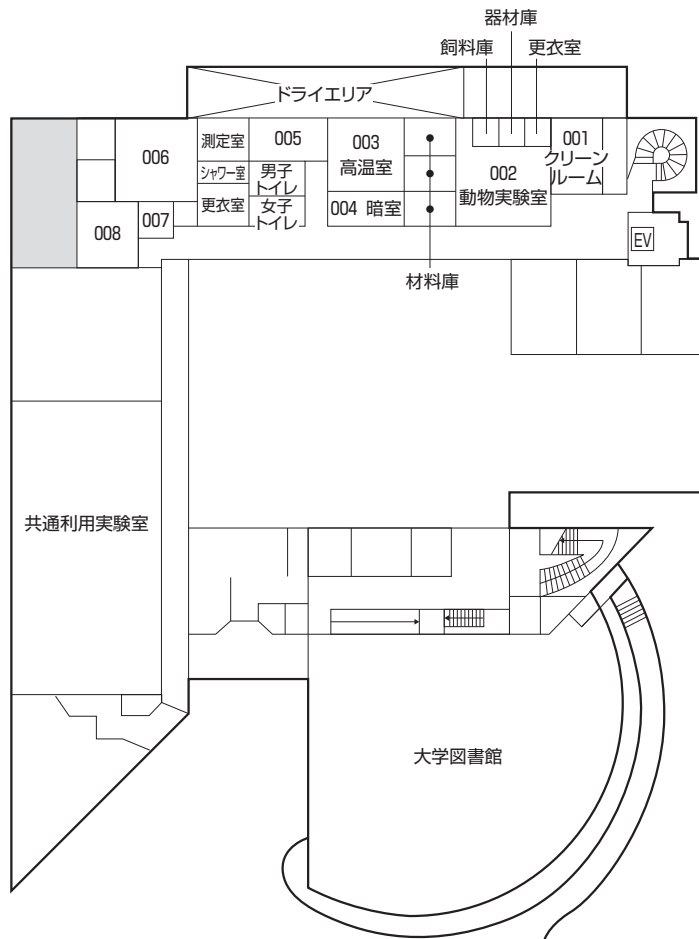
<2階>



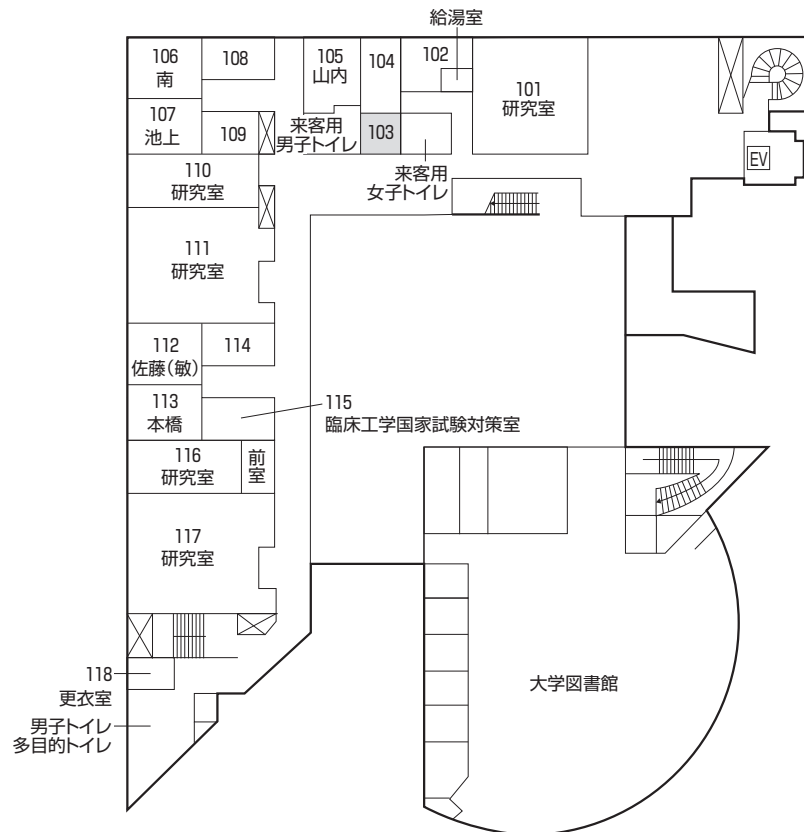
<3階>



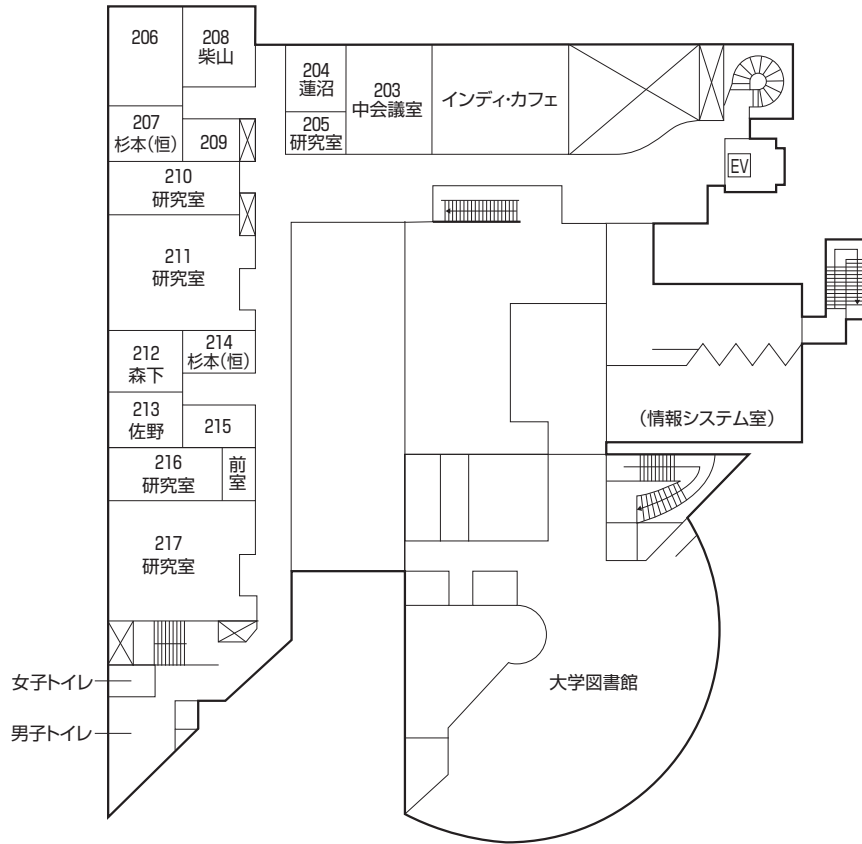
〈地階〉



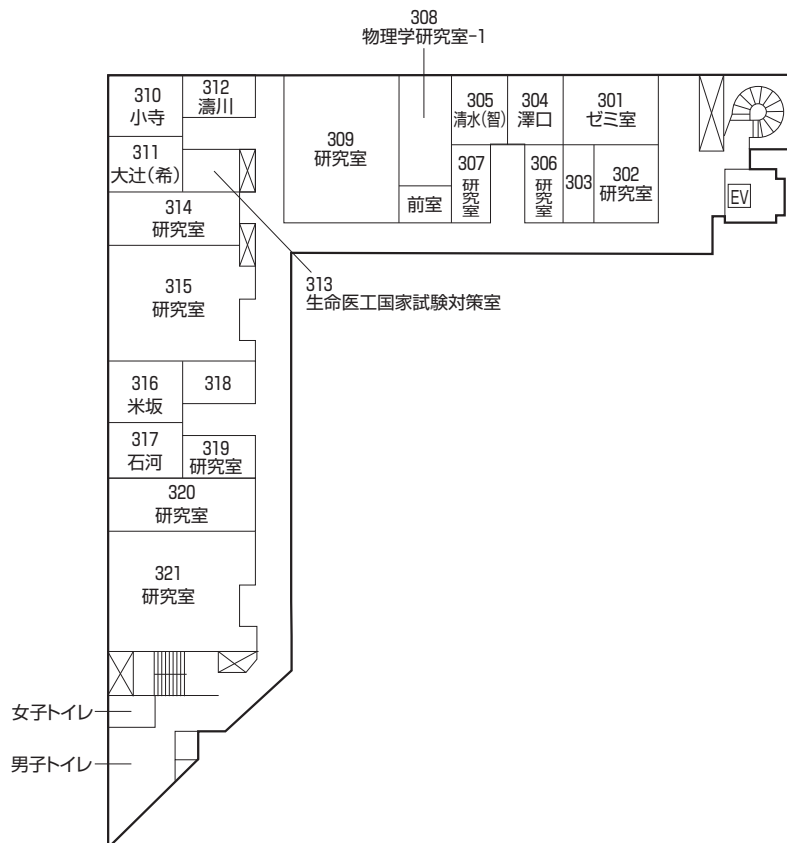
〈1階〉



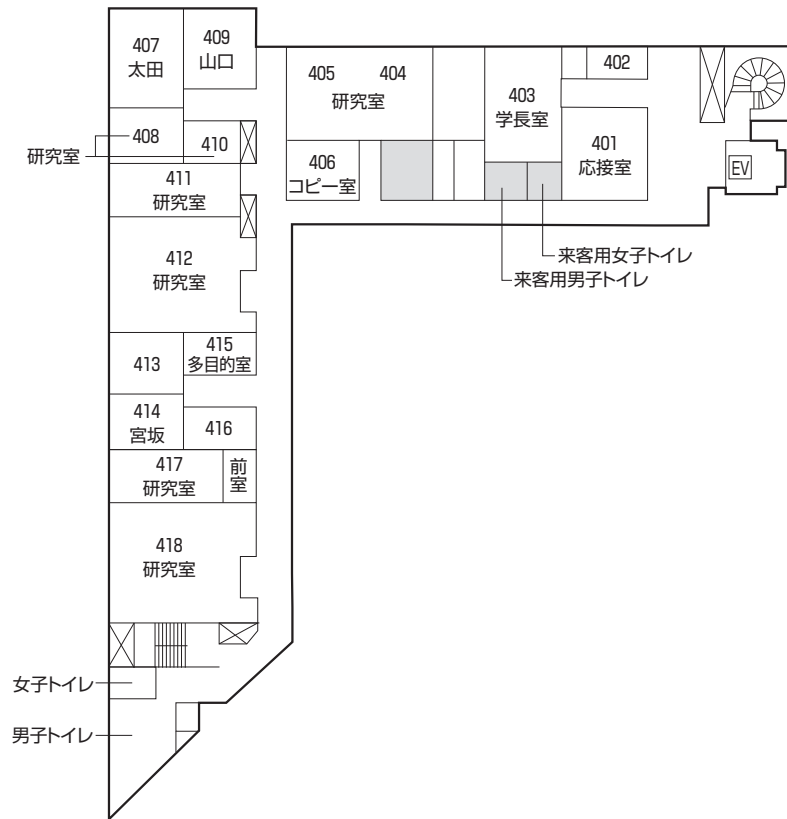
〈2階〉



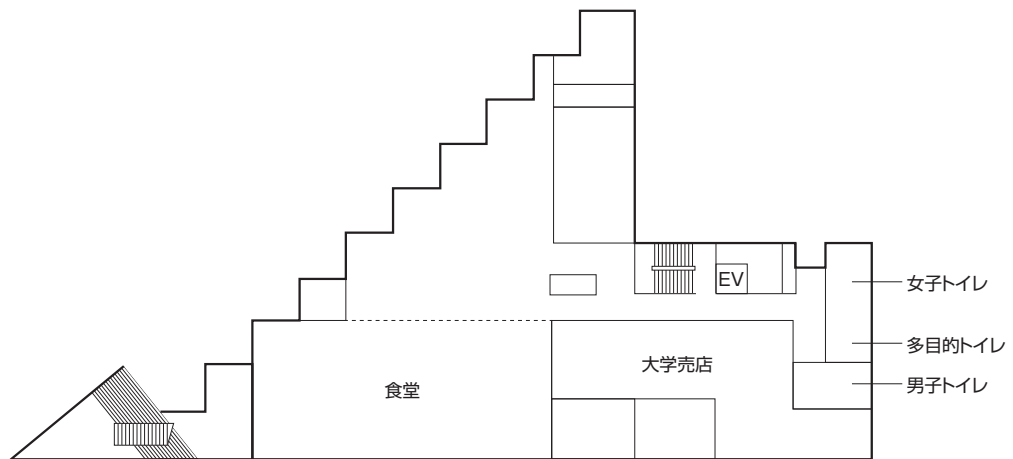
〈3階〉



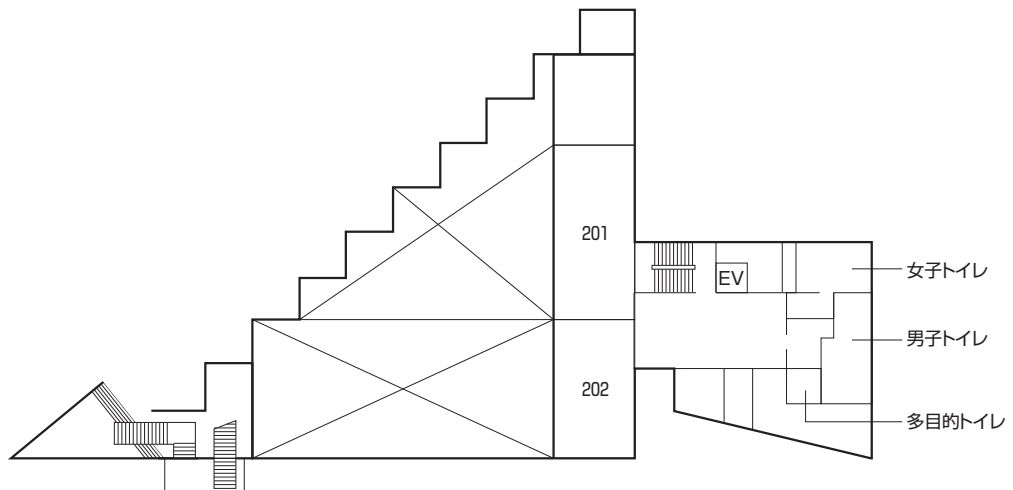
〈4階〉



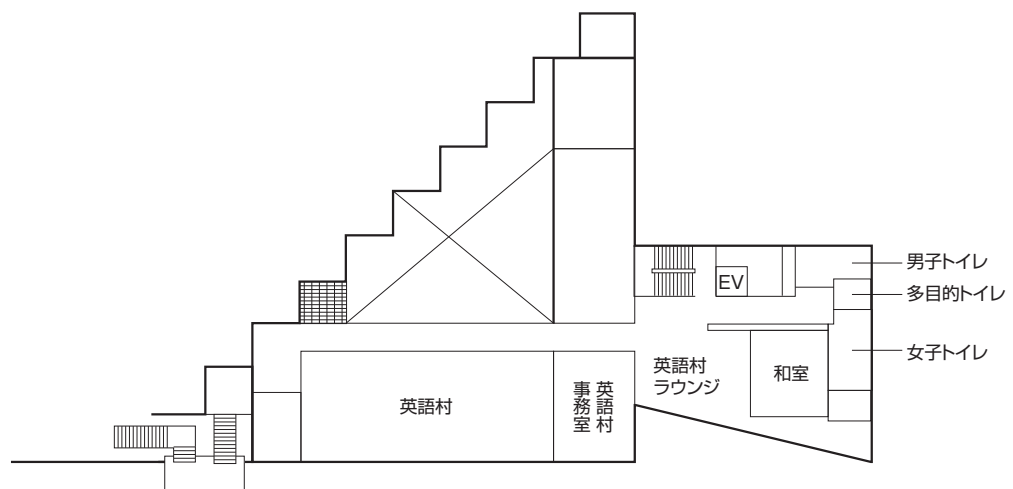
<1階>



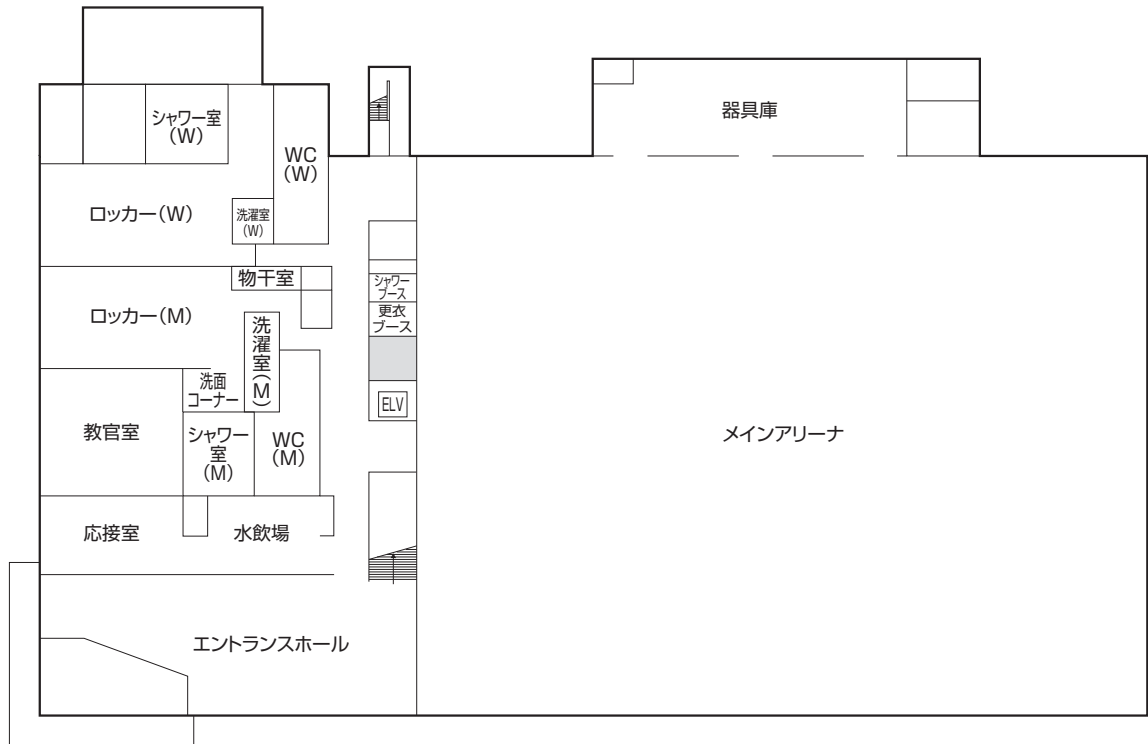
<2階>



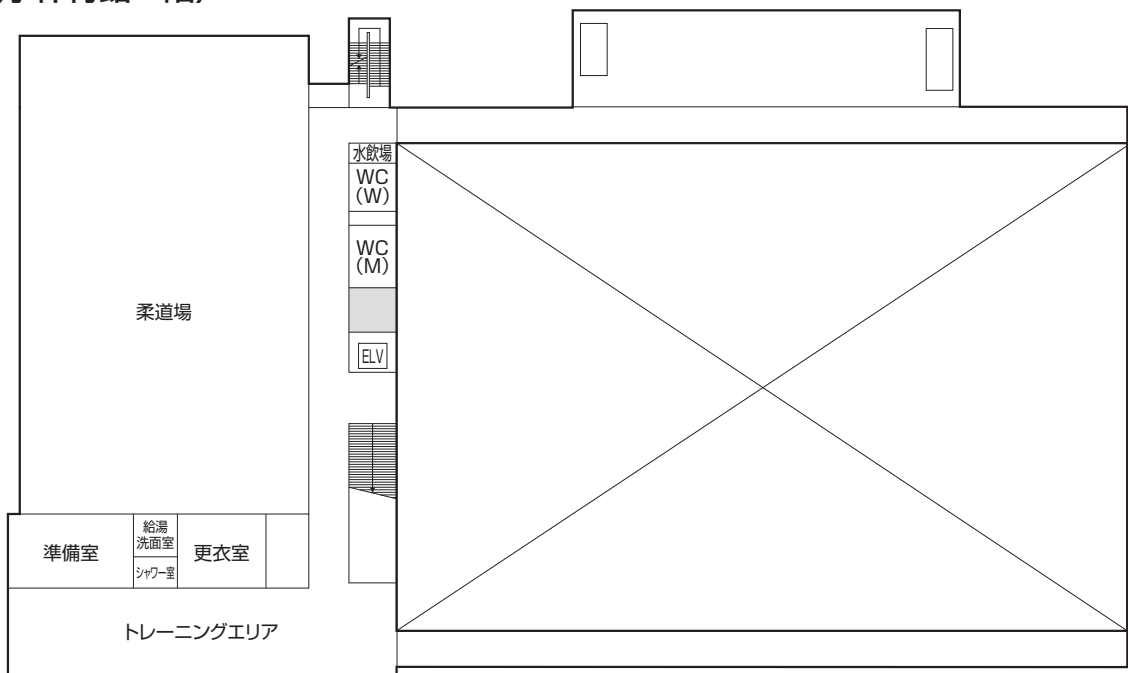
<3階>



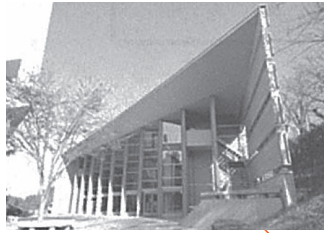
〈大学体育館 1階〉



〈大学体育館 2階〉



キャンパスマップ



交流会館



野球場



Ⅲ号館



大学体育館



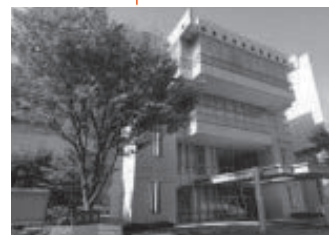
I号館



Ⅵ号館




大学図書館



Ⅱ号館



キャンパスマナーを守りましょう

- 学園内及び周辺道路は全域駐車・駐輪禁止です。
 - * 学生の自動車通学は禁止されています。
 - * バイク・自転車は所定の駐輪場に停めてください。外周道路（部分）の駐車は厳禁です。
- 学園内は全面禁煙です。喫煙は屋外の所定の喫煙所をお願いします。
 - * 歩きタバコや吸い殻のポイ捨てはやめましょう。
- バスロータリーでは、バイク・自転車は必ず一時停止し、常に安全運転に努めてください。
 - * 特にバイクでの事故が多発しています。スピードを控え、常に安全運転に努めてください。



総合体育館 メインアリーナ 外観
サブアリーナ

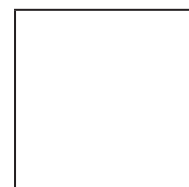
■ スポーツ科学部 教員連絡先一覧

No.	氏名	学科	研究室	内線	研究室 E-mail	専門分野
1	李 禧承 い ひすん ぎんじやう	教育	I-608	7845	heeseunglee@toin.ac.jp	教育方法学、教育工学
2	井口 成明 いぐち なるあき	教育	I-612	7080	nriguchi@toin.ac.jp	体育科教育学、保健科教育学、安全教育学、野外教育学、水泳指導学
3	今泉 隆裕 いまいずみ たかひろ	健康科学	I-614	7065	imaizumi@toin.ac.jp	日本文学、宗教学
4	殖田 友子 うゑだ ともこ	健康科学	I-605	7135	tueda@toin.ac.jp	スポーツ栄養学、健康マーケティング、食育
5	大伴 茉奈 おおとも まな	健康科学	I-519	2258	m-otomo@toin.ac.jp	機能解剖学
6	小笠原一彰 おがさわら かずあき	教育	I-511	2297	kazuaki@toin.ac.jp	水泳、コーチング学
7	岡本 大 おかもと だい	健康科学	I-506	7075	okamotodai@toin.ac.jp	ハンドボール、球技戦術論
8	尾山 裕介 おやま ゆうすけ	健康科学	I-613	7847	y.ooyama@toin.ac.jp	応用健康科学、測定評価学
9	加藤 知生 かとう ともお	健康科学	I-505	7078	tkato@toin.ac.jp	スポーツ医学
10	亀岡 聖朗 かめおか せいろう	教育	I-611	7720	skameoka@toin.ac.jp	教育心理学、環境心理学
11	河崎 賢三 かわさき けんぞう	健康科学	I-603	7062	kenzo@toin.ac.jp	スポーツ医学
12	川妻 篤史 かわつま あつし	教育	IV-514	7561	kawatuma@toin.ac.jp	カリキュラムマネジメント
13	河原 克宣 かわはら かつゆき	(客員)	I-523	7829	ka.kawahara@toin.ac.jp	高等学校教育、保健体育科教育
14	木原 洋一 きはら よういち	教育	I-512	2271	ykihara@toin.ac.jp	スポーツ教育学
15	木村 和宏 きむら かずひろ	教育	I-508	7079	kazukimura@toin.ac.jp	バスケットボール、コーチング科学
16	小山 桂史 こやま けいじ	健康科学	I-610	7846	koyakei@toin.ac.jp	陸上競技、スポーツバイオメカニクス
17	齋藤 れい さいとう れい	健康科学	I-624	7731	rei.saito@toin.ac.jp	スポーツビジネス論、スポーツマネジメント論、スポーツマーケティング論
18	桜井智野風 さくらいともぶ	健康科学	I-626	7851	sakurai@toin.ac.jp	運動生理学、スポーツ科学
19	佐藤 国正 さとう くにまさ	教育	I-621	7756	satoukunimasa@toin.ac.jp	バレーボール、スポーツ哲学
20	佐藤 豊 さとう ゆたか	教育	I-609	7061	yutaka.sato@toin.ac.jp	体育科教育学、体育・スポーツ行政学、野外教育学、教員研修
21	渋谷 崇行 しぶら たかゆき	健康科学	I-628	7852	shibukura@toin.ac.jp	スポーツ心理学
22	清水 由 しみず ゆ	教育	I-503	7348	yshimizu@toin.ac.jp	体育科教育学、初等教育学
23	谷本 直美 たにもと なおみ	教育	I-604	7063	tanimoto@toin.ac.jp	音楽科教育学
24	中野 英之 なかの ひでゆき	教育	I-521	7067	nakatee@toin.ac.jp	理科教育、地域生活学、惑星科学
25	成田 崇矢 なりた たかや	健康科学	I-510	7842	t-narita@toin.ac.jp	アスレティックリハビリテーション
26	濱田由起夫 はまた ゆきお	(客員)	I-523	7829	y_hamada@toin.ac.jp	小学校教育
27	日比野暢子 ひびののぶこ	健康科学	I-526	7781	nobuko.t@toin.ac.jp	スポーツ政策学、スポーツマネジメント学
28	廣川 充志 ひろかわ みつし	健康科学	I-601	7775	hirokawa@toin.ac.jp	運動生理学
29	廣澤 聖士 ひろさわ せいじ	健康科学	I-524	2280	s-hirosawa@toin.ac.jp	情報処理
30	廣瀬 立朗 ひろせ たつろう	健康科学	I-606	7755	thirose@toin.ac.jp	運動生化学
31	福浦 一男 ふくaura かずお	健康科学	I-513	7077	fukuura@toin.ac.jp	比較社会学、文化人類学
32	溝上 拓志 みぞかみ ひろし	健康科学	I-527	7786	hmizokami@toin.ac.jp	情報戦略
33	宮津 大蔵 みやづ だいぞう	教育	I-507	7073	miyazu.d@toin.ac.jp	国語科教育学
34	吉鷹 幸春 よしたか ゆきはる	健康科学	I-509	2259	yositaka@toin.ac.jp	柔道、コーチ学
35	吉原 昌子 よしはら しょうこ	(客員)	I-523	7829	syoshihara@toin.ac.jp	中学校教育、保健体育科教育
—	学部長室	—	I-622	7849	—	—

レポート提出用カバーシート

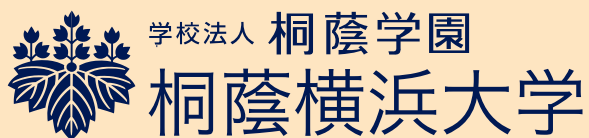
スポーツ科学部

レポート題目		
所属学科・学年	<input type="checkbox"/> : スポーツ教育 <input type="checkbox"/> : スポーツ健康科学	年生
学籍番号		
氏名		
授業科目名		
	年度 前期 ・ 後期 ・ 集中講義	
担当教員名		
提出日	年 月 日 ()	





2024年度 スポーツ科学部
履修要項



〒225-8503 横浜市青葉区鉄町1614